597-481
1200501528259
597
-81

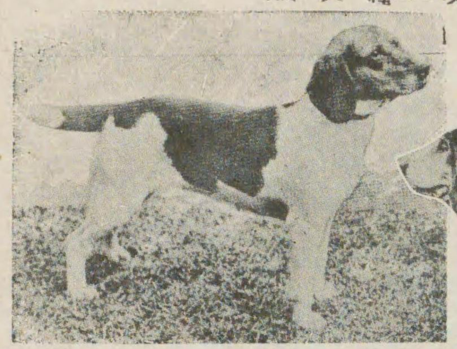
良犬を得る秘訣

益田甫
高橋虎雄 著

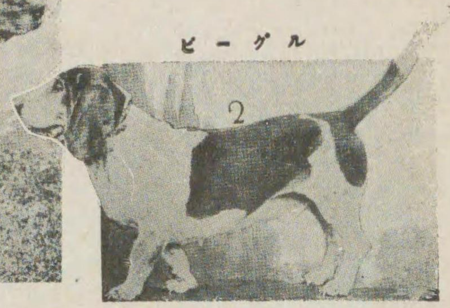
東京 春陽堂版

昭和七・四・五・三

（犬覺嗅——種犬獵）



ビーグル



（上左）ハリアー

ブラットハウンド

（獵犬種——快足犬）

ボルゾイ

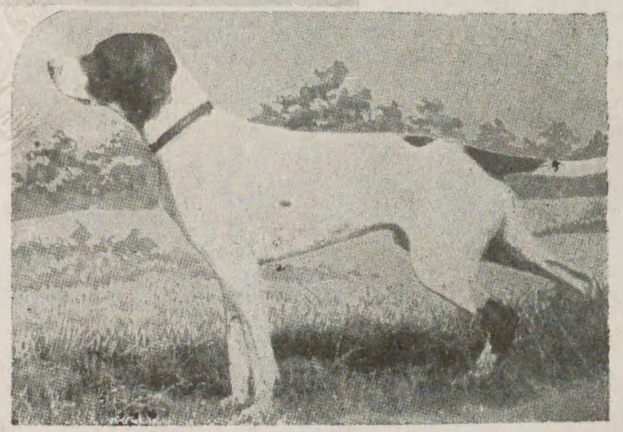
グレイハウンド

ホイペット

（獵犬種——鳥獵犬）

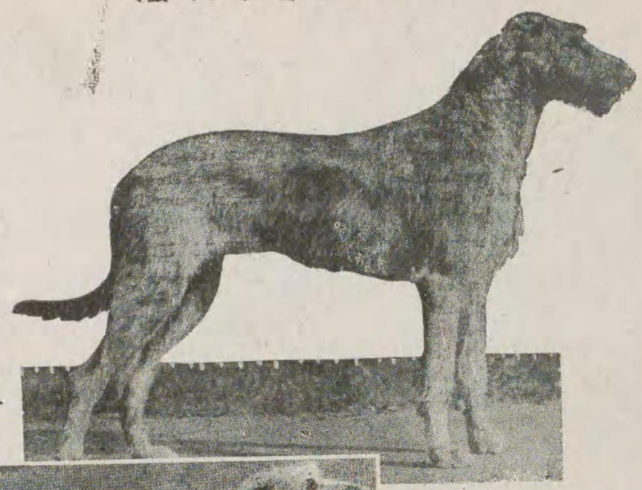
アイリッシュ・セッター

イングリッシュ・セッター



イングリッシュ・ポインター

（犬足快――種犬獵）



アイリッシュ・ウルフハウンド

スカッチ・デイヤハウンド

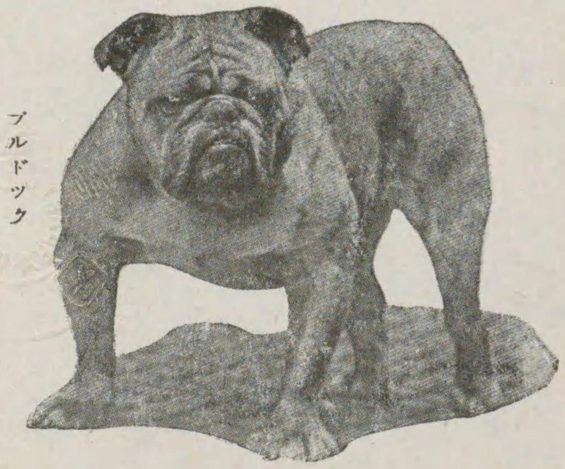
アフガン・ハウンド

十六匹の愛兒を育てるウルフハウンド

（実用犬）

マスチツフ

ブルテリヤ



ブルドツク

「犬猟鳥——種犬猟」

種三ルーニパス

クラムベー・スパニエール

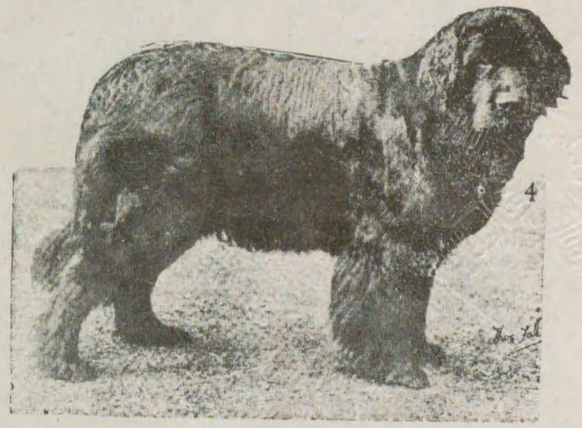
コツカー・スパニエール

ルーニパ・スーガンリプス・ユシツリグン

（非獵犬種——實用犬）

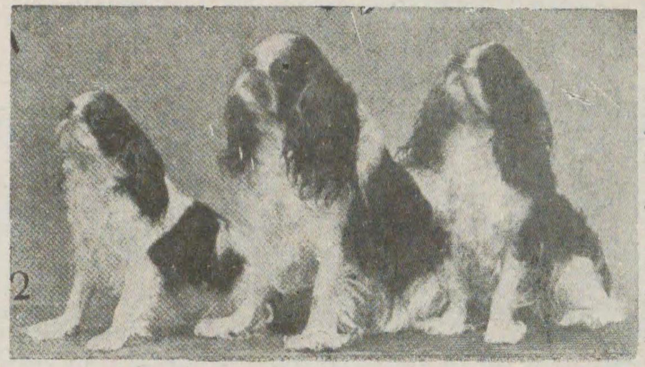
ニューフアントランド

セントバーナード



ゲレート・デーン

（非獵犬種——愛翫犬）

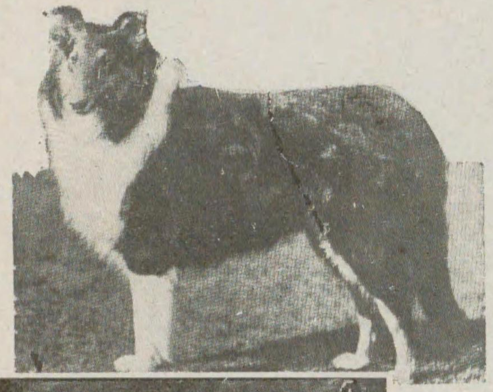


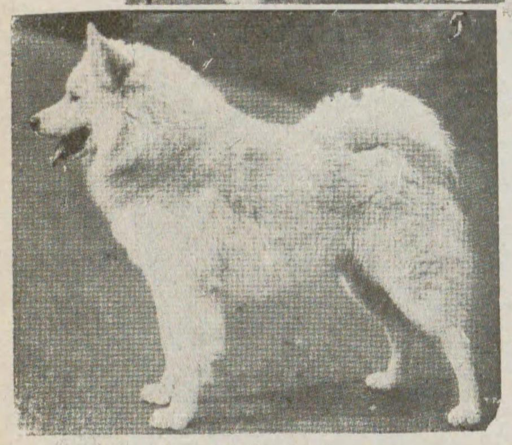
ヤング・チャールス・スパニエール

黒色プードル

白色プードル

（犬用實）



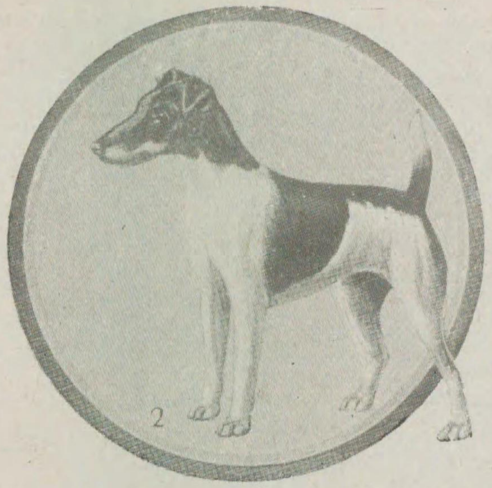


コリイ

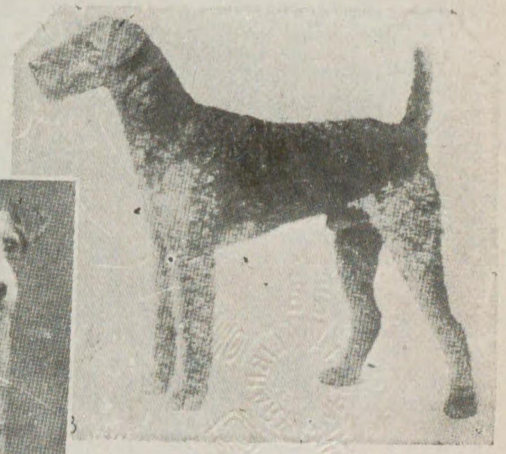
サモイユー1

シエパアード

（種犬獵系ヤリテ）



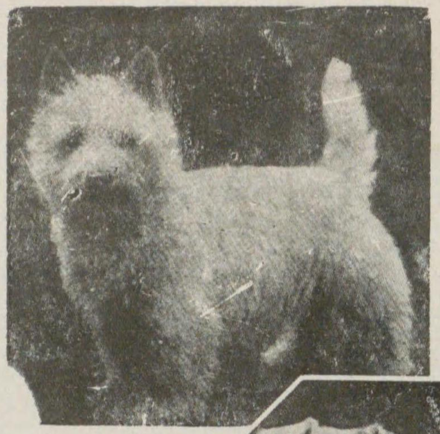
フオツクス・テリヤ



ヤリテ・ルーデヤエ

ヤリテ・スクツオン・ドアーヘアイン

（種犬獵系ヤリテ）



ウエスト・ハイランド・ホワイト

ンーリハム・テリヤ

アイリツシユ・テリヤ

（犬翫愛）

イタリアン・グレイハウンド

ノレンチ・ブルドック

グリフオン・ブリユセル

S-97-481
b22-2

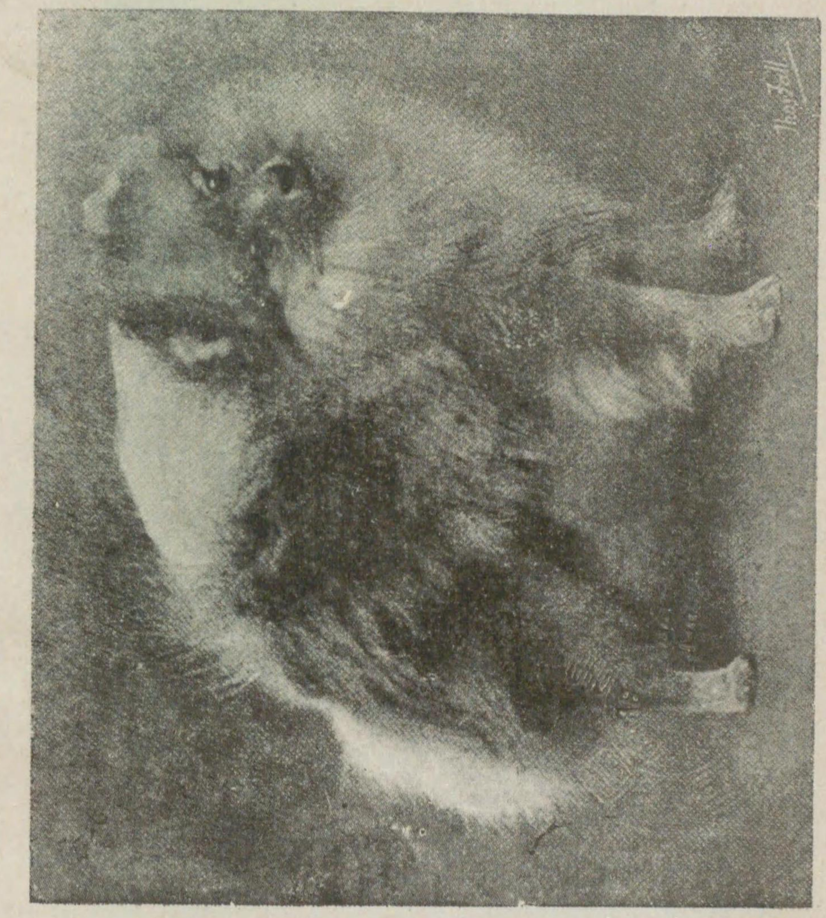
目次

第一講　畜犬趣味

一　畜犬の實用的價値……一
二　畜犬の選擇……五
三　犬に對する理解……八

第二講　良い犬を育てる秘訣

優秀な犬を求めるには?……一三
一　母體の撰生……一六
犬の發情期……一六
交尾の時期……一八
不妊の原因……二〇
交尾後の注意……二三
二　姙娠中の心得……二五
犬の妊娠期間……二六
妊娠中の手當……二八
特別の用意……三一
三　出産に就いて……三三
分娩時の注意……三三
産後の心得……三六
産癖の惡い犬……四〇
仔犬の選び方……四五
四　仔犬の育て方……四六



可愛らしい愛玩犬ポメラニアン種

乳仔の發達道程……四六
仔犬の罹り易い病氣とその豫防……五〇
斷尾斷耳の時期……五四
五　仔犬から成犬え……五七
第三講　畜犬の衣食住問題
一　犬の住宅問題に就いて……七五
屋外住宅の必要條件……七五
A、固定式犬舍の構造……七六
B、移動式犬舍の構造……七九
屋内住宅の必要條件……八二
二　犬の着物の手入れ……八四
第四講　畜犬の四季の衛生
一　春の衛生……九七
精神的變化に對する注意……九七
皮膚に對する注意……九九
最も危險の多い成長期……一〇七
成長期の食物……一一二
成長期の手當……一一六
惡癖の因を作るな……一一九
犬の入浴法……一二五
犬のお化粧に就いて……一二七
二　犬の食物問題に就いて……一二九
犬の食物の適不適……一三一
食物が性質を左右するか……一三三
二　夏の衛生……一三三
梅雨期の注意……一三四
盛夏に於ける注意……一三六
三　秋の衛生……一三九
晩秋の危期……一四〇
四　冬の衛生……一四一
第五講　犬の病氣と家庭療法
犬の病氣に對する心得……一四七
犬瘟熱……一四九
心臟糸狀蟲症……一五四
流行性感冒……一五六
胃腸病……一五七
最も必要な風邪の豫防……一六三
食物に就いての注意……一六五
內臟寄生蟲症……一六八
皮膚症……一七三
外傷、其他……一七七
犬の手當に就いての注意……一七八
第六講　犬の種類とその用途
犬種の分類に就いて……一八一
A　獵用犬……一八二
a　獵犬種……一八三
イ　鳥獵犬……一八三
ロ　快足犬……一八五
ハ　嗅覺犬……一八四
b　テリヤ系獵犬種……一八七
B　非獵用犬……一八九
a　實用犬……一八九
イ　護身犬……一九六

ロ 番犬……一七〇
ハ 引用犬……一七五
ニ 警察及軍用犬……一七七
第七講 狂犬病の話
狂犬病とはどんな病氣か……一八九
狂犬病の徴候……一九一
第八講 番犬の仕込み方
番犬の價値……一九七
附錄
副業としての飼犬
副業的畜犬の可否……二〇五
牡犬による副業……二〇八
ホ 牧羊犬……一七九
ヘ 愛玩犬種……一八一
狂犬病の豫防……一九三
番犬的教育法……一九九
牝犬による副業……二一三
副業家の心得べき德義……二一五

良犬を得る秘訣

第一講　畜犬趣味

一　畜犬の實用的價値

ある強盜が警察に捕縛されて來て係官に云つたさうです。

「私はどんなは嚴重な戸締りをしてある家でもわけなく忍び込んでみせますが、どうも犬の飼つてある家だけは苦手です。」

此の一言を聞いたゞけで、私達は十二分に畜犬の實用的價値が認められると信じます。それが假令あまり番にはならない獵犬であつても、たゞその家に犬がゐると云ふ事それだけで、もう泥棒よけには十分の效果があると思ひます。此の頃の新聞をひろげてみると、毎朝毎夕恐ろしい强盜記事の掲げられてゐない日があるでせうか。私は諸外國を歩いて來た經驗から考えてみて、日本程完備した警察權を持つてゐる國はありません。それにもかゝわらず斯くの如く澤山の强盜事件があるのです。世の中の進步發達につれて、强盜事件などと云ふものが增加しやうとも、減じ

るきずかひはありません。「善貨は滅び、惡貨は榮える」と經濟學者が絶叫した如く、文明の發達とは反比例をして、道德歡念は衰徵して行くのが我々の世の姿であります。

此の上世の中が惡化して行つたなら、私達はどうして財物の安全を保つたらよいのでせう。それは飼主に最も忠實な犬にたよるより他に道はないと私は思ひます。

犬が飼主に對して忠實であると云ふ事は、今更此處に私が書くまでもなく、昔から「三日飼はれゝば主人の恩を忘れぬ」と云ひ傳えられてゐる程でありまして、飼つてみて此の位可愛らしい動物は他にありますまい。昔から今日に至るまで、犬が主人の危難を救つたなどゝ云ふ物語は、枚擧に遑ない程であります。

私が獨逸に居りました時、私の知人の家で飼つてゐたコリイ種の犬は、實に模範的な子守役を致して居りました。その家庭では毎日赤ちやんを乳母車にのせて、庭の芝生に出して置くのです。するとその側に愛すべきコリイ君がちやんとついてゐて、お守役をして居ります。赤ちやんが泣き出すと彼は乳母車のハンドルを口にくわえて庭中をひき歩きます。それでも泣きやめないと、今度は玩具を口にくわえてチンチンをしてみせるのです。それで大概御機嫌の惡い時でも泣きやんでしまうのです。もつと偉い事は、お乳をあげる時間をちやんと覺えてゐて、その時刻になる

とお臺所の外え行つて、自分が餓を訴えるやうな聲をして吠えるのです。これではとても人間の子守などはかなはないではありませんが。赤ちやんが泣いたあとで、涙や水ぱななどが出てゐるのを見ると、彼は綺麗に甜めて掃除をしてやります。私はそんなところを見てゐますと、涙がにじみ出るやうな感激をいつも覺えるのでありました。

犬と云ふ動物は元來子供が非常に好きなのです。現在私の飼つてゐるスパニエール種の犬などは、私の隣家に子供衆のある家族が移轉して來ますと、そのお宅にばかり遊びに行つてゐて、なか〳〵歸つて參りません。子供たちが面白さうに遊んでゐますと、その傍で耳をだらりと下げて如何にも可愛らしくてたまない、と云つた樣な表情をして、ぢつと見詰めてゐるのです。そして子供のする事でしたら、どんなひどい事をされましても、されるがまゝに任せてゐるのです。

お子さんをお待ちの御家庭などでは、是非共犬をお飼ひになるべきだと思ひます。たゞ單に好い遊びの友達になると云ふ事ばかりでなく、此の位好い忠實な護衛者はあるまいと思ふのです。のみならず、幼い子供は親とか兄姉とかから愛されはしますが、他の者を愛すると云ふ機會が殆どありません。愛されると云ふ受身の經驗ばかりでなく、愛すると云ふ發動的な氣持をも幼い頃から養成する對照として、犬程好いものはないと思ひます。そして愛を施して犬ほどそれに酬ゐ

る氣持を持つてゐるものまありません。その犬の習性がいつか幼い心にも反影して、愛される者の道をも不知不識の間に會得するやうになるでありませう。

其他、獵犬ならば狩獵の好伴侶として役立つ事云ふまでもありません。歐洲犬戰に於ける軍用犬の殊勳に就いては、幾種もの戰時記錄が最も雄辯に物語つて居ります。警察犬の勇敢にして敏感な動きぶりなども、近頃の新聞紙が時々私たちに報じてくれます。瑞西のセント・バーナード山では、セント・バーナード種の犬を凍死者救助用としてかなり昔から飼つて居ります。アメリカの海水浴場ではよくニューハウンドランド種の犬を、溺者救助用に飼つてゐるのを見かけます。五六頭のコリイ種は、能く一萬頭の羊を飼ふと云はれ、十頭のエスキモー種は百貫近い荷を積んだ橇をひいて、能く氷上を走ると云はれて居ります。

畜犬趣味は他の小鳥道樂とか、金魚道樂とか、或は萬年青道樂とか云ふ單なる贅澤なお道樂でなく、近代生活に缺くべからざる伴侶であると私は思ひます。他の道樂が猫の目のやうに流行を追つて盛衰してゐる時、此の畜犬趣味が益々強い底力を持つて發展して行くのも、いはれなき事ではないと思ひます。畜犬趣味の持つ不易の實用的價値が、その貴い永遠性を造り出してゐる事は申すまでもありますまい。

二　畜犬の選擇

それでは一つ犬を飼ふ事にしやう。と云ふので犬屋の店に馳けつけるとします。そして目下の流行はシエパアードだと聞かされて、かなり高價な犬を買つて參ります。ところが一ケ月か二ケ月もすると、だん〳〵と身體が痩せて來て氣力がなくなつて行く。どうもおかしいと思つてゐるうちに死なしてしまつた、などゝ云ふ事はざらにある悲劇なのであります。さうした苦い經驗に懲りてしまつて、犬を飼ふのも好いがどうも育たないから面白くない、などゝ云つてやめてしまう方も隨分あるやうです。それは決して育たないのではなくて、育て方を知らないからなのであります。小鳥には小鳥の飼ひ方があり、犬には犬の飼ひ方がある。その飼ひ方の根本を知らずに飼ふのは、愛するが爲めに飼ふのではなくて殺さんが爲めに飼ふのも同じ事であります。飼ひ方に就いては後講に順を追つて述べる事に致しますが、その前にもう一つ犬を飼ふ前に心得て置かねばならぬ一條件に就いて述べなければなりません。それは如何なる犬を飼ふべきかと云ふ問題であります。此の飼犬の選擇をあやまつたが爲めに、折角育つべき犬を殺してしまふと云ふ事も

かなりある事實なのであります。

「私の家には男手が少なくて物騒だから、なるべく大きな丈夫さうな犬を飼ふ事にしませう」などゝ云つて、大きな犬を飼ふ方があります。御主人は毎日多忙なので、奥さんなり、女中さんなり、或は娘さんなりが犬の世話をみる事になります。かう云ふ場合には、十中の七八迄は失敗に終るものであります。何故ならば體型の大きな丈夫さうな犬程、充分な運動が必要なのであります。大きい程喰べる物も餘計に喰べますから、それを消化する程の運動が必要なのは云ふまでもない事ではありませんか。ところが御婦人がお世話をするのではとてもそれらの犬に充分な運動などさせられるものではありません。一日一里近くも散歩をさせたりしなければならず、途中他の犬をみかけて喧嘩にでもならうものなら、それこそどうする事もできません。從つて運動不足から消化不良を起し、榮養不良に陷つて行くと云ふ結果になるのです。御婦人がめんどうをみる犬でしたなら、テリヤとか、スパニエールとか、せい〳〵で中型のエヤデール・テリヤ、コリーあたりまでの大きさの犬を選ぶべきであります。飼ふべき家の狀態と云ふ事を考慮に置いてお飼ひになる事が、先づ必要であると思ひます。

それからもう一つはロケーションの問題であります。例へば都會のまん中に、人家稠密した中に家を持たれる方が大型の犬を飼ふ事もいけません。如何に人手がありましても、電車や自動車の走り廻る中を、悠々と犬を引張つて運動をさせて歩くと云ふ事はなか〳〵困難な事です。從つて自然と運動が憶却になり、不足がちになつて參ります。ですから都會地で飼ふ犬は小型が最も好く、中型でも少し大きい部類の犬を飼ふには適しません。大型の犬は郊外に相當廣い庭でも持たれる方か、さもなければ近くに野原などを控えた所に家を構えた方で、男手のあるお宅でなければなりません。

又、犬の種類に關する智識を全く度外視して飼はれる事もいけません。倒へばセツターとか、ポインターとか云ふ獵犬をお飼ひになつて、家の護衛をさせやうとなさる方なども間々見受けられます。そして「家の犬はどうも人なつつこくて困る。あれでは番にも何にもなりはしない。」などゝ苦情を云はれるのです。獵犬には獵犬特有の先天的の性質があります。その性質は狩獵に用ひてこそ役に立つのでありまして、それを護衛だけに飼ふと云ふ事は、寶の持腐れどころか、全く見當違ひと云ふべきでありませう。獵犬は鐵砲を持つて自分をつれて行つてくれる人に對しては、それが普段飼はれてゐる主人でなくても、忠實に獵の働きをして助けなければならないのです。又氣が荒い爲めに、獵場え行つて他の犬と喧嘩を始めるやうでもいけません。從つて獵犬は

人なつつこく氣がやさしいと云ふ事をその特質とし持つてゐるのです。

犬の種類と特質に就いては、後の項でなほ詳しく述べるとしまして、此處ではたゞ無闇に犬を飼つても、決して飼主の意を滿たしてくれるものではないと云ふ事を述べて置きませう。

三　犬に對する理解

「犬を飼ふのも好いが、無闇に人に咬みついたりされると面倒で困る。」と云ふ聲を私は屢々聞かされます。又、實際に犬の咬傷危害はかなり頻繁にあるやうであります。これはどうも外國にはあまりない事で、日本に於ては頻繁に起る事件なのです。

外國の犬も日本の犬も、犬としては變りはない筈ですが、どうして日本でばかり此の忌むべき事件が多く起るのでせう。私は思ふのです。これは犬が咬みつくのではなくて、人間が咬みつくやうに犬をしつけてしまふのではないでせうか。歐米人と日本人とは、どうも犬に對する觀念が違つてゐるやうに思はれます。歐米人が犬を飼ひますのには、全く家族の一員の如き愛をもつて待遇し、心からの親しみを犬に寄せてやりますが、日本人はさうでなく、いつも心の一隅に犬に

對する恐怖を抱いて、敬遠的態度で犬を飼つてゐるやうに思はれるのです「飼犬に手を咬まれる」など、云ふ諺が如何にもよく畜犬家の心理を語つてゐると思ふのです。やさしく忠實にはみえるけれども、一つ間違えば咬みつかれるかも知れないのだ、と云ふ潛入志をもつて犬を見てゐるのではないでせうか。

私は此の心持が犬を荒くさせる最も大きな因だと思ひます。今日では犬の心理の中に殆ど野性はないと云つて好いのです。勿論何千年の昔には、犬も野に餌を漁り、力をもつて生活力を支えなければならなかつた時代はあつたでせう。が、その後幾千年の習慣によつて、彼等は全く野獸から去つて、家畜となりきつてしまつたのです。彼等は今、人の力をたよらなければ生きて行かれない動物になつてゐるのです。從つて彼等の人類に寄せる親しみは、生命的なものなのであります。

犬の方では命がけで人にたより、人に親しまうとしてゐるにもかゝわらず人の方ではどうかすると咬みつかれるかも知れないと云ふ心で敬遠したのでは、その間に完き心の融和がとれるわけがないではありませんか。

歷史をふり返つてみますと、歐米人は遊牧の民を祖先に持つて今日に發展した國民であり、日

本は豐葦原瑞穗國の名が示す如く、農業國として今日の發展に到つたものでありまして、卽ち歐米人はその祖先の血の中から、獸類に親しむ國民性が植えつけられて居り、日本人は獸類をみるのに、田畑を荒す厄介物として敵視して來た習性を植えつけられてゐると云はれませう。此の云はゞ先天的な習性に遠因はあるとしても、今日もう犬に對して恐怖を抱くと云ふ事は、あまりに犬に對する理解が缺けてゐると思ふのであります。

一度刑務所生活をして來た時にも、兎角人々から冷眼視される。そこで今度こそ正業にいそしもうと決心をして出て來た人も、遂に社會の冷遇に反撥されて、再び罪を犯してしまうと云はれるあの心理。さうした反動的の氣持から、多くの犬の心を荒ませてしまひ人類に對する親しみが逆に人に對する恨みの心に變つて行つて、樣々な危害が起るのだと思ふのです。

これは犬を飼はうとする人々ばかりでなく、犬を直接に飼はない人々に對しても云はねばならぬ事ですが、どうか犬の愛らしい心を本統に理解してやるやうつとめ度いものであります。犬は決して人に咬みつくものではない。人が咬みつくやうにしてしまふのだと云ふ事を、私は自信をもつて斷案するものであります。

細目に渡つて犬の飼育法を述べるに先立ちまして、私は特に此の事を書き添えて、諸君と共に愛犬主義の普及につとめ度いと思ふのであります。

第二講　良い犬を育てる秘訣

優秀なる犬を求めるには？

近頃は畜犬趣味の流行に伴つて、犬を賣買する所謂「犬屋」なる商賣が其處此處に現れました。これはかなり以前からもあつたものですが、近頃その數がにわかに增したやうに思はれます。從つてお金さえ出せば、どんな良種の犬でも至極簡單に手に入れる事ができるやうになりました。而し、私は此處で云ふ優秀な犬とか、良い犬とか云ふ意味は、單に種類が純良であると云ふ事ばかりでなく、その性質も共に優秀であり、純良である犬を指すのです。種類の純良であると云ふ事はイギリスを始め、歐米各國のケネル・クラブなどで發表してゐる標準を土臺にして、客觀的に見分けがつけられます。而し、性質の純良さと云ふものは、一見してわかるものではありません。殊にその性質の純良と云ふ事に對して、どれが純良であつてどれが不純であると云ふやうなはつきりした標準があるわけではありません。勿論、客觀的にも性質の純不純と云ふ事はあ

りますが、大部分は主觀的な問題だと思ひます。

昔から妻君を離緣する時の口實に、家風に合はぬとはまことに好いお嫁さんでも、その家の家風に合はぬと云ふ事はあるものです。犬の場合でも同じ事で、客觀的にはまことに純良な犬であつても、その飼主の氣に入らぬ性質を持つた犬があるものです。性質の純良と云ふ事は前にも云つた通り、一つの定義があるわけではないのですから、他の人が見て純良であつても、飼主の目からはそれが純良でなく見られると云ふ事もあり得る事と思ひます。卽ち自家の家風に合つた純良な犬でなければ、全く優秀な犬、良い犬と云ふ事はできないと思ひます。

さて、さう云ふ意味の優秀な犬を、犬屋の店先などから求められるとお思ひですか。人間にも千差萬別の性質があるやうに、犬にもそれはあるものです。その千差萬別の中からひよいと買つて來た犬が、そのまゝ自家の家風に合ふと云ふやうな事は、先づあり得ない事と私は思ふのです。云ふまでもなく性質は、それ〴〵持つて生れたものには違ひありません。卽ち個性で、その個性はやはり犬にも先天的にあるものですが、まだ西も東もわからない仔犬から自分の思ふやうに飼育しますれば、後天的にその性質を自家の家風に合ふやうに造られるものであります。フランス の名女優サラ、ベルナールは、猫には個性があるが、犬には個性がない。犬は藝術家になり得ないものだから嫌ひだと云つて、猫ばかり飼つてゐたと云ふ事です。然し、私はさうは思ひません。勿論犬にも個性がありますが、犬には先天的に人間に對する從順性と云ふものがあるのです。そして個性をかくして、その從順性を表面に出してゐる。そこが犬の良いところであり、犬のねうちだと私は解釋したいと思ひます。

餘談はさて置きまして、では、どうすれば性質の純良な犬が求められるか？　それは自分の家で仔犬を生ませるより他はありません。さもなくば仔犬の時に買つて來るのですが、犬にもやはり、性質の遺傳と云ふ事は多少はあるもので、母犬の性質はどうしても殘り勝ちなものです。從つて仔犬を買つて來ても、その母犬の性質を受け繼いでゐますから、どうかするとなかなか思ふやうに家風になじまぬ場合があります。ですから理想としては、最初飼ふ犬は買つて來るなり、なるべく仔犬の時に手に入れる事、そしてその犬の仔をとつて、それを理想的に育てる事が、最も好い方法だと私は信じます。

此の理想論に基いて、これから私は、犬の妊娠から、出産、育兒、そして優秀な犬に育てあげるまでの順序を、お話ししたいと思ひます。

一 母體の攝生

犬の發情期

犬は生後何ケ月經過すると、生殖力をもつやうになるか。これは體型の大小によつて多少の相違もあり、又、牡と牝とでも違ひますが、普通牝犬は八ケ月目から、十ケ月目位に最初の發情期が參ります。體型の大きいものは、小さいものよりも多少おくれるやうですし、牡犬は牝犬より二三ケ月遲く發情するのが普通とされて居ります。牡犬にはある時期をおいて、周期的に發情期が廻つて來ると云ふ事はなく、一度成熟期に達すれば何時でも目的を達する事ができますが、牝犬の場合は、發情期と發情期との間に約六ケ月間を要するのです。これは決してあらゆる場合に確定的ではありません。發情期が來ても交尾をさせなかつた場合、或は交尾をさせたが妊娠しなかつた場合には、約六ケ月目に次の發情期が來るのですが、妊娠した時には出產後六ケ月か或はそれよりも多少おくれて次の發情期が來るものとされて居ります。

これは健全な發達をとげてゐる犬を標準にしての話ですが、發育がおくれたり、或は途中大病をしたりした場合には、どうしてもこれよりおくれがちであります。それから人間を例にひいて失禮ですが、花柳界に育つた人は早熟であると云つた具合に、近所の犬が交尾期が來たりして、多勢の牡犬が騷ぎまわると云ふやうな機會があると、その爲めに多少周期が早まると云ふやうな事もあるやうです。これはどうも畜生仲間でも、やむを得ない事のやうに思はれます。

生殖力が次第に減退して行きます時機は、十年以後と思ひます。十三四年も經過しますと、交尾をしても妊娠しなかつたり、生れた仔犬が弱かつたりする傾向があります。そして十五六年後は、もう殆ど生殖力は滅びて行くのが普通でありませう。そこでついで乍ら犬の壽命の事をお話しますが、たまには二十四五年も生きたと云ふやうな例も、決してなくはありませんが、普通は二十年位が限度と云つて好いと思はれます。人間でもさうですが、生物の壽命は生殖力の減退と同時に、衰えて行くのが當り前であります。

老年に及んでまだ生殖力があるからとて、無闇に交尾をさせる事は勿論好くありません。その爲に、まだ生きのびるべき壽命を縮めてしまふやうな結果を來します。と云つて、あまり早くか

ら交尾をさせる事も考えものです。度々人間を例にひいて恐縮ですが、早婚者の總領には、兎角所謂「甚六」が多いやうに、犬でもあまり若いうちに生んだ仔犬は、面白い結果が得られないやうです。

最初の發情期が來ましても、なるべく交尾させないで、次の機會にゆづる事を私はおすゝめ申します。牝犬でもやはり一年半か、乃至二年位經過したもの、種をとる事がよいと思はれます。

交尾の時期

牝犬に發情期が來ますと、約二周間位發情期が續きます。その戀候を申しますと、一體に平素より落着きがなくなり、小水の度數が增して來て、局部が充血して紅潮を呈し、次第にふくれ上つて參ります。そして二三日經過すると、局部から最初は薄い分泌液を、それから次第に濃度を增して、後には血の固りのやうな粘液を漏らすやうになります。さうなると局部のふくれが次第に增して、下方に垂れ下るやうな形になつて來ます。さうして十日程たちますと、その月經樣の分泌物はなくなつて行くのです。

最も適當な交尾期は、此の分泌液の盛んに出てゐる時期ではなく、反つてそれがなくなつた直後が好いやうであります。回數は、若し牝犬が最近に他の牝犬と交尾した經驗のあるものでしたら、一回でも充分に受胎する筈なのですが、一日位間をおいて、二回交尾させて置きますれば確かです。牝犬が初めての交尾であつたり、或は長い間交尾をさせなかつたものであつたりすると、精蟲が死んでしまつてゐるやうな事があつて、その爲めに受胎せずに終る場合があります。ですから、最初の一回で古い精液を出してしまひ、次に新たな精液によつて受胎せしめると云ふのが、最も好い方法でありませう。

若し最初の一回で完全に受胎した場合には、直ちにその翌日から局部の充血も去り、ふくれも納つて、發情期の閉止狀態に戻るものです。從つて第二回目の交尾は完全に行はれずに終る場合もあります。これは第一回でもう充分なのですから、第二回は强ひて行はせる必要はありません。

牝犬の方が最初の經驗であります場合は、人が多少手を貸してやりませんと、目的を達せられない事があります。又牝犬でも最初の場合は、どうかすると嫌ふ事が間々ありますから、その時には平常なついてゐる主人が手をかけてやるやうになさると好いと思はれます。

此處で注意を申上げなければならぬのは、牝犬に發情期が來ますと、局部の分泌液の臭ひを嗅ぎつけて、隨分澤山の牡犬が集つて來る事です。好い種をとらうとするには、もうそろ〳〵發情

期の來る頃だなとお氣づきになつたなら、常に牝犬に注意を拂ひ、發情の露はれを見ました時は直ちに嚴重な隔離方法を講じなければなりません。若しあやまつて近所のまぐれ犬などと不義に陷らうものなら、折角の苦心も水泡に歸して、白い犬が黒い子供を生んでしまはねばならぬやうな悲況をみなければなりません。煩惱の犬、追えども去らずなど、云ふ諺もある位、充分の御注意を怠らぬやうなさらぬと、とんだ事になつてしまひます。

殊に一軒のお宅で數匹の犬を飼つて居られる場合など、此の隔離に餘程意を用ひねばならぬと思ひます。

不姙の原因

さて良い仔犬をとる爲めには、以上の樣な苦心が要るのです。しかも良い種牡を見附け出して、相當高價な交尾料を支拂つてかける場合などもあります。さうして折角かけ合はせたのにも關はらず、それが不妊娠に終るやうな場合がよくあるものです。總ての苦心も、高價な交尾料もすつかり無駄になつしまひます。

如何なる原因からさう云ふ結果が起るかと云ふ事を、あらかじめ研究して置かれなければなりません。それには二つの原因があると思ひます。一つは牡犬に缺陷のあつた場合と、一つは牝犬に缺陷のあつた場合とです。

前に述べた如く、牡犬の精蟲が死んでゐた場合には、二度交尾を行はせれば好いのですが。反對にあまり賣れつ子の種牡で、一ケ月に五度も六度も交尾をさせた牡犬ですと、精蟲の補給が間に合はず、無精蟲の精液によつて、交尾が行はれるやうな事があります。これは外部から見てゐましたのでは、全然わからない事ですから、あらかじめ牡犬の方を調べて、あまり頻繁に用ひられたやうな種牡でしたら、これを回避すると云ふ風になさらねばなりません。それも元氣潑溂たる壯年の牡犬でしたら、かなり頻繁に用ひてもそんな事はあまりないのですが、少し年をとつてゐる牡犬には屢々それがありますから、種牡の年齡に注意を拂ふ必要もありませう。

若し高價な交尾料をとつて、種を分けてやるやうな牡犬をお持ちの方でしたら、これは畜犬家同志の一道德として、お心得置き下さるやうお願ひしたいと思ひます。殊に、誰さんの持犬に高い交尾料を拂つてかけたけれど、無駄になつてしまつた、などゝ云ふ評判でも立つやうになればその牡犬の價値は下つてしまふものです。よく種のとれる牡犬の事を、俗に「子出しの好い牡」と云ふ事を申します。此の子出しの好い惡いと云ふ事は、種牡の價値を高めも低めもする問題ですますまい。それには二つの原因があると思ひます。一つは牡犬に缺陷のあつた場合と、一つは牝

すから、各自に充分の御注意が必要だと思ひます。

次は牝犬の場合ですが、初心の方がよくやる失敗をお話し申しませう。もうそろ〳〵發情期が來る時分だから、充分榮養をつけて置いて好い仔をとらねばならぬ、など〳〵お思ひになつて、あまり榮養分をつけすぎた爲め、不妊に終る事があるものです。私などもその失敗を兩三回なめてゐるのです。

人間でもあまり榮養が良すぎて、肥りすぎた御婦人は妊娠をしない場合があります。それと同じやうに、犬でもあまり濃厚な食物を與えすぎて、肥滿してしまひますと、折角の交尾が不妊に終つてしまふものです。勿論、榮養をつけてやる事は惡くはありません。が榮養過多で肥滿しすぎる事を避け度いのであります。榮養を充分にとらせる事を忘れてはなりません。然し、私の經驗から申しますと、妊娠をさせ度いが爲めに、特に榮養をとらせると云ふ必要はないと思ひます。そしてむしろ、平常の榮養がすぎて、肥滿してゐるやうな牝犬でしたら、發情前には食物を多少加減して淡泊なものにし、運動を平常より多くして、適度に痩せさせる方が結果が好いと思はれます。

其他、病後の衰弱期などに來た發情期は、交尾を避けさせなければなりません。これは假令妊娠したとしても、その爲めに一層衰弱を增し、仔犬ほしさにあたら親犬までも犧牲にする場合があります。又、幸にして分娩したとしても、生れた仔犬が弱くていけないとか、或は牝犬が產後に餘病を起し命をとられると云つたやうな事もあります。

牝犬によりましては、俗に人間で云ふ「小野小町」などゝ云つたやうな不具なのも間々あるものです。そんな犬には發情期が來ないものですから、仔犬を手に入れて、一年半も過ぎたのに發情しないとか、親犬を貰つて一年も二年もして發情しないやうな時は、一應獸醫の診斷を受けてみる方がよろしいと思ひます。私にもさう云ふ經驗が一度ありましたから、特に書き添えて御注意を促す次第であります。若し高價な金で買つた仔犬が、成長してからそんな風になつたとしたならば、賣手はそれに對して責任を持つべきが當然ですから、買つた先に一應の交涉をなさるが好いでせう。

交尾後の注意

以上でほゞ母犬の發情期に於ける攝生上の注意は終つたつもりですが、もう一つ特に書き添え

度いものは交尾に關する注意であります。

自分の家に飼つてある牝犬に發情期が來たので、何處かで好い種牡を探し出したとします。若し種牡が同じ家に飼つてあつたとすれば問題はないのですが、かなり遠方で探し出した場合にはその種牡を借りてつれて來るなり、或はこちらから交尾につれて行くなり、しなければなりません。先方で種牡を貸してくれゝば好いのですが、大概は大切にしてゐる種牡の事ですから、なか〳〵貸してはくれないものです。で、よんどころなく、こちらから連れて行かなければなりません。

その場合往路は差支へありませんが、交尾をすませてつれ歸る時、振動の激しい自動車にのせたり、長途の汽車旅をさせたりする事によつて、受胎せずに終る事があります。これは精蟲がまだ納まらぬうちに、激しい振動を受ける事によつて、受胎を妨げられるのであります。

かう云ふ時にはどうすればよいか。それは交尾後、出來得れば一晝夜なり、二晝夜なり、その種牡の家に預つて貰つて、暫く安靜を保たせる事であります。さうして完全に受胎作用が行はれた頃になれば、もう多少の衝動が與えられてもその爲めに流産するやうな事は、先づないと云つて好いと思はれますから、然る後につれ歸るやうになさると好いと思ひます。若しその先で預

つて貰えない場合には、朝早くつれて行つて交尾をすませ、せめて夕方までも預つて貰ふ事です。そして歸路はあまり遠方でない限り、なるべく徒歩でつれ歸る方がよろしい。自動車の振動などは不自然に起る振動ですから、なるべく避けた方が好い。自動車よりはまだ人力車の振動の方が自然に近いだけよろしいのです。殊に長途の汽車旅行をさせる時には、どうしても一日二日後にしたいと思ひます。こんな一寸した事の不注意から、折角の發情期を流してしまう事もあるのです。

それから牝犬の發情期には、どうしても神經が興奮して居りますので、出入りの御用聞に咬みつくとか、近所の子供をおどかすとか云ふトラブルが起り易いもので、その爲めに狂犬などゝ間違えられるおそれもなくはありません。又、潛服してゐた狂犬病が、その神經興奮期に發病したなどゝ云ふ例もあるのですから、何れにしても御注意が必要だと思ひます。

二　妊娠中の心得

さて、次は妊娠中の心得をお話し申しませう。

以上の如くして、お宅の愛犬が完全に受胎したものと致します。では、その受胎から出産までの間をどう手當てしてやれば好いか。

先づ犬は受胎後幾日目に出産するかと云ひますと、普通は六十一日とされてゐますが、五十七日から六十三日の間と思つてゐればよろしいでせう。勿論人間にも早産とか遲産とか云ふのがあるやうに、例外は犬にもあるものです。

妊娠の徴候は受胎後二周間位は、殆んどわからない位でありますが、十五六日目からそろ〳〵腹部が膨れて參ります。そして一ケ月も經過しますと、その膨れが次第に大きく、下方に下つて來ますから、外部から見ても妊娠である事がはつきりして來ます。そして、同時に乳房が次第に膨れて來て、平常時にはこんなはりついたやうな少さい乳房をどうして仔犬が吸はれるだらう、などゝ思つてゐたものに、ちやんと乳首が出來て參ります。

一ケ月目から四十五日目位の間に次第に膨らんで來た乳首を絞つてみると、白い乳汁がじわじわと、わき出すやうになつて來ます。もう四十五日位經過しますと、腹部の膨張もかなり大きくなり、運動狀態が目に見えて鈍くなつて來ます。そして出産の一週間程前になると、何をするのもけだるいと云つた樣子になつて、陽當りの好い庭先などで、たゞぐつたりとして寢轉んでゐると云ふ樣になり、腹部の膨張も、一日一日と目に見えて發達して來るのです。

いよ〳〵分娩期が迫つて來ると、何かしら不安らしく、不自由な身體をして自分の分娩所を探すと云つたやうな樣子を見せるものであります。

が、此處に面白い現象として、人間にもさう云ふ例があるさうですが、交尾後受胎もしてゐないのに、妊娠と同じやうな徴候が現れる場合が屢々あります。所謂「想像妊娠」と云ふのでありませう。腹部も次第に膨張して來ますし、運動も鈍つて來る。そして乳房も膨らんで來て、絞つてみると濃い乳汁が飛出すやうにまでなるのです。やれ〳〵妊娠してくれたと思つて喜んで、お産婦さんを大切にしてやつてゐると、四十日目位から折角大きくなつたお腹が、いつの間にか少さく縮つて行つてしまふのです。

私の飼つてゐますスパニエル種の牝犬は、前に述べた榮養過多の爲めに受胎しなかつた時に、此の想像妊娠が私たちをすつかり落膽させてしまつたものです。

若し實際に妊娠したものかどうかはつきり確かめ度いと思はれる場合には、獸醫の診斷を受け

て腹部を探つて貰ふ事です。それも一ケ月位經過した時でなければ、はつきりした事はわかりません。探ると云つても外部から子宮部を押して探るのですから、少し經驗を得れば、獸醫の手を煩はすまでもなく知る事ができるやうになるものです。五十日位になると、幾匹仔犬がゐるかと云ふ事までも、大概は外部からの探りでわかるやうになるものです。而し、素人の方はなるべくそんな事はなさらぬ方がよろしいでせう。

妊娠中の手當

妊娠中だからと云つてあまり大切にしすぎる事は考へものだと思ひます。約二ケ月もの間の事ですから、その間につけた甘つたれのくせが後に殘つたり、又、多少神經も興奮してゐる關係から、よく人をおどかしたり致しますが、それを咎めずに甘えさせて置いたりする事から、人をおどす事に興味を覺えたりして、後まで惡いくせを殘す場合がよくあるものです。

而し、何と云つても大切な期間なのですから、可愛がつて手當を充分してやる事は必要です。つまり過ぎぬやう、足らぬ事のないやう、その加減をよくとつてやる事が大切なのであります。運動は妊娠中といえども怠つてはなりません。而し、過激な運動は勿論避けなければなりませ

ん。朝晩に適度な運動をさせてやり、其他の時間はなるべく繋留して置く方が好いと思ひます。何故ならば、何と云つても心得のない畜生の事ですから。どうかしたはづみに自分の身重である事も忘れて、他の犬と大喧嘩をしたり、惡ふざけをしたりするやうな事があります。その爲めに思はぬ流産をしてしまふ事などもありますから。殊に多くの犬を一緒に飼つてゐる家などでは、どうしても他の犬と一緒になつて遊びますから、御注意が必要だと思ひます。

さうして次第に分娩の日が迫つて來て、運動が鈍つなども少くするやうにしたいのです。若し牝犬が散歩を望まぬやうな場合には、强ひてつれ出さぬ方がよろしいでせう。

食物は初期に於ては平常と同じもので差支へありませんが、次第に胎兒の成長しますにつれて成たけ消化し易いもので、滋養に富んだものを與へるやう。四十日近くなりますと、人間のお産婦が非常に空腹を覺えるやうに、母犬も空腹を覺えるものですから、滋養食を平常よりも多少餘計にやつた方が好いでせう。そして分娩期が迫る頃には、やがて生れ出る仔犬に呑ませる乳の少しでも多いやうに、牛乳とか卵とか云ふものを與えられる事をおすゝめします。

それから分娩期が近寄るにつれて、兎角秘結症に罹り易いものですから、時々肉などをやりま

す時に、それと一緒に野菜物を煮て與えたいと思ひます。若し秘結症を起しました時には、決して無闇な通じ藥を與えてはなりません。鑛物性の下劑は多く墮胎作用を伴ふものですから、その爲めに折角の時に流産をしてしまうやうな事があります。ですから妊娠時に於きましては、他の投藥にしましても素人療治はなるべく避け、信用のある獸醫に依賴なさるべきであります。

次に分娩日間近になつて、切なさうに寢轉んで居ります時など、時々そつと腹部のマツサージなどしてやる事も、安產の助けにもなり、又、母犬も非常に喜ぶものであります。而し、あまり力を入れてなすつてはいけません。マツサージをしてやつて居りますと、もう二三日で生れる頃になれば、胎内にゐる仔犬がピク〳〵動いたりするのを感じるものであつて、何とも云はれない樂しみを覺えるものであります。

受胎した日から日數を勘定してみれば、大概その出產の日取は計算ができます。その頃になりましたら、お產所の用意だの、產後の手當などについて、あらかじめ必要なものを用意なさる必要があります。お產所はなるべく日當りの好い、そして人通の少いところをお選びにならなければなりません。そして犬小屋を一度綺麗に掃除してやり、三%位のクレオリン液で消毒を施してあとを天陽でよく乾かしてから、定めの場所に据えてやるのです。かくして、急にお產所に移す

事は、母犬に不安の念を起させるおそれもありますし、なるべく住み馴れた居心地のよいところで生ませてもやり度く思ひますから、二三日前からあらかじめ其處え住居を移して置いてやる方がよろしいでせう。

お產直後の必要品としては、お產の汚物で寢藁がよごれますから、すぐ取替えてやる爲めに、新らしい藁が必要です。それから消毒藥としてクレオリン液。滋養物として、牛乳や卵なども用意なさる方がよいと思ひます。

特別の用意

普通犬のお產は頗る輕いものとされて居ります。が、勿論異例は澤山あるもので、殊にブルドツクのやうに胎兒のうちから骨格のたくましい犬になると、あの角ばつた頭がつかえてしまつてとてもひどい難產の場合があります。其他難產の伴ふ多くの場合は、あまり母犬を大切にしすぎて運動不充分などの爲めから、胎兒があまり發達しすぎますと、その爲めに難產になる事があります。前に述べた適度の運動は、かるが故に是非共必要なのであります。それからもう一つは、生後三四年も受胎をしないで、相當年をとつてから初產をする場合です。これはもう骨盤が全く

固定した後のお産ですから、どうしても難産に陥り易い。まださうならぬうちに、一度お産をさせて置けば、その時に必要な程骨盤がひろがりますから、次のお産も樂々とできると云ふわけであります。これらは人間の場合でも同じ事だと思ひます。

從つて、さう云ふ難産の場合を豫想したならば、あらかじめその備えをして置かなければなりません。その時は、分娩期の二三週間以前に於て、信用のできる獸醫を探して、一應診察をして置いて貰ふ事が必要であります。そしていざと云ふ時にはいつでも馳けつけて貰えるやうにして置き度いと思ふのです。獸醫はこれはどうしても難産だなと見極めをつけましたなら、それを何とかして少しでも樂にできるやう、豫め策をほどこしてくれませう。それでもむづかしいと思つた時には、入院をさせてお産をさせる方がよろしいと思ひます。

實際、ひどい難産になりますと、胎内に於て胎兒をめちやくにつぶしてしまつて、引ずり出すやうな手術もせねばなりませんし、頭や四肢を切り離してつまみ出すやうな事もあるのです。こんな事はめつたにあるものではないのですが、特にブルドツクには注意を要するものです。此の不注意から、千圓以上も出したブルドツクを、遂に殺してしまつたと云ふやうな例を、私はしば〳〵耳にもしますし、實際ぶつかつた經驗も持つて居ります。

これは特殊な用意でありまして、總ての犬にこんな危險があるわけではないのです、ついでに書き添えて置くべきでありませう。

三　出産に就いて

分娩時の注意

五月目に岩田帶を締めます日を特に戌の日に選ぶのは、安産を祈る心からださうであります。それほど犬のお産は輕いものとされてゐるのです。前に述べましたやうな特殊の異例をのぞいては、實際に安産が多いのです。と云つてあまり注意が足りませんと、とんでもない事になるのはすでに御承知と思ひます。

以上のやうな特殊の場合をのぞいては、なるべく飼主の家でお産をさせてやる事を私はおすゝめします。住み馴れた家でお産をする事が、牝犬自身にとつてはどれ程安心であるか知れません。それから飼主自身がお産を手がけて生ました仔犬には、一層の可愛いさを增す事は云ふまでもあ

りません。

犬のお産の順序は、最初の一匹が生まれてから、二三十分經過して二番目の仔が生れ、次々と同じく二三十分の間を置いて、三番目四番目の仔が生まれます。時にはその間が、一時間も二時間もかゝる事があります。私の經驗では第一の仔と、第二の仔との間に、五時間近く間を置いた事もある位です。ですから後が生れなかつたからと云つて、あわてゝ藥を取換えてやる早計をなさらぬやう。

最初の仔犬が生まれますと、母犬は自分でその臍の緒を噛み切つてやり、仔犬についてゐる汚物をすつかり綺麗に舐めて掃除をしてやります。さうしてそれが終つて暫く落着いてから、第二の仔が生まれるのです。此の間珍らしいからと云つて、無闇にのぞく事は避け度いと思ひます。覗いたり騒いだりしますと、その爲めに母犬は不安の念を起していけません。殊にあまり見かけない人などが覗きますと、怒つて飛びかゝつて來る事などもあるものです。

若し餘程苦しがつてゐる樣子でしたら、普段最も好く馴れてゐる人が、そつと母犬の腹部をマツサージしてやると、安々と産まれるものですが、それも餘程氣をつけて手をかけてやらなければなりません。なるたけ母犬に任せ切つて置いて、他から手をかけずに生ませ度いと思ひます。

何しろ氣が立つてゐる時の事ですから、うつかり子供などが覗いたりすると、普段はなれてゐるやうでも、思はぬ危害を加えたりする事があるものです。これも私の經驗ですが、分娩中に近所の子供が覗きたくて、犬小屋の家根をつき落したものです。（私の宅の犬小屋は、家根が取り外し自由になつてゐますので）それから母犬は不安になり出したとみえて、私共が側に行つても怒つて寄せつけなくなりました。その爲めにお産も長びいて、四匹の子を全部生むのに、十二時間もかゝつてしまひました。生れてから後も約一週間ばかりと云ふものは、仔犬を覗く事もできなかつた位です。前節にお産所を人通りのない靜かな所に選ぶやう書いたのは、さう云ふ意味からなのであります。

さうしてすつかり分娩が終つてから、後産も出てしまつたところを見て、母犬を怒らせないやうに聲をかけてやり乍ら、新らしい綺麗な寢藁に取換えてやるのです。分娩の爲めに母犬は非常に疲れるものですから、牛乳とか卵とか云ふ滋養物を、産後に飲ませてやらねばなりません。その滋養物をのませる時にお産所の見えないところえ母犬をつれて行つて、與へるが好いと思ひます。そしてその間に藁を代えてやれば、母犬を怒らせる事なく取換えられると思ひます。

袋兒と俗に云ふ袋を被つたまゝの仔犬を産む場合があります。そんな時には大概母犬が喰ひ破つてやるものですが、初めてゞそんな事を知らぬ犬も間々あるものです。その時には清潔な消毒をした鋏で切開いてやらねばなりませんが、それも母犬の見てゐない時にしてやらねばなりません。その袋とか、臍の緒とか、後産とか云ふ汚物は、母犬が殘らず喰べて掃除をしてしまうものです。

お産の當日は母犬に、生卵とか、牛乳とか、ソップとか云ふ流動食の滋養物を、二三時間おきに與へるやうにしたいと思ひます。そして此の日は勿論運動も避け、出來得る限り安靜にして置いてやらねばなりません。

産後の心得

人間でもさうでありますが、産後は母犬の總ての器官が疲勞し、衰弱してゐる時ですから、兎角樣々な病氣に冒され易いものであります。殊に分娩時に色々な不潔物を喰べてゐますから、どうしても胃腸をこわし勝であります。從つて産後三四日の食物は餘程注意してやらねばなりません。絶對の流動物と云ふ必要はありませんが、米飯をやるにしても、ソップでおじやにしてやるとか、肉類のやうな濃厚なものは避けて魚類を與へるとかする方がよろしい。そして牛乳、卵などの滋養物を別に與へるべきであります。さうして次第に平常の食物に返して行くやうにしなければなりません。

若しそれでも胃腸をこわすやうな事がありましたら、胃腸藥を與えて早く治してやらなければなりません。消化をこわせば母體をいためるばかりでなく、乳の出も自然と細りますから、仔犬の發育にも影響いたします。當分仔犬には母乳の他何ものもやつてはならぬ事勿論です。

産後は貧血してゐますから、自然と感冒にも冒され易い。若し母體が感冒でも起して、それが恐ろしいジステンパーにでもなつて、仔犬に感染したとしたならば、もう助かりつこはありません。冬の寒い時などは、風邪をひかせないやうに、風當りのない暖いところに置いてやらなければなりません。

其他危險なのは乳房炎であります。これはかなり急性に來るものですから氣をつけなければなりません。内的に來るものはやむを得ませんが、乳が多過ぎて内部にたまり過ぎ、その爲めに發熱して此の病氣を起したり、乳が勘いのに仔犬が多すぎて、無理に吸ひ出さうとするので發熱しそれから此の病を起したりします。乳房部にひどく熱を持つてゐるやうでしたら、直ちに冷やし

てやつて、獣醫をお呼びにならなければいけません。

仔犬が多過ぎる事は、乳房炎の起因になるばかりでなく、母犬の衰弱を一層増させる恐れもあつていけません。適度は小型の犬、例へばテリヤのやうな犬でしたら、四匹かせいぐ〳〵五匹までが好いところです。大型犬でも八匹以上は多すぎます。もし適度以上に生まれた時は、乳母犬を急いで探して、半數を分けるやうにしなければなりません。又、乳の出の細い母犬の場合にも乳母犬を探す必要がありませう。

人工で哺乳する事もできない事ではありませんが、なか〳〵大變な手數がかゝるものです。人工哺乳には人間の赤ちやんが用ひる哺乳壜で、ゴムの乳首で與へるのです。而し、まだ生れたばかりの仔犬には、途中のゴム管を吸ひ上げるだけの力がありません。從つて洋式の壜の口にぢかに吸ひ口をつけたものを逆さにして呑ませるのがよろしい。若しそれが手に入らぬ時は、人間が吸ひ口まで吸ひ上げてやつて、吸ひ上げた乳汁が下りてしまはぬやうゴム管を指先でつまんで、仔犬の口にあてがつてやるのです。それでも三四度吸ふと、乳汁はすぐもどつてしまひますから根氣好く幾度も吸ひ上げてやつて呑ませなければなりません。それは殆ど口移しにのませてやる程の苦心か要ります。仔犬を汚いなどゝ思つては、とてもできる手數ではありません。かなり以

前ですが、私は乳母炎で母犬を喪つた九匹の仔犬を、生後まだ五六日しか經ちませんのに、人工哺乳で育てゝやつた事がありました。毎日毎夜、二時間置き位に九匹の仔犬に哺乳する事は、容易ならぬ苦心でした。夜は少さい藥壜の湯タンポをこしらえてやつて、しかもその上私自身抱いて寢てやつたものです。夜中にお乳をやる爲めに眼を醒してみると、可愛い子たちの爲めに寢卷をぐつしよりぬらされてゐると云ふ始末。そんなにして手をかけてやつたのに、結局滿足に育つたのは二匹でした。次から次へと衰弱して死んで行く仔犬に、私は幾度か涙を流させられたものでした。

以上のやうなわけで、全然人工哺乳だけで育てると云ふ事は、事實上困難と云ふべきですから人工哺乳で一時をしのいで、乳母犬を見つけなければいけますまい。而し、澤山生れた仔犬の中には、必ず一匹二匹特別に弱いのがゐるものです。それを他の丈夫な仔犬と一緒に母犬に預けつぱなしにして置きますと、丈夫なのに押しのけられますから、お乳も充分にのむ事ができなくなり、益々衰弱を增すばかりですから、さう云ふ仔には別に人工哺乳で滋養を助けてやらなければなりません。それには此の方法か非常に效果的ですから御心得置き下さい。

産僻の惡い犬

産僻の惡い犬と云ふのがよくあるものですが、例へばいつも死産ばかりするもの、丈夫な仔犬を生み乍らそれを噛み殺してしまふもの、噛み殺した上に自分で喰べてしまふもの、生んでから二三日して乳をやるのを嫌がるもの。それらの中には先天的にさう云ふ僻を持つてゐるものもありますが、中でも最も慘酷な惡僻である仔犬を噛み殺す僻だの、死んだ兒を喰べてしまふ僻などは、多く後天的にさうなるものなのですから注意しなければなりません。初産の時さう云ふ僻をつけてしまふと、それが性僻となつてしまつて、幾度お産をしても同じ慘酷を重ねるやうになつてしまひますから、初産には餘程の注意が必要であります。

では、此の惡僻はどう云ふ事から始まるかと云ひますと、初産の時、仔犬が珍らしかつたり、お産が珍らしかつたりして無闇に覗いてみる事や、仔犬を手に取つていぢつたりする事が、母犬の不安を買ふ結果であります。母犬は神經が興奮してゐますので、一寸した事にも不安や恐怖を感じます。それであまり覗かれたり仔犬をおもちやにされたりすると、可愛い仔犬を盜まれるのではないかと思つて、たまらなく不安になつて來るのです。で、母犬は人の手の屆かないところ

へ仔犬をかくしてしまはうと思つて、口に咬えてかくし場所を探し廻るのです。さうしてゐるうちにいつか齒當りが强かつたりして仔犬が死んでしまふのです。中にはさうした不安の結果、可愛さ餘つて噛み殺す場合もあるやうです。よく自分の赤ちやんがあんまり可愛いくて、思はずぎゆつと抱きしめるやうな衝動を我々も感じる事があるでせう。あれと同じやうな衝動を犬も感じるのではないかと思ひます。それが畜生のあさましさには、加減がわからなくて、思はず噛み殺してしまふ結果になつたと云ふやうな場合もあるやうです。

喰べてしまふのは、何處へかくす場所もないので、自分の仔を自分の體内にかくさうと云ふ心からではないかと思ひます。要するにそれらの行爲は、自分の仔に對する母性愛の極致から來る事なのですが、側から我々が見てゐては、とても慘酷でたまりません。

これは實際によくある事ですが、イギリスは他國から犬をつれて行く事が、狂犬病豫防の規則として、大變にむづかしいのです。で、イギリス人は日本で可愛いがつてゐた犬を自國につれ歸る事ができません。そこで歸國の際、長年飼ひ馴れてゐた愛犬を、獸醫に藥殺して貰つて、思ひ殘りをなくして歸つて行きます。これは私の父が横濱で多く外人相手に家畜病院をしてゐましたので、實際に體驗した話です。私共の目からは非常に慘酷な事のやうに思はれますが、これもや

はり可愛さ餘つての事なのです。

「どうして殺してしまふのですか。それよりも誰か犬の好きな人に上げて行つたらどうですか？」

とたづねますと、

「いゝえ。どんな好きな人に上げても、此の犬はきつと私たちを思ひ出すでせう。又、私も今頃どうしてゐるだらうなどゝ思ひ出します。それが悲しいのです。かうしてしまえば永久に思ひ出の中に可愛いがつてゐられるではありませんか。」

と彼等は答へるのでした。

私はそれと同じやうな感情が、犬にも働くのではないかと思ひます。餘計な事ですが、どうもそんな點から考へて、外人の感情は動物性に近いやうにも思はれるではありませんか。

餘談に入つて失禮。そこで此の惡僻も、多くはあまりうるさく覗いたり、おもちやにしたりする事から初まるものですから、度々云ふ事乍ら、お産所はでき得る限り安靜にして置いてやらなければなりません。初産にこれをやると、大概それがお産の時の習性になつてしまつて、とり返しのつかぬ事になつてしまひます。

次に死産ですが、これも多くは妊娠中の不注意から起るものです。そして初産に死兒を生みますと、不思議に次回も、次々回も死産を重ねると云ふやうな事になります。今度こそ滿足なお産をさせやうと思つて、大切に大切にしてやつたにもかゝはらず、又死産に終つたなどゝ云ふ苦い經驗を甜めねばならぬ事になるものです。流産もこれと同じですから、前節と重なるかも知れませんが、初産の妊娠中には餘程注意しなければなりません。

それから先天的に仔犬の嫌ひな母犬と云ふものがあります。これなども實は先天的ではなくて仔犬が乳首をあまり强く吸ふ爲めに痛みを感じたり、或は乳腺にでも故障があつて吸はれる事が痛かつたりして、さうなるのかも知れませんが、困つた現象です。これはお乳をやる度に母犬に御褒美でもやるやうにして、母犬をなだめ乍ら飲ませるやうにすれば、しまひに喜んで飲ませるやうになるものです。

若し、母犬が不安がつて仔犬をかくし廻るやうな傾向が見えましたら、そのかくした場所を住居にしてやつて、なまじつか動かさない方が好いと思ひます。そしてなるべく精神の納まるまで仔犬を覗かないやうにすると、やがてその僻はなほるものです。

仔犬の選び方

「子出しの好い牡」と同じやうに、好く仔犬を産む牝犬に「子出しの好い牝」と云ふ事を申します。その子出しの好い牝になると、時には十匹以上、どうかすると十五匹も一度に仔犬を産む事があります。さう云ふ時、すぐ乳母犬がみつかれば好いのですが、いざとなるとなか〳〵見つからぬものです。乳の澤山ある丈夫な母犬でしたなら、十二匹位まではどうにか一匹で育て上げる事もありますが、これはかなりの難業と云ふべきであります。又、人工哺乳も前申上げた通り、なか〳〵多くの時間と苦心とを要し、その割に效果の擧らないものです。

で、さう云ふ場合、全部殘して置けば母體を損なはねばなりませんから、殘念乍らそのうちの幾匹かを捨てなければならぬやうな事も起ります。惜しいと思つて逡巡してゐて、母犬を弱らせぬやう、かう云ふ際には決斷が必要です。では、さう云ふ時にどう云ふ仔犬を選んで殘すべきか？　どう云ふ仔犬が出世するだらうか？　と云ふ事を知つて置かねばなりません。

多くの場合、それに生れた仔犬程丈夫に育つものです。そして後に生れたもの程弱い仔犬になるものです。初めから形の惡くない限りは、頭の大きい犬が怜悧てす。と云つて、フオツクス、テリヤだの、グレイハウンドだのと云ふ頭の細かるべき種類の犬の、無闇と鉢の開いたのは、形の上から云つて困りものですが、型をこわさぬ範圍で頭の大きいのを選ぶべきです。

骨格はなるべくたくましいものが丈夫に育つ證據です。足の大きいものは、身體が大きくなる證據ですから、セントバーナードとかグレイトデーンとか云ふ種類のものでしたら、足の大きい事を標準にすれば間違ひはありません。

毛並は種類によつて一概には云はれませんが、毛づやの好い、斑のそろつたものが好いでせう。日本では俗に鉢割れと云つて鼻筋の左右に斑があつて、切れ目が頭までぬけてゐるものを嫌ひますが、そんな事によつて健康や性質が左右されるものではありませんから、そんな迷信にわづらはれる事は愚だと思ひます。もう一つ健康なるべき證據は、啼聲の大きくしつかりしたものです。これは所謂泣蟲と混同してはいけません、身體の調子の惡い仔犬はよく泣きますが、聲に力がありません。

以上の各條件を考慮なすつて、お選びになるが好いと思ひます。勿論、不具の犬などは第一に捨てるべき事。と云つて、ブルドツクの仔犬の場合、尻尾がひん曲つてゐるから不具だなどゝ思つてはいけません。こんな事は申すまでもない事ですが、ブルドツクではあれが値打なのですから。

體形の事は生れたての仔犬では殆どわかりません。どんな種類の犬の仔でも、生れたての赤ん

坊は殆ど同じやうな形をしてゐるものです。

此の事は他家で生れた仔犬を貰ふ場合などにも、知つて置かねばならぬ條件だと思ひます。生後二三ケ月後のものを選ぶ場合にも、これらの條件は適用されるものですから。

仔犬を母犬からとる場合にも、なるべく目につかぬやう、一度に三匹も四匹もとつてしまはないで、少しづゝ離す方がよろしいと思ひます。

四　仔犬の育て方

乳仔の發達過程

仔犬が母犬から生れ出たばかりには、丁度お芋に四肢をつけたやうなもので、眼はつぶつてゐて見えませんし、耳なども小指の先程のものが、ちよこんとついてゐるだけです。それが成長につれて、眼も開き、耳も大きくなる種類ならば、めき〳〵と發達するものですから、とんでもない仔が生れたものだなどゝがつかりなさらぬやう。

眼が開きますのは生後一週間位から、二週間位の間です。これも健康狀態によつて多少の遲速はあるもので、早く開いたものは丈夫な證據であります。彼等はまだ眼の開かぬうちから、ちよろ〳〵と小屋の中を歩き廻りますから、小屋の側に仔犬の這ひ込めるやうな位置え、母犬の水鉢などを置きますと、間違つて溺れ込むやうな悲劇を生まないとも限りません。

母犬は產後一週間位經ちましたなら、毎日少しづゝ運動をさせてやらなければいけません。そして仔犬に乳をやるので非常に空腹になるものですから、食物も充分に、滋養のあるものを、一日三回位喰べさせてやる必要があります。

生後三週間目位までは、母乳ばかりで育てゝやる方がよろしいでせう。三週間を過ぎる頃から視力も次第にはつきりして來ますし、身體にも力づいて來ますから、自然と食物の要求も多くなつて來ます。從つてその頃から母乳の他に少しづゝ牛乳でも與へるやうにせねばなりません。犬の乳は牛乳よりも濃いものですから、水を割つてやる必要はありません。それよりもむしろ、それを割つてやる方がよろしいと思ひます。重湯は最初はあろ〳〵米飯に馴らす準備として、重湯でも割つてやらないと、便秘を起すおそれがあります。

その呑ませ方はもう吸口を用ひずに、あまり深くない皿に入れて、仔犬の鼻先をつつこんでや

るのですが、鼻孔までもつけてしまふと鼻から吸ひ込んでしまつて、むせる恐れがありますから下部の口の方だけをつけるやうにしなければいけません。すると仔犬は牛乳の味を覺えて、次第に自分でちよろ〳〵と舐めるやうになつて行きます。

仔犬の成長につれて食慾が増して行くのと反對に、母犬の乳の量は減少して行きますから、自然と仔犬は食物が不足になつて參ります。で、此の頃になりますと、良い母犬は自分の一度喰べた食物を胃中から戻して、仔犬に喰べさせたりします。これは腹工合をこわして嘔吐したのと間違える事がありますが、決してさうではないのですから、仔犬に喰べさせて差支へありません。これも母性愛の然らしむるところなのであります。その代り母犬は甚だしく空腹になるものですから、さう云ふ時には平常は二食であつても、三度位食事を與へるやうにしてやらねばなりません。

さう云ふ徴候が見えましたなら、仔犬にもうお粥位やつても好い時期なのです。母犬は自然にさう云ふ時期をさとるのであります。さう云ふ風が見えませんでも、五週間目位からぼつ〳〵牛乳ばかりでなくお粥をやるやうになさるが好いと思ひます。始めはなるべくやわらかく、鰹節とか鷄のソップとかで味をつけて煮てやるが好いと思ひます。

さうして置いて、次第に母乳から離して行くのです。二ケ月も經ちましたら、もう全く母乳から離しても好いでせう。そして、仔犬はほんの少し喰べても、お腹が大きく張つて來ますから、喰べ過ぎぬやう注意してやらねばいけません。なるべく腹八分目位の量にして、幾度もやる方がよろしい。一日五六回位、時間を定めてやる事をおすゝめます。そして次第に四回にし、三回にして、成犬になりましたなら二回にすると云ふ様になさるがよろしいと思ひます。

此の母乳からお粥にうつす時期はどうかすると、食過ぎたり、或は便秘を起したり、蛔蟲をわかせたりして、最も危險な時季ですから御注意を要します。

此の間特に御注意をして置きますが、母犬が產をした爲めに身體がよごれてゐるからと云つてお風呂を使はせてやる事がよくありますが、これは絶對にお止めします。母體のしめり氣が仔犬に移つて、その爲めに仔犬が風邪をひいたりする事がありますと、大概は取り返しのつかぬ結果になつてしまひます。仔犬が母親から離れるまでは、多少汚れてゐても洗はぬ方が好いのです。

この事は後の項でもくわしく述べるつもりです。

乳兒、卽ち赤ちやんの時代は、此の乳離れの時期で終り、これからは幼年期に入るのでありま

す。

仔犬の罹り易い病氣とその豫防

仔犬にとつて最も危險で、そして罹り易い病氣は寄生蟲病でありませう。寄生蟲にも蛔蟲とか條蟲とか、十二支腸蟲とかがありますが、中でも最も罹り易いのは蛔蟲です。蛔蟲は白い針金狀の蟲で長さ四五寸から、大きいのになりますと七八寸もあるものがあります。

これはどうかするとまだ母犬の胎内にゐる時に、母犬から貰つてゐるものもありますが、多くは母乳から他の食物に移つた時、食物から受けるのが多いやうです。殊に消毒不完全な牛乳が危險です。それから地面や草などについてゐた蟲の卵が仔犬の口から體内に這入つて、發達する場合もあります。

牛乳が危險だと云ふので避けやうと思はるゝ方は、粉末牛乳ラクトーゲンを用ひられるが好いと思ひます。ラクトーゲンの中にはカルシユウムが含まれてゐますから、骨軟症などの病を豫防する意味から云つても好いと思ひます。

蛔蟲が腹中に湧きますと、その爲めに榮養分をとられてしまふので、仔犬は甚しく貧血して來ます。で、齒齦だとか、目蓋の裏だとかと云ふ粘膜質の部分が、血色を失つていやな色に褪せ

て行き、榮養不良の爲めに毛色にも光澤がなく、次第に痩せ衰えて行きます。それから食慾もなくなつて行つて、便も非常に柔らかく、遂には飴のやうな粘液に血の交つた便をもらすやうになります。最初は背を丸くして始終便氣を催したやうな形をしたり、お尻を地につけて前脚だけで歩いてみたりするものです。これは蟲の爲めに肛門がむづがゆいせいなのです。それから眼玉の黒目のふちがぼけて、薄青い環ができます。以上のやうな徴候が見えましたなら、それは必ず蛔蟲のせいなのですから、驅蟲劑を與えて驅除してやらなければいけません。

うつかり怠つてゐると、身體の衰弱と共に蟲の勢力が增して行つて、たちまちの間に腸内にいつぱいになり、遂には口からまで蟲を戻すやうになつて、すつかり弱り込んで施す術がないやうになつてしまひます。此の幼蟲が腦を冒しますと、その爲めに仔犬は癲癇を起すやうになり、見るも悲慘な苦しみを續けて終るやうな事にもなります。

蛔蟲には大概の仔犬が冒されるものですから。毎月一回位は定期的に驅除方法を講じる事をおすゝめします。殊に犬屋から仔犬を買つて來るとか、他家から貰つて來たりした時には、直ちに一回驅蟲劑を與えるやうになさるべきです。驅蟲劑の量などに就いては、後節の病氣治療の處で詳しく述べる事にします。

次に冒され易いのは喰ひ過ぎから來る胃腸障害です。成長した犬ですと、分に應じて滿腹すればさう食物を欲しがるものではないのですが、仔犬の時にはいくら喰べても喰べても欲しがります。あまり欲しがるのでつい欲するがまゝにやり〳〵する事から、すぐに胃擴張を起して、大きな太鼓腹のやうなみつともない形をして歩くやうになります。その結果は消化不良を起し、下痢をしたり、血便をしたりするやうになつて、次第に衰弱をしてばつたり逝つてしまふやうな事になります。

此の豫防は何と云つても腹八分目と云ふ事が大切で、決して欲するがまゝにやりすぎぬやうせねばなりません。どうかして拾ひ喰ひだの、母犬の喰物をいぢきたなしをしたりして、大きな腹をしてゐるのをみましたなら、ビオフエルミンのやうな整腸劑をのませてやるやうにせねばなりません。

次には便秘です。これは不消化なものを與えたり、喰ひ過ぎたりすると起します。母乳から他の食物に移る時には、しば〳〵起しがちですから氣をつけなければいけません。便秘の時にも始終便氣を催してゐるやうな形をして、いきんでばかりゐ乍らさつぱり便が出ないのです。

これはお粥をつくる時に野菜のスープを一緒に煮てやるのが好いのですが、よんど苦しさうな時には坐藥をさし込んでやるとか、石鹸水灌腸をしてやるとかするのですが、これは得て僻になり易いものですから、あまり度々重ねない方が好いでせう。仔犬にあまり下劑を用ひる事は考へものです。その爲めに反つて身體をこわす恐れがありますから、なるべく外用ですますやうにし度いと私は思ひます。

感冒の恐るべき事はすでに再三書きました。秋も終り頃になつて生れた仔犬は、寒さに向つて育つのですから、餘程氣をつけなければいけません。その代り育ちさえすれば丈夫な犬になりますから、注意が必要です。母犬があまり仔犬をかまわぬやうでしたら、風の當らぬ日當りの好い場所に小屋を置いてやらなければいけません。梅雨期に育つ犬にも氣をつけなければなりません。兎角小屋がじめ〳〵してゐますから、その濕氣で風邪をひく恐れがあります。

前にも一寸書きました通り、母犬でさえ洗つてはいけないのですから、仔犬を洗つてやる事はもつての他です。洗つてやるとたとえ溫い湯で洗つたにしても、あとに毛の中に殘つた水氣をすつかり拭ひ取る事はできませんから、そこに冷たい風を受けてきつと風邪をひかせてしまひます。犬の毛はブラシで好くこすつてやるだけで綺麗になるものですから、めつたに洗つてはいけません。なほ此の事は後講でもつと詳しく述べる事にしませう。

フオツク・テリヤだの、スパニエールだの、エーヤデル・テリヤだのと云ふ種類の犬は、特に體型の修飾上、尻尾を斷つてやらなければなりません。可哀さうだからなどと云つて、ありのまゝに伸して置くと、如何に良種の犬であつても、その價値は失はれてしまひます。如何にも痛さうで可哀さうに思はれますが、まだ神經のあまりに發達しない幼時に行つてやれば、それほどの痛さでもないやうであります。

その時期は仔犬の眼が開いてから三四日後が最も好いと思ひます。日數で云ふならば、生後二週間目から十六七日目位のところでありませう。長さは牡牝によつて多少の加減も要しますし、種類によつて違ひますが、牝は發情期に恥部をかくし得る程度に、牡よりも長めに斷る方が好いと思ひます。昔はフオツクス・テリヤなど隨分短かく斷つたものですが、此の頃はあまり短かく斷る事は流行らないやうです。斷り方も好い加減のところからぷつりとやるのではなく、尾椎の關節のつなきめを斷らなければなりませんし、斷つたあとで骨がむき出しになるやうなみつともない斷り方をしてはいけませんから、これは素人仕事でなく、專門家の獸醫に御依頼になる事をおすゝめします。

が、斷り方の概要をお話ししますと、最初此の邊と見當をつけた處をさぐつてみて、尾椎のつなぎめをたゞし、斷るべき箇所の五厘ばかり上を丈夫な絹絲でしつかり結び、尾の先の方へ血の通はぬやうに致します。そして斷るべき箇所と、好く切れる鋏とを充分に消毒して、一氣にぷつりと切るのであります。絲でしつかりくゝつて置けば血はあまり出ませんが、その斷り口に過クロール鐵液のやうな止血劑を直ちにつけてやらねばいけません。

あとから骨がむき出しにならぬやうにするのには、斷り口の表皮を縫ひ合はせてやるのも好い方法ですが、これは素人にはむつかしいと思ひますから、表皮を上の方にたくし上げる氣味にして置けば、絲を結ぶ前に、絲を切つて後に、表皮が戻つて斷切面に被るやうになるものです。

あとの手當は母犬が舐めて綺麗に消毒し乍らひとりでに癒してくれるものですから、特に治療方法を構じる必要はありません。斷る時には母犬の見てゐる前でしますと、母犬は心配をして騷いだりしますから、なるべく仔犬の啼き聲の聞えぬやうな場所につれて行つて、そつと斷つたあとで直ちに母犬に戻してやるのです。さうすると母犬は仔犬のこれはいけません。そして斷

斷り口を、心配さうにしきりに舐あてやります。

斷尾を要する犬の種類を概略書いて置きませう。原則として斷尾するべき犬は、フオツクス・テリヤ、エーヤデル・テリヤ、シーリイハム・テリヤ、スパニエール、コツカー・スパニエール、などでありませう。其他ジヤーマン・ポインターは狩獵時に尾が長すぎると、尾先から血を吹き出したりしますので、斷つてやる事にしてゐます。が、これは他の犬のやうに短かく斷るものではありません。時々イングリツシユ・ポインターの尾まで斷つてゐる人がありますが、あの細い敏感な尾は、獵犬として必要なのでありますから斷つてはいけません。ジヤーマン・ポインターの尾は太く長すぎるので斷るのですから此處を間違えぬやうに願ひます。それからブルドツクだの、ボストン・テリヤなどは原則として短かくよれ曲つてゐるのが好いので、ずる〳〵長くてはいけません。で、若しそれが長すぎる場合には、幼時に修飾上斷つてやらなければなりません。

斷耳は全く特殊の場合ですが、少さかるべき耳の種類の犬が、あまり大きな耳を持つて生れた場合とか、ピンと立つてゐるべき耳の種類の犬が、根元から折れ曲つてゐたりする場合とかに、その一部分を斷りとつて修飾を加えてやるのです。よく此の方法を用ひる種類としては、ブル・

テリヤ、フオツクス・テリヤ、スコツチ・テリヤ、ブルドツク、土佐犬、などで、グイトデーンなどにも此の修飾を施したものがあります。

此の斷耳を行ふ時期は、仔犬の形がほゞ定まつた頃でなければいけません。まだ二三週間では本統の形はわからぬものです。少くとも一ケ月以上、二ケ月位の頃に、充分經驗のある獸醫に相談をして、上手に施術して貰ふべきであります。まちがつて右と左とちんばな犬などをこしらえてしまつては大變ですし、その頃には母犬もあまり世話をみてくれませんから、施術後の經過にも充分手當が必要です。從つて素人療治はおやりにならぬが好いと思ひます、斷り方などは此處に記さぬ方が好いと思ひますから略します。

五　仔犬から成犬え

最も危險の多い成長期

人間にしましても子供の成長盛りと云ふものは、肉體的にも精神的にも、最も危險の多い時期

であります。それと同じやうに、仔犬に於きましても、離乳期から成犬えの道程は、最も危險の多い時期であります。

「仔犬から育てるのも好いが。幾度飼つてもみんな殺してしまふので、可哀さうでならないから今度は大人の犬を飼はうかと思ひます。」と云ふ事を私は屢々耳にします。その通りで心得のない方が仔犬を飼えば、先づその七八割は成長期に殺してしまうと云つても間違ひはないでせう。「隨分大切にして可愛がつてやつたのだが、やつぱり駄目でした。」と云ふ事をそれらの方は必ず申します。大切にして可愛がつてやる事は決して悪くはありません。而し、道に外れた可愛がり方、理屈に合はない大切は、決して本統の大切でも、可愛がり方でもありません。反つて大切にし、可愛がり過ぎた爲めに、生命を奪つてしまふやうな結果になる事が多いのであります。

犬は現在でこそ家畜となつて、或は家族の一員の待遇をも受けるやうになつてゐるのですが、そのもとをたゞせばやはり野獸であつたのです。從つて人間とはその根本が違つてゐるのです。外氣にもあまり觸れさせず、人間と同じやうな食物を與へて、所謂「箱入娘」式の養育は、決して犬の望むところではありません。人界遠く山の中で育つた人間を、都會につれて來てさえもその健康は保たれないではありませんか。人間とは全くその成立ちからして異つた獸類を、人間式

に育てゝ、決して好い結果が得られるものではないのです。

然らば如何にして育てればよいか。先づ私は肉體的の危險から筆を起す事にしませう。幼年期に於て、食はせ過ぎと蛔蟲の危險に就いてはすでに述べました。此の危險は勿論成長期にもありますが、それよりも最も恐ろしいのは、前にも一寸述べたヂステムパーの襲來であります。仔犬から育てゝ多く死に到らしめるその八割位までは、此の爲めと云つても過言ではありますまい。此の病氣は人間で云えば、天然痘のやうなもので、犬の生命定めであります。しかも一度すませてしまえば免疫するものですから、無事にジステムパーを終えれば、犬の死亡率と云ふものは、ずつと減少してしまひます。從つてジステムパーをすませた證明のある仔犬は、その價値が數倍になるのであります。現にアメリカなどの犬の賣買價格は、ジステムパーの前後によつて、一と三の割合になつて居ります。卽ちヂステムパーをまだやつてゐない仔犬が十圓するものとすればヂステムパーをすませたものならば三十圓の價値になるのです。それによつても如何に危險であるかおわかりになりませう。

此の病は丁度子供のはしかのやうに、大概の犬が一度は冒されるものなのです。全然やらずにすまされゝばこれに越した事はないのですが、それはかなりむつかしいと思ひます。從つて私は

どうせやらなければならないのなら、なるべく輕く、生命に別條ない程度にすませる事を研究したいと思ひます。勿論、注意に注意をしてやらずにすませる事もできるので、現に私の飼つてゐるスパニエール二頭は、もう五歳になりますのに、遂にまだジステムパーをやらずにすませて居ります。もう一年以上もたつて相當に身體の土臺がしつかりして後ならば、多少の重患に罹されても、大概は助かるものです。私の宅の犬などはもうヂステンムパーで命をとられる心配はないと自信してゐる次第です。

さて、多くの方が愛犬を此の病に罹させる原因は、五割以上水で洗つてやる事にあると思ひます。前にも書きましたが、犬は入浴させたあと、人間のやうに水氣を殘らず拭ひ去る事はできません。例えば私共が頭髪を洗つたあと、如何に充分に拭つても水氣が取り切れぬと同じ事であります。その水氣の殘つてゐる身體に外氣の冷たい風が當りますと、所謂湯ざめを感じて風邪の因をなすのであります。それは水で洗つてやつても、湯で洗つてやつても結果は同じ事です。

そこで私は、生後一ケ年間は、絶體に仔犬に入浴をさせぬ事をおすゝめしたいのです。特に生來水泳の好きな犬で、夏の暑い日などに自から水に入りたがるやうな風でしたら、あまり長時間に渡らぬやう泳がせてやるのは惡くありませんが、その後で日當り好い處に置いて、水氣を乾か

してやる事を忘れてはなりません。嫌がるのに無理に水に入れたりする事は避けたいと思ひます。それも生後四ケ月未滿の場合には、まだ水に入れる事は止めた方が好いと思ひます。

ヂステンパーを最も誘發しやすい機會は、此の感冒なのであります。幼犬が風邪をひきましたなら、その五割以上はヂステンパーを誘發すると云つて好いと思ひます。ヂステンパーの病源體はあらゆる空中に游動してゐるものと見て差支えないでせう。從つて何か他の病氣に罹されて、衰弱した隙に冒されるものですから、平常の健康をよほど氣をつけてやらなければなりません。

其他、風邪をひかせない注意としては、母犬から離れたばかりの犬を、夜の冷たい風にあまり當てぬ事。雨などに當てゝ身體をぬらさぬ事。じめ〳〵と濕つた處に小屋を置かぬ事などであります。

それから、あまり大切にし過ぎて、寒いからとてちやんちやんこなどを仔犬に着せてやる事はどうかと思ひます。何故ならば、犬にはあの毛皮がすでに立派な防寒具の用をなしてゐるので、その上厚着の習慣をつければ、それだけ皮膚の耐寒性を失はしめる事になります。從つて何かの機會で、一寸でもそのちやんちやんこを脫がせると、その隙に風邪をひくと云ふやうな結果になる

のです。

すべて不自然な、あまり積極的な可愛がり方は、返つて犬の身體を弱くする因であります。犬には犬生來の自然があります。その自然のまゝに成長させて置き、むしろ消極的に健康を守つてやる程度が好いのだと思ふのです。

成長期の食物

仔犬の健康に對する第二の敵は食物の不注意であります。分量は體型によつて一定しませんが離乳期には體型に從つて腹八分目位の量を、一日五六回位與へる事は前にも申しました。さうして成長するに從つて一回の分量を增し乍ら、次第に回數を減じて行き、四ケ月目頃には一日三回にしてしまひます。そして三回の食事を六ケ月目から七ケ月目位まで繼續し、もう八ケ月になりましたら一日二回の習慣にする方がよいでせう。

食べさせる物の種類としては、外國にはドツク・フードとして特に粉末になつたものだの、固形のものだの樣々な理想的な食糧が造られて居り、殊にドツク・ビスケツトなどは最も理想的なものでありますが、日本でそれを求めると非常に高價なものになつてしまひます。それでは畜犬

趣味が贅澤な道樂になつてしまつて、一般的な趣味には向きません。で、日本ではやり米飯にならす方がよいと思ふのです。

ところで白米ばかり與へて居りますと、所謂白米病でありますところの脚氣が、犬をも襲ひますから、麥を交ぜて炊いてやらなければいけません。若し御家族の餘りもので飼つてやらうと思はれる方は、白米食から來るヴイターミンBの缺乏を補ふ爲めに、なるべく野菜分を充分に混せてやるやうになさらねばなりません。そして最初の離乳期に於きましては、若し一日二回牛乳をやるとすれば、あとの三回なり四回なりは柔らかいおじやを炊いてやり、成長するに從つておじやの程度を次第に固くしてゆき、一日三回の分量にする頃にはもう普通の炊き方にしてもかまひません。

次に肉食の事ですが。仔犬の時にはあまり固形の肉類を食べさせぬ方がよろしいと思ひます。牛肉とか豚肉とかを與へるにしても、ぢかに肉をやらないで、肉のスープでおじやをこしらえてやる程度が好いと思ひます。魚肉のやうな淡白な柔らかいものは差支えありませんが、牛肉などは消化が惡いので、兎角胃腸を害し易いのです。

それから成長期には是非共骨を與へなければいけません。殊に骨格のがつしりした種類の犬に

は餘程骨分を充分にとらせませんと、骨軟症などに冒されるおそれがあります。いくら好く成長した犬でも、骨軟症などに冒されてゐる犬は一種の不具であつて、如何に種類が純良でもその價値はないのであります。而し、うつかり幼犬に少さい骨でも與へやうものなら、骨の破片を咽喉に立てたりして、思はぬ害を受けるおそれがあります。ですから骨はなるべく太い固いものがよろしい。それも生のまゝでなく、必ず一度火を通して煮てやりませんと、胃腸内の寄生蟲を涌かすおそれがあります。

諸君は仔犬が石をかぢつたり、下駄をかぢつたり、或は格子戸をかぢつたりするのを御存知でせう。あれを單なるいたづらと解釋して、頭から叱る事は好くありません。あの現象は丁度齒の生え際に起るもので、人間の赤ちやんが玩具を口に入れたがるのと同じで、齒齦にむづかゆさを覺えるのです。で、何か咬んでみたい慾求を感じるのであります。これは一方に於ては自然の要求でありまして、固いものを咬む事によつて自然と齒齦が破れて齒の發生を助けるのであります。で、私は此の場合、固い太い骨を仔犬に與へる事をおすゝめ致します。下駄や石を咬むよりは骨を咬む方がどれ程仔犬にとつておいしいか知れません。從つて仔犬は骨を與へて置けば惡いいたづらもしなくなり、他方には齒の發生の助けになり、なほ又自然に骨の細かい破片がのみ込まれますから、それが骨の榮養にもなると云ふわけなのであります。さうして骨を煮出したスープでおじやを炊いてやるなり、或はそれを御飯にかけてやるなりすれば、一擧兩得と云ふ事になるのであります。

仔犬ばかりでなく成長した犬でも、此の骨を非常に好むもので、むしろ立派な肉をやるよりも骨の方を好む位であります。私の飼犬などは幼時からさうした骨を三日目四日目位には必ず與へる習慣にしてゐますので、何よりも大好物になつて居ります。他の食物でしたら何を與へても喧嘩にならず、仲好く食べてゐるのですが、骨のとり合ひになると時々大喧嘩を始めて叱られるやうな事がある程です。成犬には魚や鷄の骨も惡くはありませんが、幼犬には小骨は避けなければいけません。骨を與へる注意としてこれだけはお心得置き下さい。

なほ骨の榮養分として、骨粉製劑のラクトスターゼなどと云ふものもありますから、食事に混じて與へる事もよいと思ひます。すべてカルシューム劑は骨の榮養分として好いのです。粉末牛乳ラクトーゲンにも多量にカルシューム が含まれてゐますから、牛乳代用として用ひる事は好いと思ひます。

仔犬の成長期に於きまして特に必要な手當は、充分な運動をとらせてやる事であります。如何に榮養物の好い食物を與へたところで、それを充分に消化する力がなければ、結局榮養分が榮養にならず、反つて毒にもなるのであります。又骨の榮養分を充分に與へて骨を丈夫にしたところで、それを發達せしめるものは運動でありますから、運動不足ならば何にもならなくなつてしまひます。

では充分な運動をとらせる爲めに、犬をつながすに放任して置いたらどうだと云ふと、それは仔犬に樣々な惡癖をつける結果ともなり、又、色々な病氣の因などをなす結果となつていけません。やはり繫留するとか、運動場をつくつてやつて中に入れて置くとかして、あまり放任主義はいけないと思ひます。そして朝とか午後とかに時間を定めて、適度な運動をさせてやる方が好いと思ひます。

母犬が側についてゐますと、暇にあかしては仔犬のふざける相手になつてやつて、上になり下になり遊んでやるものです。そしい隨分仔犬の運動を助けてやるものですが、若し他家から貰つて來た場合とか、犬屋から買つて來た場合などには、始めのうちは珍らしさにふざけてもやりますが、三四日するうちには飽きて來て、つい忘れがちになるのが常であります。仔犬がふざけるのは生活力の旺盛な事を示す證據で、成長する爲めに必要な運動をふざける事によつて求めやうとする自然の要求なのですから、やはりある程度までは相手になつてやらなければいけません。ふざけたがらないやうな仔犬は、何處か身體の具合の惡い證據なのですから、さう云ふ時には注意をしてやるべきであります。

次に必要な事は皮膚の衞生であります。前に書いた通り洗つてやる事は禁物ですから、うつちやらかして置けば、身體はよごれ放題によごれてしまふわけであります。皮膚が不潔になれば自然と蚤や虱が涌いたり、蟎がたかつたりします。そればかりではなく恐ろしい皮膚病にも感染し易くなつていけません。ではどうすれば好いか。

それは必ずしも毎日の必要はありませんが、目の粗い櫛で毛をかいてやつて、そのあとを腰の強いブラシでこすつてやるのがよいと思ひます。犬屋などをたづねますと、特に犬の爲めのブラシがあるものですが、それに限つた事はなく、かるかやブラシを荒物店で買つて來てこれに用ひれば至極簡單であります。若し毎日時を定めてこれを行つてやる事にすれば、最も理想的だと

思ひます。

ブラシを使つてやる事は、單に毛色が綺麗になるばかりでなく、皮膚のマッサージにもなつて自然と皮膚が丈夫になり、皮膚病の感染を防ぐ最も好い手段であります。若し蚤や虱がたかつたやうでしたら、下に新聞紙でも擴げてやつてその上に横にして、身體に蚤取粉をふりかけて櫛をかけてやりますと、蚤や虱は弱つてぽろ〳〵と紙の上に落ちますから、終つた後に新聞紙を丸めて燒いてしまふやうになさると好いと思ひます。此處に注意すべき事は、害蟲驅除の意味などから、片腦油を用ひる方がありますが、これは犬の身體に害をなしますからいけません。あの強い匂ひの爲めに犬はひどく神經をたかぶらせ、どうかすると狂犬病のやうな徴候を見せる事もある位であります。

犬の蚤は人間にはたからないなどと云ふ人がありますが、決してそんな事はありません。ある時私の宅に病人ができましたので、暫く手當を忘れてゐましたところが、どうしたものか急に犬の蚤がふえて、それが人間にたかり出してえらい目に會つた事があります。人間のためにも此の注意は必要だと思ひます。又、内臟の寄生蟲が蚤や虱によつて媒介される事もありますから、充分注意すべきだと思ひます。

以上は主に肉體的の成長に就いて述べましたが、今度は精神的な方面に就いて書いてみたいと思ひます。「三つ兒の魂百迄も」などと申しますが、これは犬の場合にも重要な諺であります。仔犬の時につけてしまつた惡癖は、成長してもなか〳〵治るものではありません。肉體的の不健全は後日の注意で取返す事ができても、精神的な缺陷は、なか〳〵これを矯正する事が困難であります。

さて、犬を飼つて何よりも一番困る惡癖は何でせう。私は無暗に人に咬みつく癖が一番惡いと思ひます。此の惡癖は歐米人の飼犬にはめつたにない事ですが、どうも日本人の飼犬にはそれが非常に多いのです、どう云ふ事から此の惡癖が生じるのでせう。

私は、日本人は一たいに犬と云ふ動物に對する理解が足りないと思ひます。此の兩者の間に意志の疎通が缺けてゐる爲めに、様々な間違びが生じるのではないでせうか。犬もその昔野生時代には、相當獰猛な野獸であつたかも知れません。而し、幾千年の星霜を經て彼等は野から家に移され、今は全く家畜として最も從順な動物となり切つてゐるのです。彼等は常に如何にして人間

に愛されやうか、と云ふ事を考えてゐるのです。にもかゝわらず、鬼角我々日本人は犬を恐れます。私達が好く路傍で見る情景ですが、母親が子供に向つて、「そんなに犬の傍へ行つてはいけません。咬みつかれますよ。」とたしなめてゐます。子供の時から犬は怖いものだ、うつかりすれば咬みつかれるものだ、と云ふ觀念を吹き込まれて育つた日本人の頭には、犬を怖れると云ふ先入志がこびりついてゐるのです。これが最もいけない事ではないかと思ひます。

犬の方では一生懸命に親しみをみせやうとするのに、人間の方ではあくまでも敬遠主義をとる。しかも犬と云ふ動物は、人間の心を實に敏感に察するものですから、どうしても不愉快な感情を抱かないではゐられなくなつて來るではありませんか。その證據には、犬に咬まれる人は多く犬嫌ひの人です。私などは子供の頃から千以上の犬に接してゐるでせう。中にはかなり癖の悪いと云はれる未知の犬にも、幾度か手をかけた事がありますが、まだ一度も咬みつかれたと云ふ記憶がないのです。

餘談ですが、それについて面白いエピソードを持つてゐますから、一つ書かせていたゞきます。私の友人の家で物騒だから犬を一匹飼ふのなら良い種類のが好いと云ふので、ある犬屋から百圓ばかり出して土佐犬を買ふ事に致しました。ところが

その家の老人には、お金も出して犬を買ふなどと云つたら、それこそお叱言が出ますので、丁度私が犬好きだと云ふ事が知れてゐたので、私の宅から貰つたのだと云ふ事にして、その土佐犬をつれて歸つたものです。

ところが此の土佐君かな〳〵獰猛で、晝間はとても放してなどおけない位なのです。御用聞だらうが、お客樣だらうが、知らない顏の人を見ると、猛烈に咆えつくので、いさゝか困つてゐました。

或る時その友人が、私に云ふのです。

「君の家から貰つた事になつてゐる犬なのだから、一度僕の家へ犬を見舞ひに來てくれませんか。ざうすると老人にも非常に具合が好いと思ふのですよ。」

そこで私は承諾をして、ある日友人の家を訪れました。案の定、大きな土佐君が玄關の傍に悠々と寢轉んでゐます。私もこれはきつと咆えられるに違ひない。うつかり咆えられたりするとんだ失敗を演じてしまはなければならないが、と内々はびく〳〵し乍ら玄關に歩み寄つて行きました。そして私はがねてから聞いてゐた犬の名を呼びかけてやつたのです。

「おい〳〵、エスや。どうした。お前まだ覺えていてくれたかい。」

と私も大いに芝居心を出して舊友に會つたやうな事を云ひかけたものです。若しその時エス君が、例の獰猛さをでも發揮しやうものなら、それこそ大失敗に終るのでしたが、不思議にも彼はのつそり起き上つて、私の傍へ寄り乍ら、しきりと私の身體を見廻したり、匂ひを嗅いだりしてゐましたが、やがて嬉しさうに尾を振りつゝ、私に大きな頭をこすりつけて甘つたれて來たではありませんか。その時友人も、老人も出て來て此の樣を見まして、

「やつぱり偉いものだ。長く離れてゐても、元の主人はちやんと覺えてゐるね。」

などと云ふ事になり、私はすつかり面目を施してしまひました。それと云ふのも犬の方で、私が決して犬を怖れるものではない、自分たちの心を好く理解してゐてくれる知己だと云ふ事を見ぬいたからではないでせうか。

そこで私は考へるのです。先づ幼い頃から決して人間は犬を怖れてはゐない。犬の親しみを寄せる心に對しては、いつでも應じて愛してやるぞ、と云ふ事を犬の魂の中に吹き込んでやる事が必要だと思ひます。

それから出入の商人などにも、犬を恐れないやうに好く話してやるか。或は晝間はそんな人達の目につかぬどころへ犬を置くかして、犬の心を柔らかに育てゝやるが好いと思ひます。犬が惡

い事をした時には、勿論叱らなければいけませんが、その叱り方にしても憎くいから叱るのではなく、可愛いから叱ると云ふ心で叱らなければいけません。あまり慘酷に答を當てたりする事は考へものです。その爲めに犬の心を荒ませてしまひますから。飼犬も家族の一員だと云ふ心持を常に忘れないでやる事が必要だと思ひます。

そんなにしてしまつたら、番犬などはその役に立たなくなりはすまいかなどと考へられる方があるかも知れません。而し、犬はそんな馬鹿ではないのです。泥棒などはすでに忍び込む時に不安を心に抱いてゐます。犬がゐれば必ず恐怖を感じます。從つて犬の敏感な神經は、その不安な心、恐怖をすぐに察してしまひますから、こいつやつつけてやれと云ふ勇猛心を起す事は間違ひありません。その心配は杞憂に過ぎないと思ひます。

其他拾ひ喰ひの癖なども困ります。殊に獵犬に拾ひ喰ひの癖でもつくと、獵場へ行つて何か美味しいものでも落ちてゐると、その方に氣をとられて獵がお留守になつたりして困るものです。これは時間を定めてやる食物の他は何も與へず、何か喰物を落して置いて、それに苦い味のものを例えばゲンチアナ末（これは胃の藥で非常に苦いものです）のやうなものをつけて置いて拾はせるのです。するとそれを拾ひ喰ひしてひどく苦いので驚いて懲りてしまひます。そんな事を兩三

回くり返へせば大概やまるものですが、仔犬の時にそれをしなければいけません。

座敷飼ひの犬の糞尿の始末の悪いのにも困ります。これは家の中でしました時に叱言を云つてそのあとで一度、地へ下してやるのが好いと思ひます。而し、氣をつけてゐれば催して來た時の形はすぐわかるものですから、その時すぐに地へ下してやるやうにすれば、決して座敷ではしないやうになるものです。そして毎日時間を定めて運動に出してやるやうにすると、その時まではかなり我慢をしてゐるものであります。

まだ〳〵數へれば色々な惡癖がありますが、要するに犬の心を理解してやつて、叱言を云ふにも愛をもつて叱り、良い事をした時にはほんとうにほめてやると云ふ心で幼い時からしつけて置けば、素直な良い性質の犬になる事うけ合ひであります。人間の子供でもたゞ無闇に叱つても決して良い性質にはならないのと同じ事です。御自分の子供をしつける心持で飼ひ育てゝやる事が何より必要な一條件であると思ひます。

第三講　畜犬の衣食住問題

一　犬の住宅問題に就いて

畜犬の衣食住問題と云ひましても、勿論人類の上に於けるやうな經濟的問題ではなく、主に保健の上に立脚して述べるのである事は云ふまでもありません。その概要に就いては前講に於いてほゞ述べたつもりですから、多少それと重複するかも知れませんが、此處ではなほもつと專門的に渡つて述べてみたいと思ひます。

先づ犬の住宅、卽ち犬小屋に就いて研究する事に致しませう。一口に犬を飼ふと云ひましても小型な犬は家内に飼ふ場合もありますし、屋外だけで飼ふ場合もあります。で、最初は屋外で飼育する場合を標準にして述べる事に致します。

屋外住宅の必要條件

犬の保健上必要な、屋外犬小屋の條件を書き上げてみませう。

第一條件としては土地の選定であります。これはなるべく日當りの好い、風通しの好い、そして濕氣のたまらぬ場所がよろしい。いくら風通しが好いからと云つて、冬のさなかに北風の吹通しの好いところなどは困ります。それから溝板の上だとか、水の流れ道に當つてゐるところなどは避けなければいけません。

第二條件としては構造であります。これには固定式住宅と、移動式住宅との二種類がありますが、何れにしても必要な事は、出來るだけ内部に好く日光が射し込むやう造る事と、消毒が樂に出來るやう造る必要があると思ひます。

固定式と移動式とはどつちが好いか。これは場所の關係が非常に影響すると思ひます。郊外か或は田舍で廣い土地に犬を飼ふ場合には、相當廣い運動場を設けて固定式がよろしいのですが、都會地の如きあまり充分に土地のない場所では、どうしても移動式を選ぶべきだと思ひます。

A　固定式犬舍の構造

固定式犬舍は幾匹もの犬を飼ふやうな場合には、總ての點から見てよろしいと思ひます。殊に

副業的に畜犬をしてみやうなどと思はれる方は、此の式の犬舍を造られる事をおすゝめします。大きさなどは犬の體型や、飼養する頭數によつて異る事は云ふまでもありませんが、大體の理想を述べて置きませう。

十坪なり、十五坪なり、或はもつと廣く三四十坪なりの地所に固定式犬舍を造らうとする場合には、北面或は西面に犬舍の建物を造り、東南面を廣く空地にして置いて、これを運動場に當てるのです。これは日當りを好くする爲めと、北風西風を防ぐ必要からであります。運動場の三方は犬の飛越せぬ程度の高さに金網の柵を結ぶのです。何故金網が好いかと云ふと、一つには堅牢であつて犬の力では破り得ない事と、常に飼主の姿が見透されるので、自然家人との親しみも增し、犬も淋しがらぬ爲めとであります。他の一方は犬舍の建物がありますから、柵の必要はありません。

犬舍を造る材料は、コンクリートでも木材でも結構ですが、コンクリート造りにする場合には寢場所は別に木造のものを置いてやらなければいけません。これは直接コンクリートの上に寢せる事は、冬は非常に冷えますし、夏は熱氣がなか〳〵去らず、どつちにしても保健上面白くありません。が、然し、一方排水の點を考えますと、コンクリートに越すものはありませんので、最

も贅澤な理想を云えば、コンクリートの犬舍の中に、木造のベットを備えつけてやる事だと思ひます。

而し、運動場の方は土の地面そのまゝがよろしいのです。彼等に常に土を踏ましめる事の必要は、すでに前講に於ても述べました通りです。能ふべくば糞の始末をよくする爲めに海岸の砂でも敷いてやれゝば此の上ありません。

第一圖はコンクリート造り固定式犬舍の理想的設計圖として、私がデザインしてみたものであります。犬舍の床の左端に水道栓をつけたのは、水洗ひの掃除を樂にする爲めで、犬舍の床には少さくとも排水溝を造り、右端の排水口から汚水を排出させる仕かけにしたものであります。各個の犬舍の入口には、冬の夜間などに蓙のやうなもの、或は厚いズックのやうなものゝカーテンを下してやる事が好いと思ひます。扉にしますと犬が自由に出入りが出來なくなりますが、これならば自由自在で、防寒としても板戸などより好いと思ひます。最も開閉自在の扉でもつけてやれば理想的ですが夏は扉もカーテンも要りません。蚊の來襲を防ぐには、毎日一回づゝクレオリン液で洗つてやれば、その臭氣で充分だと思ひます。

寢小屋としては特に造らないでも、犬の大きさに從つてビールの四打箱とか、罐詰の四打箱とか云ふ有合はせの木箱に、底が直接コンクリートの床につかぬやう、一二寸の足をつけたもので好いと思ひます。これを各犬舍の中に入れて置いてやれば結構です。

第二圖は木造の固定式犬舍の設計圖でありますが、コンクリート造りよりもずつと簡單で、建築費なども數等經濟に上ります。運動場は前のものと同じですが、犬舍の方は小屋を入れてやる必要はありません。私が特におすゝめしたいのは、圖の如く蝶番にする開閉自在の屋根であります。掃除をします時に開け放して置けば、上から樂に出來ますのみならず、日當りの好い時に開放して置けば、日光が自由に射し込んで、理想的な自然消毒ができます。殊に小屋を洗つた後など、閉鎖された屋根ですとなか〳〵乾きませんが、これならば極めて短時間に隅々まで乾かす事ができます。たゞ注意すべき事は、雨が吹きつけた時、蝶番の隙間から中に流れ込むおそれがある事です。私はその用として、圖のやうな小屋根を別につけて置きました。

B　移動式犬舍の構造

固定式犬舍は前に述べました通り、場所とか土地の問題がありまして、簡單に犬を飼つてみやうと云ふやうな場合には、あまりに大袈裟すぎるやうに思はれます。此の移動式の方ですと到つ

て簡單で、殊に一匹か二匹お飼ひになるのには、前者のやうなものはむしろ無用の長物ですから此の方をおすゝめしたいのです。

特に大きい犬を飼ふのでなかつたら、家具店あたりに問合はせれば、出來合ひものでもなくはありませんが、犬小舍の古物をお求めになる事はおやめになる方が好いと思ひます。何故なら、多く古物屋に賣る犬小屋などは、飼犬が病死したので、不要になつた品物なのですから、その爲めにデステムパーを貰つたり、惡性の皮膚病を貰つたりするものです。出來得れば幾らのものでもありませんから、大工に造らせる方がよろしいでせう。

第三圖は私の經驗から設計してみた移動式犬舍の圖であります。大きさは犬の形に從つて、適度に定めなければなりません。此の小舍でも特長は開閉自在の屋根であります。これは蝶番で頂上から開閉するやうにしますと、やはり隙間から雨水がもるおそれがありますので、組合はせた まゝで取り外す式が好いと思ひます。多少重くなるかも知れませんが、あまり大きい犬舍でなければ、御婦人の力でも此の位のものでしたら、取外しはできるだらうと思ひます。

入口の方はなるべく東か南向にして、寒い北風や西風を防ぐやうに置かねばならぬ事は前と同じであります。そしてお天氣の好い日には、屋根は取外して置いて、日光消毒をしてやる事をおすゝめします。

犬小舍の必要條件として、第三に數えるべき事は、清潔な敷物を入れてやる事であります。これは古毛布だとか、綿のはいつた布團だとか云ふものよりも、藁が一番好いと思ひます。毛布とか布團はすぐによごれてしまつて、その度に洗濯をすると云ふ事は、なか〳〵大變な仕事であります。消毒をすると云ふ事も一通りではありません。うつかり不潔にして置けば、すぐに蚤や虱の巢となつてしまひます。藁ならばたとえ毎日新らしいものに取換えてやるとしたところで、費用は僅かなものであります。そして溫かさに於ても、毛布や布團に決して劣りはしないのです。居心地が惡からうなどと思はれる方があるかも知れませんが、毛布や布團を入れて貰ふよりも、犬にとつては藁の方がずつと居心地が好いのです。犬は足で藁をかきむしつて、自分の寢心地の好いやうな形をつくり、その中にうづくまつて眠るのが一番心地好いやうに思はれます。藁は五日か一週間目位に新らしいものに換えてやれば充分です。敷いてやる分量は、米俵一俵分位で結構です。小さい犬小屋でしたら、半俵でも餘る位でありませう。

第四の必要條件は常に清潔を保つてやる事であります。犬小屋の掃除は出來得れば。天氣の許す限り、毎日してやるべきであります。常には敷藁を取出して內部を掃いてやり、日當りの好い

日でしたら敷藁も、内部も日にさらして自然消毒をしてやるのです。隔日位に水洗ひをしてやられゝば猶結構です。そして一週間に一度位はクレオリンの五%液で洗つてやり度いと思ひます。

犬小屋の近くに大便でもしました時は、氣がついた時に卽座に掃き取つてやつて、そのあとに石灰をまいて置いてやるのが好いと思ひます。夏などはすぐに蠅がたかりまして、その蠅が屋内にも飛込んで來る事を考へるといやではありませんか。

屋內住宅の必要條件

小形の犬を屋內に飼ひます場合にも、やはり一定の犬小屋を用意して置く方が好いと思ひます。歐米では様々な屋內犬舍が研究されて居りますが、歐米と日本とでは住宅形式がまるで違つてゐますから、そのまゝ取入れる事は矛盾だと云ひます。日本でも近頃歐米式の所謂文化住宅と云ふのが流行してはゐますけれど、靴のまゝで寢室までも這入る程洋化したものは殆どなく、靴をぬいで上る折衷式が多いと思ひます。從つて犬も外國のやうに、土足のまゝで這入り込むやうな事はないと思ひます。

外國には好くちやんと屋根つきの、屋外のものと同じやうな形で造られた犬舍を、家の內に置いてゐるのを見かけますが、日本ではその必要はないと思ひます。もつと簡單な、例えばビールの一打箱位のものに、布團でも敷いてやつても好いではないかと云はれる方もありませう。さうしますと、どの布團でもおかまひなしに敷くやうな事になつて、はつきりしたけじめがなくなります。お客樣に布團をすゝめやうとすると、犬の脫毛がついてゐたなどと云ひ事はあまり見かけの好いものではありません。

それのみではなく、犬の保健上から考へましても、冬期など炬燵の中に犬を入れたり、火鉢の傍の暖かい處に犬を置いたりする事は、犬を弱くする原因でありますから、なるべく常住は火の氣の遠いところに置く方が好いのです。その爲めには一定の場所に犬小屋を置いて、そこを住居と定めて置く必要があると思ひます。屋內に飼はれた犬は一體に寒さには弱いものですが、それでも能ふ限り寒さに慣らせて、皮膚を強くする必要がありますから、小屋を置く場所は火の氣に遠いところを撰ぶ方が好いと思ひます。あまり火の傍にばかりゐますと、一寸運動に出したりした事でも風邪をひかせたりしてしまひますから。

屋內犬小屋の敷物は、藁ですとお座敷に藁屑を運んで來たりして困りますから、布團か毛布が

好いと思ひます。そしてなるべく白い清潔な敷布をかけてやり、始終洗濯をして取換えてやらなければいけません。日當りの好い日には毛布や布團を出して、日光消毒をしてやる事は前と變りありません。

犬でもやはり自分の定まつた居場所を持つと云ふ事は、何かと居心地も好く、身體も安さるものなのですから、是非用意をして置くべきだと思ひます。

二　犬の着物の手入れ

犬の着物と云ひましても、特に犬に着せてやる着物の意味ではなく、犬には自然にそなはつてゐるあの毛皮がすでに立派な着物なのですからそれを如何に手當てをして、常に美しく、丈夫に守つてやるべきかと云ふ問題なのであります。前にも述べました通り、始終洗濯をしてやる事は勿論悪い事ではないのですが、兎角失敗を招き易い。特に仔犬の場合には危險が多いのであります。無暗と入浴させる事は好ましくありません。では常にはどうすれば好いか。それに對しても前に一寸述べました通り、櫛で梳いてやる事と、ブラシでマツサージしてやる事が最も好い方法だと思ふのです。蚤や虱の注意についても、既に蚤取粉を用ひる事は述べて置きました。

犬の入浴法

さて、犬には入浴が絶對に不必要であるかと云ふと、決してさうではないのです。一年未滿の仔犬には避けた方が好いのですが、全く健康に成長しきつた犬に對しては、毎月一回位づゝ入浴させた方が好いのです。それも冬期はなるべく回數を減じ、寒い風の吹く日などは避け、入浴後は水の全く乾くまでは外氣にふれさせないやうに注意してやらなければいけません。毛の短い種類の犬ならば、水の乾き具合も早く、割合失敗が少いのですが、長毛の犬に對しては充分の注意が必要であります。

入浴させます方法としては、洗濯だらひにあまり熱からず、と云つて日向水のやうなぬるすぎぬ程度の微溫湯を入れ、（人間が這入つて丁度好い程の熱さでは犬には熱すぎますから、人間にはぬるすぎるかなと思ふ程度でよろしい）その中に犬を入れまして、藥用軟石鹸を用ひて洗つてやるのが理想的をあります。犬の皮膚はあの厚い毛で覆はれてゐますので、人間のよりは弱いものであります。從つて人體用の石鹸では強すぎる事があります。藥用軟石鹸は藥店に行けば賣つて

居ります。カリ石鹸と云つて買ひに行けば、何處でも賣つてくれます。

さうして汚れを洗ひ落した後に、もう一度清潔な微溫湯で石鹸水を洗ひ流してやり、そのあとで硫肝浴をさせてやる事をおすゝめ申します。硫肝(浴甲硫華加里)と申しますのは、固い硫黄の結晶でありまして、これも藥屋でどなたにも分賣する普通藥であります。此の固りの親指の先位の大きさを六七個中形のバケツの中に入れて、熱湯を半分位注ぎ込んでかきまわしますと、結晶は殆ど溶解して黄色の臭い水ができます。それに冷水を注ぎ込んでバケツ一ぱいにのばして、丁度好い頃の溫度に致します。さうしてこれを水洗ひのすんだ犬の身體にかけて、好くなすり込んでやるやうにするのです。

これをしてやりますと、蚤や虱は勿論死んでしまひますし、惡い皮膚病の黴菌なども死滅してしまふばかりでなく、少し位の皮膚病は一二回の硫肝浴で完全に治療されてしまふ位であります。私は様々な藥を用ひてみてもはつきりした快方に向はなかつた皮膚病の犬を、僅か一回の硫肝浴で全治させたやうな經驗もある位です。

白い毛の犬ですと硫黄の色があとに殘りますから、もう一度水洗ひをしてやつても效果が消えてしまうやうな事はありません。而し多少黄色い色が殘つても、それはほんの二三日でとれますから、そのまゝにして置く方が好いと思ひます。

さうしてすつかり入浴が終つたなら、最初はぬれた布を絞つて拭つてやつてもよいのですが、最後によく乾いたタオルのやうな厚味のある柔らかい布で、幾度も幾度も拭つてやつて、能ふ限り水氣を拭ひとつてやらなければいけません。そして夏ならば日當りの好い處に短かく繋いて置いて、水を乾かしてやり、冬ならば硝子戸の内のやうな日當りの好い處で乾かしてやるのです。入浴の後にはよく犬が轉げ廻つて、身體を土になすりつけ、折角綺麗に洗つてやつた身體を、又めちやくちやにしてしまふ事がありますから、外に乾かす時には、芝生の上に置くとか、或は蓙でも敷いてやるとかして、よごさぬ注意をせねばなりません。

犬のお化粧に就いて

歐米では白い長毛の犬の事を、パウダー・ドツク(お白粉犬)などと申します。有名な愛玩犬のプードル種などは、フランス語のお白粉と云ふ言葉から來た名稱だと思ひます。何故さう云ふ名が生れたかと云ひますと、白い長毛の犬にはお白粉でお化粧をしてやるからなのであります。私は外國のドツク・ショウ(畜犬品評會)に參りまして屢々見た情景ですが、ボルゾイ種だの

ホワイト・コリイだのと云ふ犬の飼主が、まるで自分の子供の世話でも見るやうに、そして自分の犬を少しでも立派に見せて賞品を獲得しやうとして、一生懸命お白粉でお化粧をしてやつてゐるのです。まるでお嫁入をさせる娘に浮身をやつしてゐるやうなその飼主の態度に、私は幾度か微笑をさせられたものでした。

此のお白粉は特にドツク・パウダーと稱するものもありますが、並通はタルカン・パウダーで結構なのです。これを毛の中に振り込んでやつて、ブラシでよくすり込んでやるのですが、これは單にお化粧の意味ばかりでなく、皮膚の衞生から云つても非常に好いのですから、白い毛の犬のみに限らず、時々此の方法を用ひてやる事は非常に好いと思ひます。普通のお白粉ではやり切れませんが、タルカン。パウダーならばさう高價なものではありませんから、さしたる贅澤でもないと思ひます。

それから日本にはあまり居りませんが、前に書いたプードル種は、よくライオンのやうな形に毛を刈り込んでやります。近頃は支那犬のチヤウチヤウ種や、ポメラニアン種などにも此の刈り方を用ひてゐるのを見かける事があります。長毛のプードル種などは、毛がもつれ合つたりして始末に困る事があり、殊にどうしても毛の中が不潔になり易いので、此の刈り込みをやつたのが

因て流行り出したものでせう。

さうした犬の毛を刈る時期を注意してやらなければいけません。長毛の犬は必ず短毛の犬よりも皮膚の耐寒性が弱くなつてゐるものです。從つて毛を刈つてやれば風邪をひき易くなります。ですから、刈る時期は必ず晩春から晩夏までの間でなければいけません。秋口に入つから、刈つてやりますと、すぐ寒い冬が來ますからいけません。夏のうちに刈つてやつて、次第に外風が冷えて行くのに慣らせるやうにしませんと、必ずやりそこなうものです。かう云ふ犬は多く高價なものですから、特に注意を書き添えて置く事にしませう。

三　畜犬の食糧問題に就いて

畜犬の食糧問題に就きましては、前講に於てすでにその大要を述べ盡したやうに思ひますから、此處ではその補遺として二三氣のついた事を述べて置きませう。

一口に此の畜犬趣味を犬道樂などと申しますが、小鳥道樂とか、金魚道樂とか云ふのとは違つて、單に樂しむのみならず畜犬には樣々な實用が伴つて居ります。私は概して此の畜犬の趣味が

非常に贅澤な道樂の如く誤解されてゐる事を殘念に思つて居ります。小鳥や金魚こそ全く何等の實用的價値のない、贅澤な道樂なので、畜犬とはまるで性質が違ふと思ひます。

どうして此の實用的な畜犬趣味を、贅澤な道樂視されるのでせうか。私はその最も大きい原因は食糧問題にあるのではないかと思ひます。犬を飼つてみるのも好いが、食物に大變お金がかゝるさうだからなどと云ふ聲を私は屢々耳にするのです。人間だつて贅澤な食物ばかり喰べてゐる人には粗食は口に合ひませんが、粗食に慣れた人にとつては一片の燒芋でも大變な御馳走になるのです。犬も同じ事で贅澤をさせればきりがありませんが、粗食に慣らせばどんな物でも嬉しがつて喰べるのです。そして粗食をしてゐる者が、贅澤な食物をとつてゐる者よりも弱いかと云ふと、反つてそれは反對の傾向があると思ふのです。人間でもさうではありませんか。贅澤な生活者決して健康でなく、むしろ粗食をしてゐる下層階級の人の方が健康體が多いのです。勿論それは食物ばかりの關係ではないでせうが、習慣一つで粗食の中からも充分の榮養が攝取せられるのであります。

上流の富裕な方々が外國物のドツク・フードを買つて、犬にお與へになるのも決して惡くはありません。而し、それが必ずしも日本に於ける最善の畜犬法ではありません。どうかして食料品

店に舶來のドツク・フードが品切れになつた時、有合せの米飯で間に合はせると、屢々お腹をこわすものなのです。お腹をこわさないまでも、大概の犬は不慣れな食事を嫌つて喰べやうと致しません。さう云ふ場合を想像しますと、日本ではやはり日本式の食糧に慣らし、有合せの食物を與へると云ふ飼育法の方が自然で好いと思ひます。そして贅澤にさせればきりがないのですから、なるべく贅澤にならぬやう、味噌汁でも、魚のお餘りでも、犬の身體に害をなさぬものならば何をやつても喰べると云ふ式の飼育法が好いと思ひます。その方がむしろ贅澤な食事をとらせるよりも健康に育つものです。

犬の食物の適不適

仔犬に與へる食物に就いての注意は、既に詳しく述べましたが、完全に成育し切つた犬にも、勿論注意を要する食物があります。最も注意すべきものは糖分の多い菓子類であります。殊に餡のはいつたお菓子などは避くべきであります。兎角甘いものは胃腸をこわし易く、寄生蟲でも涌かしてゐるやうな時には、その爲めに一層寄生蟲の跋扈を助ける結果となります。害あつて益なきものでありますから、たとえ犬が好きましてもやらぬ方が好いと思ひます。

次は肉食に就いての注意であります。元來犬は肉食動物でありますから、肉を與へるのは好いのですが、あまり脂肪の多い豚肉などはよろしくありません。魚肉にしても鰻のやうな脂肪の强いものは、餘りものがありましても避ける方がよいと思ひます。

骨が犬の爲めに非常に好い事は前にも述べました。これは仔犬の時のみでなく、成長した犬にも好いので、幼時から與へつけますと大好物になるものですから、その習慣をつけると好いと思ひます。特に犬が好きますものにレバー（肝臟）があります。日本では洋食店でもあまり用ひませんが、外國では豚や仔牛のレバーは人類間でも非常に賞美されます。私なども大好物の一つであります。此のレバーを犬は非常に好きますから、牛肉店に賴んで置いて取寄せまして、鹽味だけで煮出してやりますと好いと思ひます。安いものですから、變な小間ぎれなどを與へるよりもずつと好いと思ひます。

野菜類では澱粉質の多い芋類をあまり澤山與へる事は好くありません。薩摩芋とか、馬鈴薯とかは控え目が好いと思ひます。これらのものは消化不良を起し易いのですから、注意すべきだと思ひます。

それから常に清水を與へる事を忘れてはなりません。水は人間にも必要物である如く、犬にもなくてはならぬものなのです。殊に夏の暑い日とか、運動から歸つて來た時などには、ひどく咽喉を乾かしますから、いつも犬の傍に清水を置いてやるやう心がけなければいけません。

食事の量は犬の大小に從つて自然と相違があります。仔犬の時にはかなりめちやくちやに喰べたがるものですが成長し切つて親犬は、ある量まで喰べますと、あとは食べ殘してしまひます。さうして毎日定まつた分量のものを與へるやうなさなければいけません。それから朝食は夕食よりも少な加減が好く、質もなるべく朝はあつさりしたものゝ方が好いと思ひます。

何か藝でもして御褒美に與へるお菓子類としては、ビスケットのやうなものが好いでせう。それもあまり糖分の强くないものを選ぶべきであります。

食物が性質を左右するか？

食べる物の質に從つてその性質に變化を及ぼすかどうかと云ふ問題に就いては、人類の間に於ても色々と問題になつて居るやうです。様々な說が學者たちの間にもあるやうでありますが、私自身の經驗から研究してみますと、どうも食物によつてかなり性質が變るやうに思はれるのであります。

氣の強い犬にあまり濃厚な食物を與へますと、兎角間違ひが起り易いやうであります。人間で例へてみれば、我々日本人は一態に菜食を主としてゐるのに對して、歐米人は肉類が主食の如くなつて居ります。此の兩者の間の特質を研究してみると、日本人は理性的であり、歐米人は感情的であります。日本人の間では喜怒哀樂の感情を露骨に色に現はす事は恥づべき事とされて居ります。忍耐と云ふ事が昔から一つの美德とされて居るのであります。これは感情を理性が征服し得て、始めて可能となる事であります。ところが歐米人の間ではそれが全く反對で、感情を動くがまゝに外に露はす事をもつてよろしとされて居るのであります。外人は少ばかり悲しい事があつても、人前も恥ぢず泣き出したり致します。それから人と別れる時などでも、恥も外聞もなく接吻しあつたり致します。

今日ではさうした行爲が一つの習慣となつてゐますので、にわかに食物を改めたところでそれが急變すると云ふやうな事はないでせうが、その習慣の依つて起つた原因は食物にあるのではないかと思はれます。

動物學上の分類では、犬は肉食獸となつて居ります。犬もその昔、ライオンだの、狼だのと云ふ獸類と一緒に、原野に群棲してゐた時代には、純然たる肉食獸であつたに相違ありません。而

し幾千年の星霜を經て、今日全く家畜となつてゐる犬を、昔の野獸時代の犬と同一に見る事はできないと思ひます。犬は肉食獸として體質を受け繼いでゐるのだから肉を主食とすべきであると云ふ說に對しては、私はいさゝか異論を稱へ度いのであります。犬が野獸から家畜にまで變化されたのは、家に飼はれて菜類を喰べさせられるやうになつたからと思ふのです。

野菜類がわれ〳〵の腦神經を安めると云ふ說は皆さんも御聞及びの事と思ひます。卽ち犬は菜類を食する事によつて、粗暴であつた腦神經を安められ、次第に今日の柔和な從順な美質が生まれて來たものだと私は思ふのです。從つてこれに肉類を主食として與へる事は、やゝもすると犬に昔の野獸性を呼び起させる結果となりはしなうでせうか。濃厚な食物、卽ち肉類を主とした食物をあまり與へると、犬が粗暴になると云ふのは、かうしたところから來るのだと私は思ひます。

勿論、元來が肉食動物である犬を、馬や牛の如く火も通さない生草を喰ふ菜食獸にまで變化させる事はできないでせう。又、その必要もないのですが家に馴らす爲めには、菜類を主に、肉類を副にした食物が好いと思ひます。近頃歐米でも犬に菜類を主として食物を與へる方が好いと云ふ說が多く、殊にシエパアードの如き野性に近い犬を飼ふには、その方が結果が好いと云ふ事であります。

而し又、犬の用途によりましては、感情的に育てなければならぬ場合もありまして、さう云ふ時には肉食が適するのであります。例へば獵犬の如く、殊に野獸狩に使用する、獵犬などは、感情的にしなければ役に立たぬ場合があります。それから近頃歐米で流行してゐる犬の競走などに參加させますには、好く生肉の挽いたのを、お團子にして食べさせて居りますが、これなどもたしかに效果的だと思ひます。獵犬も獵期に入りましたなら、此の式に肉團子を與へましたら、或は一層效果をあげるのではないかと思ひます。私は狩獵を直接にやりませんので、此の研究をする機會がありませんが、誰方か御實驗になる方がありましたら、その結果を御報告願えれば幸だと思ひます。而し生肉は寄生蟲の危險がありますから、注意して時々驅蟲劑を與へるやうになすつて下さい。

日本では人間が一體に菜食主義でありますのに、特に犬だけ肉食主義にすると云ふ事は、經濟的に申しましても不合理が生じます。その不合理がやがては折角流行し始めた畜犬趣味を、衰微せしめる事にもなると思ふのです。さう云ふ意味から申しましても、私は一般的にどちらの御家庭でも實行し得る菜食主義を提唱したいのであります。

第四講　畜犬の四季衞生

一　春の衞生

一年を晝夜二十四時間に比較してみますれば、春は丁度黎明期に相當致しませう。總てのものが冬の寒い眠りから目醒めて、活動期に入らうとする時であります。まことに明るい、陽氣な時季であります。從つて肉體的にも、亦精神的にも急激な變化の來る時期でありまして、色々な意味から最も注意を要する季節であらうと思ひます。

此の影響は勿論犬にも及ぼします。俗に「木の芽立ち時」などと申しまして、潛伏してゐた病が急に頭を持ち上げるのも此の季節であります。

精神的變化に對する注意

我々人界に於きましても、春は惱みの多い季節でありまして、精神病者などの數が急激に增加

致します。冬の陰鬱な世界から、急に陽氣な世界が開けますので、氣持にもゆるみが生じますし光線も急激に明るくなつて來ますから、頭も強い刺戟を受けずには居りません。從つて此の季節には多く犬の發情期なども誘發され易いのです。

たゞさえ精神的の刺戟の強い時期に當つて、年に一二回しか來ない發情期が來たとしたならば、その精神的動搖は正に人間以上であらうと云ふ事は想像に難くないと思はれます。その爲めに普段から氣の強い犬でしたなら、一層粗暴になつて來て、人に咬みついたりするアクシデントが起り易くなります。又氣の弱い臆病な犬でしたら、ふとした事などにも驚き易くなり、常には人に咬みつくやうな事のない犬でも、何かのはづみでさうしたアクシデントを起す事が屢々あるのです。

殊に此の季節には恐ろしい狂犬病なども發病し易いのですから、うつかりそんな事から狂犬病と間違えられたりして、捨てないでもよい命を落さねばならぬやうな事になつてはあまりに悲慘であります。狂犬病に就いては稿を改めて詳述するつもりですが、勿論これは狂犬病毒に冒されてゐない場合には發病するものではありませんが、果して自分の飼犬が病毒の潜伏期にあつたかどうかをたしかめる事はできません。うつかりしてゐるうちに何時か感染してゐて、そ

れが春の惱ましさに誘發されでもしやうものなら大事件です。又他處の發病した犬などに、うつかり愛犬を咬まれでもしましたら、これも飛んだ災難であります。

春は犬にも精神的變化の起り易い時期であり、發情期も誘發され易い時期であると云ふ事を頭にお置きになつて、それ〴〵の注意に怠らぬやうお願ひ申します。殊に狂犬病に對する注意はその災害が犬のみには止まりませんから、一層怠らぬやうせねばなりません。かう云ふ時期にあまり濃厚な食物を與える事は考え物だと思ひます。

皮膚に對する注意

人間でも潜伏してゐました皮膚病などは、春の所謂「木の芽立ち時」には兎角誘發され易いものであります。犬に於ても同じ事で、前年患つてやうやく治つたと思つてゐた皮膚病が再發したり、皮膚病の氣などは微塵もなかつた犬が、急に冒されたりするものであります。

これは一つには冬の寒さで畏縮してゐた病菌が、再び活動期に入る爲めと、もう一つには蚤や虱や蟎が急激に增加する害とによる事が多いと思ひます。此の蟎と云ふ奴は始末に惡い害蟲でありまして、如何に犬自身を清潔にしてやつて置いても、一寸運動などに出してやつた時などに地

面から貰つて來たりするのであります。そして蚤取粉位では決して死滅致しません。此奴は皮膚に喰ひついて血を吸ふのではなくて、皮膚を破つてその奥の神經に喰ひつくのでありますから、なか〳〵櫛でかいてやつた位では落ちませんし、その痛さも蚤や虱のかゆさとは別であります。蟎に慣れた犬はそれ程の事はないやうですが、不慣れな犬の神經質なのになりますと、小さい蟎がたつた一匹足の指の股位に喰ひついてゐる爲めに、全身の神經系統に痛みが傳はり、尻尾の先の毛一筋にさわつても痛がるやうな場合がありますくかうした事があります。そしてたつた一匹外から貰つて來た爲めに、それが卵を生みつけたりして急激に繁殖し始めまして、始末に困るやうな事があります。一度繁殖したが最後、それを根絶すると云ふ事は先づ困難と云つて好い位ですから、餘程注意が必要だと思ひます。

　冬の間は多く地中に潜んでゐて、あまり犬に害を及ぼしませんが、春になると地中からぬけ出して犬の足の屆かないやうな部分に喰ひつきます。四肢の指の股とか、脚の裏側だとか、耳のうしろだとか、或は耳の孔の中などに喰ひつくものですから、運動に出しましたあとなど、一應調べてやる方が好いと思ひます。此奴は犬の身體にも卵を生みつけますが、多くは地に落ちて地中に産卵し、それが孵化して再び犬に喰ひつくのが普通です。大きさは針の孔のやうな小さいのもありますし、俗に豆蟎と云ふのになりますと、大きな大豆粒位のものもあり、色は小さいのは赤褐色を呈して居り、大きいのは暗灰色のまことに不氣味なものであります。頭は小さく、胴が大きくふくらんで居りまして、その小さい頭を深く皮膚の中に喰ひ込ませて居りますから、ピンセットでもつまんで、一氣にむしり取りませんと、なか〳〵取れません。とつたあとは赤くふくんでゐて、どうかするとそのあとが加膿したりして、濕疹（エクゼーマ）と云ふ皮膚病になつたりする恐れがありますから、沃度丁幾でもつけて置いてやる方が好いと思ひます。犬が跛足をひいてゐる時は、多く此奴にやられてゐるのですから、痛がりましても無理に押さえつけるやうにして取つてやらなければいけません。

　豫防法としましては犬舍の清潔が第一であります。そして若し蟎がたかつたと思ひましたならば犬舍を熱湯消毒してやりまして、そのあとにクレオリン溶液をかけて置くのであります。それからもう一つの豫防法は、此奴コールタールが嫌ひですから、固定式犬舍でしたらば外柵の裾をコールタールで塗つて置く事が好いと思ひます。さうすれば外部からの浸入が防げます。移動式でしたならば、箱の腰から底にかけて外部をコールタール塗にしてやる事であります。而し内部をあまり塗る事はあの臭氣が直接すぎて好くありませんし、暑い時などは溶け出して犬體を汚しま

すからいけません。

若し蟎がゐる事を發見したならば、それまで用ひてゐた寢藁は直ちに取出して、燃してしまはなければいけません。そのまゝゴミ箱の中にでも入れますと、反つて繁殖を助けるやうな結果になります。移動式犬舍で私の設計したやうな屋根のとれるものでしたら、その焚火の焔が消えてしまつたあとに、屋根をとつた小屋を伏せて置いて、内部を燻してやる事が最も好いと思ひます。

皮膚病の感染併びに再發を防ぐ方法としましては、冬期はあまり洗つてやる事ができませんから、春に入つて日當りの好い暖い日を選び例の硫肝浴をしてやる事が最も好いと思ひます。そして皮膚病のきざしがありましたなら、浴後患部に亞鉛華軟膏を塗布して置いてやる事です。

二　夏の衞生

人間ならば春夏秋冬その季節に從つて、着物を變えて行きますから、それによつて暑さ寒さに對抗する事ができるのですが、それでも夏の暑さにはかなり閉口させられるものです。ましてや

冬も夏も同じ一つの毛皮を唯一の着物としてゐる犬に於ては、どんなにかつらい事でありませう。短い毛の犬、例えばフオツクス・テリヤだの、グレイハウンドだの、ブルドツクだのと云ふ犬にとつては、夏はさまでゞはないでせうが、長い毛の犬、例えばプードルとか、コリイとか、ヨークシヤ・テリヤとか云ふ犬にとつては、それこそどんなに暑苦しい事でせう。

かうした長毛犬は晩春から初夏にかけて、自然と脫毛期がやつて來まして、多少の調節はされるのでありますが、綿入れをぬいで浴衣になると云ふやうなわけにはとても行きません。そこを餘程考えてやらなければいけないと思ひます。と云つて、プードル種にするやうに、他の長毛の犬をどれでもおかまひなしに毛を刈り込んでやると云ふ事は、犬自體の美觀を損じて困ります。

殊に犬は我々の如く汗腺を皮膚に持つて居りません。つまり汗をかゝない動物なのであります。諸君はよく暑い日に、犬が舌を長く出して、涎をたらし乍らはア〳〵云つてゐるのを御覽になるでせう。あれが犬に行はれる發汗作用なのでありますから、あの狀態にある犬は餘程暑苦しいのだなと云ふ事を察してやる必要があります。

次に順を追つて夏期の犬に對する衞生を述べませう。

日本で犬を飼ひますのに、最も危險な時期と申しますならば、此の初夏の梅雨期でありませう。仔犬で失敗するのは大概この季節であります。それから近頃アメリカの西部、カリフオルニア方面から犬を輸入する方が多くなつた樣に思ひますが、さうした場合など大概は此の梅雨期にしくじりをやつてしまひます。何故ならカリフオルニアなどは四月から十月頃までは殆ど降雨がなく、十一月頃から翌年三月頃までを雨季と申しますが、それでも雨は一ケ月に一二回しかありません。丁度私は十一月から三月まで全雨期を南加州のロスアンゼルスに過した經驗がありますが、今年は雨が多いと人々が云つてゐるのに、一ケ月に二度ばかり降るきりなのです。そしてあとの日は日本の五月頃のやうなまことに朗らかな陽氣であります。從つて市街には雨に對する特殊な設備を殆ど必要としませんので、たまに大雨でも降ると、低地の街などは川のやうになつてしまひます。さうした理想的な健康地に育つた犬を、そのまゝ日本につれて來まして、失敗をしない方が不思議な位だと私はつく〴〵思つたものであります。

さて、犬の健康狀態に必要な一條件としては、土地の乾燥と云ふ事なのであります。乾燥した

土地には惡疫の黴菌も潛伏の餘地がありませんし、蚤や虱や、殊に蠣の繁殖も困難なのであります。一度濕氣を招きました犬の身體を全く乾燥させると云ふ事の困難は、すでに幾度か述べたところであります。

毎日々々降り續く雨に犬の身體をぬらしますと、もう乾かす時がありません。かて〵加えて氣溫も毎日不順でありますから、濕つた身體に冷たい風でも當りますと、たちまち風邪に冒されてヂステムパーの因をなすと云つたやうな危險があります。それのみではありません。皮膚病にも冒され易く、又、自然と運動不足になり勝ちですから、胃腸の具合も思ふやうに順調には參りません。

梅雨期には犬舍はなるべく雨滴れなどの下に置かぬやう注意が必要であります。排水の好い場所に置いてやつて、少しでも日が當れば地面の乾くやうな所を選ぶべきであります。若し日でも當るやうな日がありましたなら、その間に犬小屋の消毒をしてやり、あとを充分日光消毒を施し同時に犬自身にも充分な運動をとらせてやる事を心がけなければいけません。寢藁も普段よりは度々新らしい乾いてゐるものと取換えてやる事、食事も運動の不足な時には量を減じて、消化の好いものを與えるべきであります。

犬舎を洗ふ事は、若し又すぐに雨になりさうな日には、たとえ陽が當つてゐましても避けた方がよいでせう。まだ乾燥し切らぬうちに、犬を入れなければならぬやうでは、反つて害を及ぼすやうな事になります。入浴なども餘程注意を要します。

盛夏に於ける注意

さうして、梅雨期が終りますと、早速炎熱灼くが如き盛夏がやつて參ります。私は今迄に再三陽當りの好い處に犬舎を置くべき事を力說致しました。而し、たゞさえ暑い夏の最中に、毛皮を着せられてゐる犬を、その上かん〳〵照りつける中に置くと云ふ事は、常識的にもいけない事は御承知と思ひます。毎日朝のうちにでも日光を充分あてゝやりましたなら、移動犬舎でしたらあとは日蔭の涼しさうなところに移してやるとか、固定犬舎でしたら適當な日覆ひをつくつてやるとかして、彼等の居心地の好いやうにしてやらなければなりません。

運動もあまり日の照りつける日中には避けて、朝夕の涼しい刻限を選んで、あまり過激にすぎぬ程度にさせてやらせる事です。但し水泳をさせますには、あまりその場所が遠方でない限り、陽當りの好い時期の方が好いと思ひます。夕方など水に入れて、間もなく夜の涼風が吹き出しま

すと、うつかりして風邪をひかせるおそれがありますると潮かぶれから皮膚病を起す事がありますから、やはりあとで眞水をかけてやる方が好いと思ひます。

暑い時には人間でも食慾がにぶり、寒い時のやうに食事が進みません。あれは暑さの爲めに胃腸の運動が鈍るせいであります。犬は前にも述べました通り暑いからと云つて着物を薄くするわけに行きませんから、一層暑さには弱らせられるわけで、胃腸の働きもずつと緩漫になります。從つて冬期と同じ食物を與えますと、どうしても消化が悪くなるのです。で、朝食は輕いものを量を少くして、夕食には運動もついてゐますから、平常の量にすると云つた風になさる方が好いと思ひます。

又食慾が不振になるので、與えただけの食物が全部喰べ切れなくて殘すやうな場合がありま す。そんな時にはいつまでも犬の前に食物を置いてをきますと、蠅がたかつたり、或は暑氣の爲めに腐敗したりしますから、なるべく早く取り去つた方がよろしい。胃腸が弱つてゐるところえそのやうなものを喰べますと、お腹をこわす事必定であります。

もう一つ注意すべき事は給水であります。暑さの爲めに冷たい水を慾する事は、犬も人間も變

りはありません。夏場は冷たい水でも暫く置きますとすから、やはり時々取換えて、新鮮な冷たい水を與えるやう注意してやらなければいけません。殊に夏場は咽喉が乾きますから、汚いたまり水でも何でも呑みたがります。その爲めに腹をこわす事がありますから、御注意下さるやう願ひます。好く犬が馬糞を喰べたがる事にお氣づきの方がありませう。あれは咽喉が乾く爲めですから、さう云ふ時には直ちに清水を與えなければいけません。水が不足しますと、犬の皮膚から不快な臭氣を發するやうになり、ひいては皮膚病の因にもなりますから、水は充分に與えるやうなさらねばいけません。

それから蚤や虱に對する注意でありますが、此の事は今更新らしく書くまでもなく、すでに再三述べた事で、夏は一層多い事はわかり切つた事ですからそれに對する處置はお忘れなきやう。

もう一つ最後に御注意を促して置く事は、夏期怪我などをさせますと、すぐに化膿しやすい事であります。暑氣の爲めに何でも腐敗し易く、傷口も直ちに腐敗し易く、從つて化膿する機會が多いわけなのです。化膿させますと僅かな傷でも治癒に非常に時間がかゝり、その爲めに又思はぬ餘病までも發し易くなりますから、怪我をした時にはすぐに手當をしてやらなければいけません。

三　秋の衞生

一年中を通じまして、秋は最も健康的な時季ではないかと思ひます。惱ましい夏の暑さも去り今迄暑氣の爲めにゆるみがちであつた身體の諸器管もしまつて來ますから、自然と食慾も進んで參ります。夏の間にはどうしても治らなかつた病なども、その爲めに治つて來ると云つた具合なのです。ところが、此の秋と云ふ季節はまことに短く、涼風が立つて好い季節になつたと思つてゐるうちに、もう冷たい風に變つて行きます。そして秋のうちに治り切れなかつた病は、冬になつて一層又つのつて行き、俗に枯木の折れるやうになどゝ云ふ如く、歸らぬ旅に立たせなければならぬ悲況をみねばなりません。

秋は好いと云つて油斷をする事が最も惡いと思ひます。秋は好いのだから、その間に夏の缺損を取戻すと云ふ意氣で、充分注意すべき時期だと思ふのです。秋と云つても實際に好いのは、初秋から中秋までのほんの一二ケ月の事ですから、その短い間に冬にそなえる健康を完ふして置かねばなりません。

涼風が次第に肌寒く感じて來るやうになりますと、それまでは割合に樂であつて短毛の犬に危險期が來るのです。反對に長毛の犬は、持つて生れた厚い毛皮が役に立つて來るのです。

此の時期に短毛の犬に風邪をひかせますと、治療に非常に困難であります。一日々々と氣候は寒くなつて行くばかりなのですから、風邪にとつてまことに困るのです。さうして長びかせてゐるうちには、いつかヂステムパーの病毒に冒されると云ふやうな事になつてしまひます。

殊に注意すべきは夏場に生れた仔犬であります、暑い間に生れた犬にとつては、生れて始めて經驗する寒さと云ふものに會はねばなりません。暑さには慣れてゐますが、寒さと云ふものを全く知らぬ彼等の弱い皮膚は、此の爲めにすぐ風邪をひき込んでしまひます。仔犬に風邪をひかせれば、先づ十中の八九まではヂステムパーになつてしまふものと云つて好いでせう。まだ生後二三ケ月の仔犬で、もう親から離れてゐるのでしたら、寒い夜などは外氣の中にひとり寢かせるやうな事をせず、と云つて火の氣のあるところに置きますと反つて皮膚を弱くしてしまひますから、風の當りを防いでやる程度の保護を加えてやらねばなりません。

全く冬期に入りましたなら、もうなるべく入浴させ度くないと思ひますから、その用意として晩秋の暖かい日を撰び、充分に好く洗つて置いてやる必要がありませう。皮膚病の爲めに毛の薄くなつてゐる犬なども、寒さにはどうしても弱いものですから、秋の間にすつかり治して置いてやらねばいけません。

寒さに向つての注意は、冬のそれと重複致しますから、冬期の衞生に於て充分述べる事に致しませう。

四　冬の衞生

毛のむく〳〵と長く多い犬、コリイとか、チヤウチヤウとか、或はエスキモーとか、日本の樺太犬とか云ふ種類にとつては、冬は天下であります。それに反してフオツクス・テリヤだの、グレイハウンドだの、ブルドツクだのと云ふ短い毛の犬には禁物です。硝子窓から寒さうにして外を覗いてゐるテリヤの姿を、私たちは好く見ます。勇敢な樺太犬が雪の原野を疾驅する姿を、諸君も寫眞などで御覽になつた事と思ひます。同じ犬でもそれほどの相違があるのです。從つて畜

犬に關する多の衛生と云ひましても、一口に申し述べるわけには行きません。

雪は犬の叔母さんだなどゝ云つて、昔から犬は雪の好きな動物の如く思はれて居ります。たしかにエスキモー種や、樺太犬などにとつては、雪は叔母さんではないにしても、極く縁の近い親戚に相違ありませんが、テリヤや、ブルドツクにとつては、親類どころか大嫌ひな存在なのであります。一概に犬は雪が好きなものと思ひ込んで、嫌がるテリヤを無理に雪の中などに出してやつたりしますと、それこそ翌日からジステムパーの初期と云ふやうな事になつてしまひます。度々云ふ事ですが、犬に對して寒冒は最も危險な病氣なのでありますから、冬期は特に注意してやらなければなりません。

最も必要な風邪の豫防

恐ろしい風邪の豫防に就きましては、すでに幾度か述べたところであります。冬期に於て特に注意すべき事は第一に、餘程の必要に迫られぬ限り入浴をさせず、櫛とブラシの掃除だけを充分にしてやる事であります。第二には犬舍を日當りの好い場所に設け、北風や西風の當らぬ設備をしてやる事。第三には耐寒性を强くさせてやる事で、例えば炬燵だとか、ストーブだとか云ふ特

別の保溫裝置や、着物を着せてやるやうな事はなるべく避ける方が好いのであります。第四は雨や雪の降ります時に、犬の身體があまりぬれぬやう注意してやる事。これも長毛の犬が自分から進んで雪の中を馳け廻り度いやうな樣子が見えました時は、あまり長時間に渡らぬやう遊ばせてやる事はさう害はありません。これらの事に充分の注意をしてやらなければなりません。

獵は冬期につきものゝスポーツであります。獵犬にも種々あつて、ポインターや、ビーグルの如き短毛の犬もありますし、セツターや、スパニエールや、レトリヴアーの如き長毛の犬もあります。概して短毛の犬は水の獵を嫌つて、山の獵が好きであり、長毛の犬は水はそれほど嫌ひませんが、山を嫌ふと云ふ傾向があります。これは自然の要求でありまして、長毛の犬は水に這入つても直接冷たさが肌に應えませんが、短毛の犬には冬の冷たい水はたまりません。それで短毛の犬が山に向くやうになつてゐるのですから、狩獵に犬をつれて行く方は、ポインターが水に這入るのを嫌がつてゐるのに、無理に入れたりする事はよろしくありません。僅か一羽の水鳥の爲めに大切な犬の命を縮めるやうな悲しみをかもさねばならぬ事が起ります。

寒い季節には他の病で衰弱をしたりしますと、それから風邪をも引き込む事が多いのです。從つて犬の健康に就いて常に注意を拂つてやらねばなりません。例えば蛔蟲だの十二指腸蟲だのを

涌かして居りますと、その爲めに甚だしく貧血して、耐寒性が減殺されてしまひます。

犬の鼻は健康のバロメーターの如きものでありまして、常に濕つて黒く光澤を持ち、冷たいものでなければなりません。白く粉がふいたやうに乾いてゐたり、熱つぽかつたりします時には發熱してゐる徴候ですから、注意してやらねばなりません。又、同時に唇の色を調べてやる必要があります。健康體ならば美しい桃色をして、何となく活々として艶がありますが、貧血してゐる時には、白つぽくなつてゐてどんよりと、艶が失はれて居ります。此の二條件を常に氣をつけてやつて下さい。

ついで乍ら犬の體溫の話をして置きませう。犬の體溫は人間よりも高く、平熱が三十八度前後であります。それも體型の大小によつて、又年の老若によつて多少の相違があり、大型の犬は小型の犬よりも低く、老年の犬よりも仔犬の方が高いのが普通であります。小型犬の仔犬ならば、三十八度六七分位あるのがありますし、大型犬の親犬では三十七度五六分が平溫のものもあります。そして犬の體溫を檢べるには、體溫計の水銀部を肛門の中にさし込むのが最も正確な方法であります。

食物に就いての注意

冬期は前にも述べました如く、長毛犬と短毛犬とでは運動の率が大變違ひます。短毛犬はどうしても不活潑になりがちでありますから、消化力も少くなつて來る道理であります。而し寒い間は胃腸の働きは夏の如くゆるみはしませんが、春秋の好季節と同じ量を與える事はどうかと思ひます。

又獵犬になりますと、獵に行く時には平常の數倍もの運動を致しますから、自然と空腹を餘計に覺えます。從つてその時には定量よりも多く與えねばなりません。

それからこれは屢々聞く事でありますが、寒いからと云つて特に犬の食物を熱くして與える方がありますが、それは決して、多少は慣れて來るものでありますが、犬の舌もそれと同じ事であります。熱いものを與えつけますと、好い事ではありません。湯氣の立つてゐる食物を與えつけますと、犬にとつては最も重要な嗅覺が鈍つて來るやうに思はれます。犬には冷たい食事が好いのですから、特に溫ためて與える必要はありません。

と云つてあまりかん〳〵に凍つてゐるものは勿論いけません。米飯などの凍つてボロ〳〵してゐるものは、不消化でありますから、それらは一度火を通してスープででも煮てやりまして、冷たくさめたものを與えるやうになさらなければいけません。

如何に寒い時でもやはり犬に水は必要缺くべからざるものであります。これも氷の張つてゐるやうなものを與えるのはあまり可哀さうですが、と云つて湯氣の立ちのぼるお湯は決して呑みません。常に手頃な冷水を注意して與えるやうにせねばなりません。

第五講　犬の病氣と家庭療法

犬の病氣に對する心得

私は此の項目に就いて詳述します前に、一言申上げて置き度い事があります。

元より病氣を治療すると云ふ事よりは、豫め病氣に罹ちぬやうに平常の注意が必要である事は今更云ふまでもない事でありますが、それでも萬一病氣に罹りました時は、その病氣の質も考えず、矢鱈に素人療治をする事は考えものだと思ひます。それよりもむしろ手遲れのないうちに信用のある專門家に診療して貰ふ事が必要だと思ひます。餘程深い經驗を積みませんと、此の病氣はさう大したものではないとか、或は質の悪い病氣だとか云ふ事の判斷はつき兼ねるものであります。人間ならば何處が苦しいとか、何處が痛いとか、それ〴〵自覺症狀を訴へるのでありますが、犬は悲しい事に口が利けませんから、症狀を訴える事がありません。從つてその診斷は人間より一層難かしいのであります。

それにもかゝはらず何等専門的知識のない方が、凡そ風邪だらうとか、胃が悪いのだらうとか勝手な診斷をされて、好い加減な投藥をされると云ふ事は、甚だ危險の多い事だと思ひます。かう云ふ失敗は、割合に畜犬の初心の方にはなく、反つて多少經驗ができて來ますとそれが多いのですと、云ふのは、多少共經驗ができて來ますと、鬼角通を振り廻したくなりまして、犬の大小とか、藥物の性狀とか云ふ事に頓着なく、手前療治ですませてしまはうとなさいます。そんな事から多くの間違ひが生じるのではないでせうか。

然し又、獸醫の中にもかなり怪しい經驗しか持合はせてゐない人もありますし、一寸した外傷で入院させたところが、ヂステムパーを感染させられてしまつたなどゝ云ふ不注意な家畜病院もありますから、その點御注意を要すると思ひます。要するに、犬を本統に可愛がつて飼つてみやうと思はれる方は、豫め信用の出來る獸醫を相談相手として選んで置かれる事が好いと思ふのであります。

さて、前置きは此の位に致しまして、本文に這入る事にしませう。先づ愛犬家として心得て置かねばならぬ犬の病氣を次に列記してみませう。

第一　狂犬病

第二　犬瘟熱（ヂステムパー）
第三　心臟絲狀蟲症（フイラリヤ）
第四　流行性感冒
第五　胃腸病
第六　內臟寄生蟲病
第七　皮膚病
第八　外傷、其他

これ以上の病氣に就いては、素人は知識を持つてゐる必要はないと思ひます。で、私は右記の順序によつて詳述する事に致しますが、第一の狂犬病に就いては別に一講を設けてお話し致しますから、その次の犬瘟熱にから述べませう。

犬瘟熱

此のヂステムパーの恐ろしい病氣である事は、旣に幾度か書いた事でありますから、諸君も御承知の事と思ひます。では、そのヂステムパーとはどんな病氣でありませう。

これは肉食動物に對する惡性の傳染病でありまして、まだ病毒の本體に就いては、學者間にも判明してゐないさうであります。此の病氣は主に幼獸を侵すのでありますが、成獸でも侵される場合はかなりあります。そして一度罹病したものは免疫すると云はれて居りますが、これは絶對のものではなく、時に二度感染するものもあるのです。人間の病氣で例えてみれば、ハシカとチブスとを一緒にしたやうな熱の疫病で、人間には絶對に感染する事はありません。

多くは感冒が原因となつて、此の病毒に冒されるやうに思はれますから、平常感冒にやられぬやう注意が必要であります。

症候――最初は著しい徴候がなくとも、體溫が四十度内外に上昇し、次いで食慾を減ずるとか、眼脂を出すとか、膿のやうな鼻水を出すとか、下痢を來すとか、下腹部に發疹を認めるとか、咳や噎をするとか、惡感戰慄があるとか、それらの諸徴は一時に襲來しないとしても、其の二三の徴候を具備したならば、先づ犬瘟熱の初期と想像して、相當の處置を講じ度いと思ひます。

療法――初期體溫三十九度以上四十度内外の時は、醋酸の臭味少いアスピリン（例えば獨逸のバイエル會社製の如き）を體重及び月齡に鑑みて、〇・一五乃至〇・三宛を、毎日朝夕食前三

十分に服用せしめるのであります。そして外氣の寒さなどに當てぬやうにし、全身を溫かく包んでやつて、頭部は冷水又は氷嚢で冷してやるのが好いと思ひます。其他、内服藥として、胃腸を害せず食慾を損ぜぬやうに、健胃劑を與えるのでありますが、これはホシ胃腸藥とか太田胃散とか云ふ人間に用ひるもので結構です。分量は中型の犬を標準として人間の大人の分の約三分の二位が好いでせう。下痢又は血便のある場合には、先づ甘汞〇・三乃至一・〇を乳糖にでも混ぜて頓服せしめ、若し一回で下劑の效がないやうでしたら、又五六時間經つた後に、もう一度これをくり返すのであります。さうして後に次硝酸蒼鉛（下痢止め）とビオフエルミンとを、各〇・三乃至一・〇宛前記の健胃劑に交ぜて、一日三回の割に毎食後服用させるのであります。又、腹部の發疹はクレオリンの二%溶液で清潔に拭つてやり、そのあとにデルマトールと云ふ黄色の粉藥を散布してやります。眼や鼻や耳から分泌が多い時にはその部分をクレオリンの一%溶液か、二%の硼酸水で溫罨法をしてやり、耳にはデルマトールを硝子管のやうなもの、中に入れ、その一方から吹いて内部に吹き込んでやるのであります。

病勢が進んで第二期に轉じ、種々の合併症狀がありましては、中々容易な事ではありま

せんが、要するに一に看病、二に藥と申しますから、病症に應じて相當適宜の處置を加へてやらなければなりません。例えば呼吸困難で慟悸が劇しいやうでしたら、それは多少肺尖加答兒とか、肺炎とかを起してゐるのでありませうから、二%の食鹽水か、重曹水の蒸氣吸入を施し、猶ほ、カンフルとか、ヂガレーンとか、ワクチンとか、葡萄糖とか、リンゲル氏液とかと云ふ强心劑の注射等、種々應用すべき療法もありませうが、これらは專門家の手を煩はすべきが至當と思ひますから、素人の私は遠慮する事に致しませう。

さうした介抱も甲斐なく、第三期に入つてしまひますと、食慾は全然なくなり衰弱も益々加はつて、遂には腦神經症狀を呈するやうになつて行きます。さうなつては最早到底人力の及ぶところではありませんが、稀に體力の强いものは、看護さえ行屆けば、自然療能と云ふ天佑によつて、恢復した例もかなりありますも、出來る限りの手當を盡してやり度いと思ひます。

愛犬家によつては畜犬が病氣に罹りますと、一も二もなく入院させてしまふ方もありますが、これは一考を要すべき事だと思ひます。怜悧過敏な犬になりますと、飼主の手許を離れて病室に繫留されるのでありますから、所謂ホームシツクとでも云ふのでせう。俄に食慾を

損じ病勢を惡化する恐れがあります。而し、又兩三日經過して病室に慣れますと、食慾の回復する事もあり、次第に快方に向ふものもあるのですから、惡性の病氣だと氣づいて入院させる場合には、あまり衰弱を增さぬうち、第一期か第二期の初めに入院させるべきであります。而し何と云つても家庭程親しみがあり、又手當の行屆くところはないのですから、あまり無闇と入院を急ぐ必要はないと思ひます。此の邊は充分お考えになるべき事だと思ひます。

猶ほ此のヂステムパーが何等の合併症もなく、すら〳〵と快復に向ひましたものは、往々此の快復期に於て突然癲癇を發作する事がありますから、注意しなければなりません。かう云ふ心配がありましたなら、豫めその快復期に際し、パイエル會社の製藥でルミナーレツテンと云ふ鎭靜劑を、毎朝夕一錠宛、又稍々神經質なものに對しては一日三錠位を、與える事が宜しいと思ひます。既に癲癇症狀を發作しました場合は、同じくルミナーレツテン五乃至十錠を頓服せしめ、全く鎭靜して發作の起らなくなつた後も、當分は朝夕一錠宛を持續する方が宜しいと思ひます。

此の病氣は心臟内に寄生する絲のやうな蟲の障害によつて起るもので、東洋でも殊に我國に最も流行する遺傳性の強い慘惡な寄生蟲症であります。日本の犬は長齢に及びますと、十中の八九までは此の寄生蟲の居ないものはないと云つて好い位でありますが、西洋では非常に珍らしい病氣とされて居りまして、學校の教室などに標本はありますが、實物を見た事のない人が其道の者でも幾らもあるさうであります。此の蟲が一旦犬の體内に寄生しますと、成蟲は心臟内に侵入して蕃殖を營み、どうしても驅除する事ができないのであります。何しろ寄生する場所が心臟の事ですから、蟲を殺す程強い藥物を用ひやうとすれば、その爲めに生命を犧牲に供さなければならなくなるのでありませう。聞くところによりますと、最近農科大學獸醫學部の教授、板垣學士は藥物注射をもつて驅除する方法を研究中ださうで、稍々その緒に就かれたと云ふ事でありますから、私共は遠からずその成功を發表される事を期待し、且つ希望する次第であります。豫防方法としましては、遺傳はやむを得ぬ事として、水田や溝の汚い貯水だとか、蚊などから傳播されると云はれますから、それらを防いでやるより他はありますまい。

症候――健康な犬にありましては、多少此の蟲が寄生して居りましても、外見には殆ど變つた症候は現れません。何か他の病氣にでも冒されて、その爲めに心臟が弱つたり致しますと、その隙に乘じて寄生蟲が活動を始めますから、胸の奥の方から涌き出すやうな咳嗽を頻發したり、黄膽を續發したり、或は腹水と稱して内腹に水がたまつたりして、すつかり衰弱してしまうのであります。又、犬が長齢に達しますと、自然と心臟の蟲に對する抵抗力が弱りますから、これらの症狀を發するのであります。長齢の獵犬などが山で狩獵中、突然心臟痲痺を起して斃れたりしますのは、多く此の爲めであります。

療法――此の病の根治法は前述の如く、今日のところではないのであります。此の寄生蟲に冒されてゐる犬は、その新鮮な血液の極めて少量を檢鏡しますと、一視野内に幾匹かの幼蟲が活動してゐる樣を發見する事ができますから、さう云ふ場合にはなるべく貧血衰弱を來さないやうに、平素から滋養食と、强心健胃劑とを與へるやう注意する他はありません。獵犬の場合には使用を節して、適度の運動をなさしめるより仕方がありません。咳嗽だとか、黄膽だとか、腹水の徴候が現れた時は、專門家に就いて對症療法を乞ひ、施術を受けなければなりません。

これは牛馬羊豚などにも感染致します。原因に就いてはすでに幾度か述べましたから略します。

ヂステムパーの初期と非常に酷似して居りまして、又此の感冒がヂステムパーを惹起する事もありますので、風邪をひかせぬやう御注意を要します。

症候――ヂステムパーと同じやうに高熱をもつて始まりますが、ヂステムパーの如き様々な徴候を缺き、老幼を問はず感染致します。食慾不振、倦怠の狀を呈しますが、これは人間ならば頭痛がするとか、關節がだるいとか自覺症狀を訴へるところでありませう。鼻は犬の健康のバロメーターの如きもので、いつも艶々と黒く濕つてゐなければならないのですが、それが乾いてかさ〳〵になつてゐる時は熱でもあつて不健康な狀態にあるのですから、注意を要します。高熱が持續しますと、幼犬ならばヂステムパーに轉じ易く、長齢の犬ですと心臟や肺を侵されますから、それ〴〵豫防を講じてやる事が必要でありませう。

療法――ヂステムパーの初期とほゞ同じの手當を加えてやるのがよろしいのでありますが、私は星製藥會社の感冒混合ワクチンを試めして、度々效を收めた事がありますから、專門家と御相談の上で、お試めしになる事も決して無用ではありますまい。

胃腸病

これは犬には最も多い病氣であります。そして同時に他の諸病を惹起する原因ともなりますから注意を要します。多く此の胃腸障害は不攝生から起るのでありますから、畜犬家は常に意を用ひて、運動不足だの、喰べ過ぎだの、腐敗物を喰べさせぬやう氣をつけなければいけません。其他寄生蟲による胃腸障害については、後項で詳しく述べる事に致しませう。

症候――胃腸病と云つても種々ありますが、先づ一定の食事を喰べ殘したり、或は少しも喰べなかつたりして、靑草を嗜むものは不消化症を起して、氣持が惡い時の徴候であります。それから口腔内に粘つた涎を出し、不快な臭氣を帶び、下痢だの便秘だのゝ徴候のあるものは食物醱酵による瓦斯中毒を起してゐるものであります。

療法――不消化症を起してゐるものに對しては、ヒマシ油か或は甘汞下劑（犬瘟熱療法參照）を與え、二三度絕食させるとか、或は消化の好い半流動食を與えるのであります。藥は日常の食物によつて多少異りますが、肉食を主としてゐる者に對しては、稀鹽酸リモナーデ一〇

〇・〇含糖ペプシン一・〇をまぜて、一日三回食後三十分位に與えるのがよいと思ひます。又菜食を主にしたものに對しては、前に記した健胃劑にヂアスターゼ〇・五を混ぜて一日三回食後直ちに服用せしめるのであります。

食物醱酵の自家中毒を起したものに對しては、やはり最初に下劑を與へて腹内を掃除し、口腔内は三乃至五%の重曹水で一日數回洗つてやり、前と同じやうな整腸健胃劑を與へる事が好いと思ひます。

内臟寄生蟲症

内臟寄生蟲と申しましてもその種類はかなりあります。犬に寄生するもの〻主なる種類を擧げてみますと、前に記した心臟絲狀蟲、蠐蟲、蛔蟲、十二脂腸蟲、蟯蟲、鞭蟲等であります。これらの寄生蟲はそれ〴〵犬の内臟に一時的或は永久的に宿つて、その滋養分を攝取して生活し、犬の健康に害を加へるのであります。心臟絲狀蟲に就いてはすでに述べましたから、以下順次にその性狀療法などを述べませう。

蠐蟲と一口に云ひましても、その中に又幾多の種類があるのであります。裂頭蠐蟲とか、瓜實蠐蟲とかその形狀によつて異つた名稱が附せられて居ります。これは所謂『眞田蟲』と稱するもので、多く鱒のやうな魚や肉などを媒介として、犬や人間の體内に寄生するのであります。

症候――これに侵されますと慢性の腸カタルを起しまして、腹部に痛みを覺えるのです。蟲が成熟しきりますと、糞便の中に片節が交つて出て來る事があります。これは肉眼でも發見できますが、卵子が交つて出てゐる事もありますから、その時は顯微鏡檢査によつて發見されるのであります。

療法――驅蟲劑カマラ二・〇乃至八・〇を糖蜜だとか、牛乳だとか、或はバターなどに混ぜて早朝の空腹時に頓服せしめ、三四時間經つて藥の利いた頃に、ヒマシ油下劑を與へて胃腸内を掃除してやるのであります。私は實驗上カマラだけでは奏效しない事がありますので、中型犬を標準として綿馬越幾斯一・〇をカマラ四・〇に混ぜ、數個のカプセルに容れて頓服させる方が良いと思つて居ります。そして奏效後は例の健胃劑を適宜に與へるのであります。

此の蟲の害は大概の幼犬が被ると云つて好い位でありまして、その爲めに生命を失ふ仔犬がどの位あるか知れません。白い針金様の長さ三四寸から大きいのになると七八寸もある蟲で、これは小腸内に寄生するのであります。

症候――食慾は相當あるのにも關はらず、次第に痩せて消化不良となり、貧血して行きます。仔犬などは背中を丸くして、背骨が弓形に露はれるやうになつて行きます。此の蟲が胃に逆行しますと、口から蟲を吐き出す事もありますが、多くは糞便に交つて排泄されます。時としては腸壁を穿行して腹膜炎を起したり、腦を侵して神經症狀を呈し、癲癇などを發作するやうになり、遂に斃れる事がありますから注意を要します。

療法――驅蟲劑サントニーネが特效藥でありまして、新鮮なものでないと效を奏せぬ場合があります。分量は中型犬を標準として、サントニーネ〇・〇三甘汞〇・三に乳糖を適宜に交ぜ、カプセルに容れて頓服させます。又、マクニンを用ひるのも良いと思ひます。仔犬には毎月一回位宛、此の半量乃至三分の一量位を與へるが好いであります。

十二指腸蟲

これは名の如く十二指腸に寄生する蟲でありまして、形は極めて少さく糞便を檢鏡してみなければ、發見は困難であります。此の寄生蟲は患畜の糞便と共に排出された卵子だの、幼蟲などが、飲食物に混じて犬の消化器に侵入したり、或は皮膚からも感染して、血管を傳はつて腸内に達すると云はれて居ります。

症候――此の蟲に冒されますと、貧血して營養不良に陷り、食慾はあつても衰弱して沈鬱倦怠になり、時としては鼻孔から出血する事もあります。初めは便秘を起しますが、後には下痢を發して時々血便を排泄し、又惡臭のある黑赤色の下痢を伴ふ事もあります。確診をするには糞便中の卵子を鏡檢しなければなりません。

療法――先づ牛乳、スープ、鷄卵のやうな滋養物を與へ、强壯健胃劑及び少量の葡萄酒などを與へて身體に元氣をつけ、驅蟲劑としては四鹽化炭素、ネマトールなどがありますが、素人がうつかり用ひる事は危險ですから、私は常にチモール〇・二甘汞〇・三をカプセルに容れて用ひて居ります。投藥の前晩は絕食せしめ、翌朝空腹時に與へると一層奏效確實であります

す、そして三四時後に朝食を與へ、直ちに運動させるやうにし、それでも便通のない時は更にヒマシ油を與へます。さうして數日後更に檢鏡してみて、まだ卵子がありましたなら、もう一度此の方法をくり返すのであります。

蛲蟲

これは蛔蟲の一種でありまして、大腸及結腸に寄生致します。

症候――此の蟲は大便を食して生活してゐますので、時々肛門の附近まで匐ひ出して來ます。すると痒ゆくなりますので犬はお臀を地につけて、おかしな形で坐行します。

療法――蛔蟲と同じ療法でよろしい。臀部に痒覺あるものには、石鹼水又に十倍の醋酸水で灌腸してやるのがよいでせう。

鞭蟲

これは大腸内に寄生する蟲で、頭を腸壁内に刺し入れて、滋養分を攝取します。

症候――此の蟲が多數になりますと、腸カタルを發して下痢を起すおそれがあります。

療法――十二指腸蟲と一緒に驅除する事ができます。驅除後はやはり健胃劑を與へねばなりません。

皮膚病

皮膚病は寄生性と非寄生性とに區別する事ができます。寄生性とは疥癬蟲とか毛嚢蟲とか云ふ細菌が、皮下に寄生して害をなすものでありまして、非寄生性とは不潔などから起る濕疹を云ふのであります。次に各別に詳述致しませう。

疥癬蟲

これは俗に云ふひぜんでありまして、多くは他から感染して起るものであります。手早く治療を加へてやりませんと、何處までもひろがつて、實にみつともなくなつてしまひます。

症候――多くは最初頭部、耳のうしろの邊に始まり、肘、胸、腹部、內股部などにのびて行きます。初めは蚤にでも刺されたあとのやうに赤斑を皮膚に呈し、次第に小結節から水泡を生じ、非常に痕ゆみを感じますので、犬は自分で掻いたり、摩擦したり、咬んでみたりする爲

めに、その部分が濕疹になつて、毛が脫け落ちたり、その禿げた部分が肥厚して醜い姿を呈します。

療法――先づ前にお話した流肝浴をしてやり、ペルーバルサル二分、アルコール又は油類十分（此の油はワセリンのやうなものでも、ゴマ油でもよろしい）の割合の擦劑を造つて、一日一回患部に塗擦してやるのです。私はバイエル會社の新藥で、ミチガール油を用ひて居りますが、これは非常に效果的であります。但し擦劑は全身三分の一以上に塗つてはいけません。若し全身的にひろがつた場合には、半身づゝ一日二回に分けて塗擦し、毎日これをくり返すのであります。

毛　蟲　症

これも一種の疥癬でありますが非常に惡性であつて、毛嚢の皮脂腺に寄生する傳染性皮膚病であります。アカラスと學名では申しまして、あなか〳〵根治し難いのであります。疥癬と異るところは、痒覺が輕微であるか、或は全く痒ゆくないのであります。

症候――これには二種の徴候がありまして、一つは普通眼瞼、肘、四肢等に豌豆大若くは銅貨大の禿毛部を生じ、周圍に次第に擴大して、ふけか糠のやうなかさぶたができ、その部分が暗色を呈するのであります。他の一つは頭、咽喉、頸、四肢の內面等に發し、古く侵されたものは皮膚が肥厚して樹皮か象皮のやうに襞を生じ、毛はぬけ落ちて銅色になります。さうしてその部分に結節ができて、そこを壓搾すると血膿を出し、その膿を檢鏡しますと、無數の黴菌の成蟲や幼蟲や卵などが發見されるのです。

療法――これに侵されますと、前にも云つた通りなか〳〵根治し難く、素人療治にもなか〳〵手數と日子とを要します。これが全身にはびこつてしまつては、もうどうする事もできませんから、部分的の間に手を盡して治してやらなければいけません。治療に際しては先づ患部の周圍の毛を剪み切り、膿包のあるものは藥をつける前に壓搾して膿を排除し、流肝浴を施してから、ペルーバルサムの前記處方を適用するのであります。而し、少し手遲れですとペルーバルサムはもう效きませんから、外科刀で疹部の上層を出血するまで削りとり、硫黃華軟膏、ウイルキンソン氏軟膏、或はバイエルのミチガール油軟膏等を試みるのでありますがこれは少し素人療治にはむつかしくすぎると思ひます。さうして幾度かくり返すうちに新らしく毛が生えて來るやうでしたら占めたもので、恢復後も充分注意して怪しい個所でも見え

ましたなら、直ちに策を施すやう氣をつけなければいけません。

濕疹

これは皮膚の上層を冒す急性及慢性の皮膚病であります。犬舍の不潔、胃腸の障害、蚤や虱の害などから起るので、他の寄生性皮膚病から併發する場合もあります。

症候――濕疹には様々な種類があつて、原因その他によつて症候は一定して居りません。赤斑が皮膚に生ずるものもあれば、膿疹のできるものもあり、水泡のできるものもあります。急性のものも慢性に轉じ易く、痒ゆいので掻きますから、なかなか治りにくい場合があります。

療法――胃腸障害などから來たものは、先づその根元を治癒させる事が第一である事勿論です。急性濕疹に對しては、亞鉛華軟膏、硼酸軟膏、ウイルソン氏軟膏などの刺戟のない藥物を用ひる方がよく、慢性のものには木タール軟膏、タール石鹸（木タール一・〇カリ石鹸一〇・〇）、ミチガール油軟膏などが好いと思ひます。又頑固なものには淨血劑としてホーレル水の少量を用ひて内服とするのも好いのですが、これは毒藥ですから專門家に囑さねばなりません。

犬の外傷は少さなもので口の屆く個所でしたら、自分で舐めて治してしまふものですが、大きな傷になつては、なかなか人間のやうにぢつとしてゐませんから、兎角あとが殘るので殘念であります。ひどく化膿した傷とか、骨折脫臼のやうな場合には、專門醫家の手に任せるとして、小さい外傷の手當を書いて置きませう。

療法――先づ傷部の周圍の毛を刈り、塵だの泥砂だのゝ附着したものを一乃至三%のクレオリン液で洗ひ落してやります。そしてあとを拭ひ去り、沃度丁幾かデルマトールをつけて置いてやるのがよいと思ひます。打撲傷などの痛みの激しい時には、硼酸水か鉛糖水で冷罨法をしてやり、患部の痛みを去らせる方法をとる必要があります。相當深い刺傷などの場合には傷口と共に内部も消化してやらねばなりません。此の場合にはオキシフルを用ひる方が内部に好くしみ込んで好いと思ひます。そしてそのあとから沃度丁幾をしませた細いガーゼを、傷の内部に搜入し、傷口にも前記の藥をつけて、繃帶のできる個所でしたら、外部からの濕氣がしみぬやう下に油紙を卷いて、繃帶を施してやらなければいけません。

犬は往々にして急性慢性の耳炎に罹り易いものであります。急性の場合には冷罨法を施してやらねばなりませんが、慢性で耳漏のあるものには、オシキフルを脱脂綿にしたして、内部を好く拭いてやり、汚れをとつてからデルマトールを吹き込んでやるのであります。

犬の手當に就いての注意

以上でほゞ病氣と家庭療法の項は終りましたが、其他二三犬に手當をしてやる場合の注意を書き添へて置きませう。

先づ犬の體溫の計り方であります。これは肛門内に捜入する方法が最も安全で、正確なのであります。一人が犬の身體をおさえ、他の一人が犬の尾を持つて、體溫器の水銀部にワゼリンか或は唾でもよろしいから、滑り込み易いやうにつけて肛門にさし込んでやるのであります。

次は藥の飲ませ方であります。粉藥の場合には藥を呑ませてやる方が自分の口中に水を含んでゐて、犬の上顎と下顎とを左右の手で押開き、上方を向けて待つのです。その間に他の一人があまり口の奥の方でなく、舌の上にこぼすやうに藥をあけてやります。それと殆ど同時に口の中に含んでゐた水を、犬の口中に口うつしに流し込んでやり乍ら、上下の顎を伏せますと、犬は殆ど

藥の味を知る間もなく呑み込んでしまひます。

水藥の場合には犬の口を伏せたまゝで上方に向け、横の唇を引張りますと、丁度奥歯のところに袋ができます。そこに水藥を流し込んでやりますと、齒の間から流れ込む藥を犬はひとりで呑んでしまひます。そのあとで口直しに牛乳でも與へるやうにしますと、藥さへのめばあとでおいしい牛乳がのめると云ふ意識が働いて、むしろ藥をのむ事を好むやうにもなるものであります。

藥を他の食事の中に混ぜて與へる事は絶對にいけません。何故ならば病中たゞさえ食慾なく、物がまづいところへ、藥の臭氣や苦味などが加はりますと、一層食事を嫌がるやうになつてしまひます。その爲めに藥も飲まず食事も攝らぬやうになり、衰弱は益々加はり、病勢は募ると云ふ事になつて、反つて惡結果を殘すのであります。

以上の注意をもつて此の項を終ります。

第六講　犬の種類とその用途

犬種の分類に就いて

- 犬 Dogs
  - A. 獵用種 Sporting Varieties
    - 獵犬種 Sporting Dogs
    - テリヤ系獵犬種 Sporting Terriers
  - B. 非獵用種 Non-Sporting Varieties
    - 實用犬種 Practical Dogs
    - 愛玩犬種 Toy Dogs

犬種の分類に就いては歐米各國のケンネル・クラブが、それ〴〵形態や特性などを標準にして區別して居りまして、その間に多少の相違はあるやうでありますが、私は英國のケンネル・クラブの式によつて、右の表の如く大別致しました。

先づ總ての犬を二つに大別して、獵用種と非獵用種とに分ちます。次に獵用種のみのうち、テリヤ系に屬するものと、その他の獵犬種とに二分します。これは形態を基本にして分つたのであります。今日主として實際に狩獵に用ひられて居りますものは、多く獵犬種の中に含まれて居り、テリヤ系獵犬種のものは、元來は獵犬として用ひられたものではありますが、今日多くは愛翫犬或は家内番犬として飼はれてゐるやうであります。從つて此の種の犬と非獵犬種の愛翫犬とを總括して、家内犬（House Dogs）などゝ云ふ名稱もつけられて居ります。

又、非獵用種を二分して、實用犬と愛翫犬とに分類致します。これは特性を土臺にして分類したものでありまして、實用犬の中には警察犬だとか、軍用犬だとか、護身犬、番犬、引用犬、牧羊犬など、實際に人間に代つて役立つ種類のものが含まれ、愛翫犬は讀んで字の如く御婦人用の小型犬などが含まれて居るのです。

次に順次各種に就いて詳述する事に致しませう。

A、獵用種

（a）獵犬種

一口に獵犬と云ひましても、それ〴〵種類によつて異つた特性を持つてゐるのであります。或るものは野獸狩に適し、或るものは鳥獵に適し、又或るものは追跡用として役立ち、或る者は獲物の捜索に適すると云つた具合であります。

それら様々の性格特徴に從つて、此の種族の犬を左の如く分類せられると思ひます。

（イ）鳥獵犬
（ロ）追跡犬
（ハ）嗅覺犬

此の順序に從ひまして、各種別に詳述致しませう。

（イ）鳥獵犬

（セッター＝ポインター＝スパニエール＝リトリヴアー）

セッター種

此の種の犬と次に述べるポインター種とは、今日獵犬として最も普及され、又最も實用されてゐる種類でありまして、少くとも犬を飼つてみやうと思はれる方ならば、大概はその名を御存知の事と思ひます。セッター種にも三種類ありまして、目下日本で多く飼はれてゐますのは白黒斑のイングリツシュ・セッターであります。その他赤の勝つた金茶色のものはアイリツシュ・セッター、純黒色のものはゴウルドン・セッターと申します。

總てこれらのセッター種は、氣質が至つて從順で人なつこく、姿も優美であります。一度獵地に參りますとそのすぐ近くまで潜行してから、ぴつたりと地に座して狙ひを定めるのであります。セッターの名は此のセツトする事から起つたのであります。

水陸兩用の獵に用ひられますが、山地を馳け廻らせるには毛が長い爲めにポインター種の方が一日の長を持つ代り、水鳥の獵、沼地の獵には最も適して居ります。

體重は五十磅内外、肩の高さ二十三吋を標準とされて居ります。毛並は長毛でぴつたりとねてゐなければいけません。尾は細く獲物を狙つた時、まつすぐに水平にのびるのをもつてよろしとされて居ります。

イングリツシュ・セッターは名の如く英國が原産地で、白黒斑の他に白茶色と白との斑のものもレモン斑と稱して賞美せられます。殊に全身に小さな斑點のゴマ斑が浮いてゐるものなどは、實に美事であります。

アイリツシュ・セッターはアイルランドが原産地で、毛色には日光を反射する程の光澤があり、前者に劣らぬ美しさであります。これには斑があつてはいけません。ゴウルドン・セッターも漆黒の毛艶は美事であります。そしてはやり斑があつてはいけません。原産地はスコツトランドで同地のゴウルドン公に愛用されましたところから、此の名が起つたものなのですが、スカツチ・セッターとも稱されます。

ポインター種

此の種類にもイングリシツシュ・ポインターと、ヂヤーマン・ポインターとの二種類がありまず。以前はスパニツシュ・ポインター、ルシアン、ポインターなどと云ふものもあつたさうですが

現今では殆ど英獨の二種類に統一されて居ります。英ポインターは姿が優美なるをもつて特色とし、獨ポインターは骨格のがつしりしてゐるのをもつて特色としますのは、それ〴〵の國情が犬にも現はれてゐて面白いと思ひます。

此の種の犬は動作が輕快敏捷でありまして、山地や原野の獵に適します。殊に雉、山鳥の獵に至つては右に出るものがありません。獲物を嗅出しますと、輕快に忍び寄りつゝ細い尾を微妙に振動させて、獵者の注意を促します。そして愈々獲物に迫ると片足をあげてぴつたりと指し示します。此のポイントする事に巧みたところからポインターの名は起つてゐるのであります。

毛は刈り込んだやうな短毛、毛色はチヨコレート色と白との斑が多く、英ポインターには白黒斑のものも、前に云つたレモン斑のものもあります。獨ポインターには間々チヨコレート色のみのものもあります。體重は英が五十乃至六十磅、獨が六十乃至七十磅、獨ポインターは尾が長すぎる恐れがあるので、途中から斷尾してやらねばならぬものがありますが、英ポインターの方は細く、長さも丁度頃合なので、斷らぬ方がよいのであります。

名の示す如く原産地は西班牙であります。前二者に比すれば體型はずつと小型で、從つて密生した藪地だの、沼の葦原などをくゞらせて、小型の鳥を追ひ出すのに最も適して居ります。此の種類にもイングリツシユ・スプリンガー・スパニエール、ウエリシユ・スプリンガー・スパニエール、クラムバー・スパニエール、サセクス・スパニエール、フイールド・スパニエール、イングリシユ・ウオーター・スパニエール、コツカー・スパニエール、スパニエールなどの數種があります。頭に英國の地名が冠せられて居りますものは、その土地で改良された爲めであります。

總てスパニエールの特性としては、非常にまめに立廻り、獲物を嗅ぎ出すと自から飛びかゝつて行つて追ひ出すのであります。卽ちスプリンガー・スパニエールの名は、その飛かゝるところから來てゐるのであります。かなりの寒中でも水を嫌はぬところから、此の種の犬をスウキムミング・ドツクなどゝも申します。

此の種類のうちで最大型のものはクラムバー・スパニエールで體重六十磅內外、最少型のものはコツカー・スパニエールで、體重約二十三磅、中間の型のものではフイールド・スパニエール、體重四十磅內外であります。

毛は何れも長毛で、胸部と尾部とには房々と絹のやうな毛が垂れ下つて居ります。毛色は多くチョコレート色と白との斑でありますが、サクセス・スパニエールにはレモン斑が多く、コツカー・スパニエールには純黒色が多いのであります。又チョコレート色ばかりのものもあります。今日では此の毛色は總てのスパニエールに共通的になりまして、どの種類にはどの色でなければならぬと云ふ確定的な色はありません。その時々の流行で金茶色がもてはやされたり、或は黒がもてはやされたりするのであります。

ウオーター・スパニエールだけ毛質が特別で、全身に捲毛が密生し、特に頭の頂上には縮毛の群生がなければいけません。

總て此の種の特徴としては、耳が非常に長く、房々として垂れ下つてゐなければならぬ事であります。フイールド・スパニエールは特に足が短かく、胴の長いものを良しとし、コツカー、スプリンガー、フイールドの三種は、必ず斷尾してやらなければいけません。

性質は一體に從順忠實で、又一面になかなか氣の強いところもあり、家内番犬や愛翫犬としても賞美されます。近年黒のコツカーが小型で愛らしいところから、御婦人用の愛翫犬として流行してゐるやうであります。

リトリヴアー種

此の種の犬は獲物の運搬用として最も適した獵犬であります。水陸兼用でありますが、鴨獵などの場合、水上に獲物を擊落した時に、これを探して取つて來させるものとしては、此の種の右に出るものはありません。前に記したウオーター・スパニエールなども、水上運搬犬として好適の一種であります。

此の種にも波毛及平毛リトリヴアー、ラブラドーアー、イヤロー・リトリヴアーなどの各種があります。他にウオーター・スパニエールの血統を受けた捲毛リトリヴアーと云ふのもあります。總て此の種の先祖は、溺者救助用として有名なニューハウンドランド種でありまして、それにセツター種とか、ポインター種とか、或はスパニエール種とかを交媒して、獵犬化して改良されたものなのであります。從つて體形も、波毛及平毛リトリヴアーはセツター種に似て居り、ラブラドーア・リトリヴアーは獨ポインターに似て居り、捲毛リトリヴアーはウオーター・スパニエールに似て居ると云つた具合であります。異つてゐる點はそれらの種類よりも大きく、骨格のたくましい事で、これはニューハウンドランドの血を享

けてゐる爲めでありませう。體重は何れも六十五磅以上八十磅もあります。

ゴールドンとイヤローとは毛色が前者は金茶色、後者がレモンの單色をしてゐる點からその名が來て居ますので、その他は多く純黒色か、濃いチョコレートでありまして、斑はないものをもつて良しと致します。毛の長さは何れも相當長毛でありますが、ラブラドーアだけは割合に短かい毛を持つて居ります。

總てその性質上、獵犬としてばかりでなく、海水浴場の護衞犬などゝして用ひても有效であります。

（ロ）快足犬

（グレイハウンド＝ホイヘツト＝ボルゾイ＝アイリツシュ・ウルフハウンド＝デイーヤハウンド）

グレイハウンド種

希臘時代の壁畫彫刻の中に狩獵の圖が描かれてあるところには、必ず長身輕快な犬の跳躍が見受けられます。あれがグレイハウンド種であるところを見れば、此の種はかなり古くからヨーロツパに飼はれてゐたものと思ひます。イギリスの本によると原産地を英國としてありますが、あの極端に短い毛の性質から推しても、私は南歐のギリシヤあたりを原産地と信じます。

彼の長身輕快な姿態を利して、快足なる事は犬族中第一であります。しかも優美纖細な姿に似ず氣質もかなり勇敢なところから、野獸狩の追跡用としてかなり古くから用ひられた犬であります。

毛は極めて短毛、毛色は灰色のものが多く、白色のもの　或は白にレモン斑のあるもの、或は白に黒斑のあるものたどもあります。體重は六十磅乃至七十磅。胸は相當大きく張つてゐなければいけません。腹部は細く痩身でなければなりません。顏面は細長く、鼻の先端は拇指と食指との環の中に握られる程細いものがよろしい。

近頃歐米では犬の競走が流行を極めてゐますので、此の種は競走犬として非常に高値を呼んで居ります。

此の種はグレイハウンドと同じ系統に屬すべきもので、體形も非常に似て居りますが、少し小型なので獵用としては前者の方がよろしい樣であります。但しその快足なる事は前に劣らず、共に競走犬として目下流行の犬種であります。

毛質及毛色はグレイハウンドと同じです。體重は三十五磅內外、後脚が前脚に比して際立つ長い事が特徴であります。

ボルゾイ種

別名をルシアン・ウルフハウンドと云ひ、原産地はロシアである事申すまでもありません。體形はやはりグレイハウンドと同じですが、長毛である事が特徴で、私はグレイハウンドが北歐の寒帶地的に改良されたものだと思ひます。

姿態の優美端麗なる事は他に比するものなく、性質も溫雅從順でありますが、一度獵地に到れば頗る勇敢で、雪原の狼狩などには最も適して居ります。これら野獸狩に用ひる犬は鳥獵犬の如く一二匹では役に立たず。數頭ひきつれて行かねばなりません。從つて今日これらの犬を用ひて狩獵に出かける事は、かなり贅澤な、高貴的な遊獵と云ふべきでありませう。

體重は七十磅から八十磅、肩の高さは二十八吋以上なければいけません。毛質は長毛、毛色は純白或はそれに黑斑のあるもの。上流婦人などの間では、ヴアニティ・ドツクとして殊の外珍重されて居ります。

アイリツシユ・ウルフハウンド種

名の示す如く原産地は愛蘭土でありまして、狼狩や鹿狩などに用ひられたもの、氣質は頗る勇敢でありまして、一二頭でも良く野獸に對戰すると云はれます。

姿態は長身輕快なる事グレイハウンド、ボルゾイに劣らず、全身線毛（ワイヤヘーヤ）に覆はれて、見るからに勇猛であります。體重は百二十磅內外、肩の高さは三十五吋、グレイドデーンの血を受けてゐますので、骨格は頗るたくましくあります。

スカツチ・デイヤハウンド種

原産地はスコツトランドで、前記のウルフハウンドと同じく全身線毛に覆はれ、勇壯な姿態の持主であります。スコツトランドの山地では猛獸狩の伴侶として愛育されて居ります。

性質は頗る勇敢で、しかも主人に從順忠實な愛すべき大型犬であります。毛色は栗色に背中は黒、體重は八十磅以上百五磅、肩の高さは三十吋内外と云はれます。目下流行しつゝあるエヤデール・テリヤなどは、此の種の血を享けたものであります。

（八）嗅覺犬

（ブラツドハウンド＝フオツクスハウンド＝ビーグル＝オツターハウンド）

ブラツドハウンド種

英國の原産地とする大型犬でありまして、嗅覺の發達して居る事と、強い根氣とは他の追從を許しません。野獸狩に用ひられ、傷ついた獸類が遁れ去つたあとを、血の匂ひを嗅き乍ら追跡するのに妙を得て居ります。此の探偵的特性を利用して近時警察犬軍用犬としても飼育されて居ります。

體形は頗るたくましい骨格を持ち、大きな耳の重さによつて、顏面には深い横皺が彫まれて居

ります。頸部などにも皮がたるんで、幾筋も襞がつくられて居ります。體重は九十磅乃至百十磅肩の高さは二十六吋内外、毛質は短毛毛色は焦茶色、赤褐色、黒色の三種があります。

フオツクスハウンド種

原産地は英國でありまして、かなり古くから獵犬として用ひられた種族であります。ポインターだの、フオツクス・テリアなどの先祖だと云はれて居ります。

嗅覺の發達して居るところから、狐穴を搜し出す事に妙を得て居り、古くから狐狩の獵犬として賞用されたのでフオツクスハウンドの名が出來たのであります。イギリスでは今日でも此の種の犬を數十頭引つれて、壯快極まる狐狩を致します。

體重は五十五磅内外、肩の高さは二十四吋前後、毛質は短毛で、毛色は白黒斑、或は三毛の斑であります。耳はあまり大きい方ではありませんが、ポインターの如く垂れ下つて居ります。

ビーグル種、其他

此の種も先祖はフオツクスハウンドでありまして、耳が大きく垂れ下り、そのつけ根から顏面

にかけて襞の多いところは、ブラツドハウンドの系統をひいてゐる爲めであります。これは頗る根氣の好い、嗅覺の鋭敏な犬でありまして、兎狩に最も適して居ります。兎穴を嗅ぎつけますと、一日でも二日でも穴の外に待ち構え、根負けがして出て來る兎を捕えると云ふ技能を持つて居ります。

脚はフオツクスハウンドよりもずつと短く、毛色は前者と同じであります。咆える聲が一種特別な呵聲をしてゐるのも一特徴でありませう。

同じ系統のやはり兎狩の犬で、ハリヤア種と云ふのがあります。ビーグル種とフオツスハウンドとの中間に位するもので、毛質毛色なども同じですが、脚はビークル程短かゝらず、耳はビーグル程大きからぬのが定型であります。

オツターハウンド種

此の種の犬は名の如く獺狩に適する獵犬であります。オールド・イングリツシユ・シープ・ドツクとフオツクスハウンドとを交媒して造られた種類でありまして、全身を覆ふた長毛を利して、水中に入る事を少しも嫌ひません。

而し近頃此の種の犬は、あまり獵犬としては用ひられず、むしろむく〳〵した毛並と、愛嬌のある性質とを賞して、愛翫犬として飼養せられてゐるやうであります。

(b) テリヤ系獵犬種

テリヤと云ふ名は諸君もかなり聞き慣れた言葉でありませう。而し、テリヤと申しましても、その種類は頗る多く、普通テリヤと云えばフオツクス・テリヤを稱するのでありますが、まだ此の他にテリヤはいくらもあるのであります。

テリヤと云ふ文字の意味は、地を掘るものと云ふ義でありまして、卽ち地下に穴を掘つて棲む獸類捕獲に用ひる獵犬なのでありますが、而し今日ではあまり獵犬としては用ひられず、むしろ家内番犬、或は愛翫犬として飼育せられる方が多いやうであります。

此の種族は何れも小型のものが多く、性質は活潑敏捷でありまして、怜悧忠實なる事驚くばかりであります。次に各種目に渡つて、詳述する事と致しませう。

前にも申しました通りこれはテリヤ種の典型的なものであります。犬の世界の「スモール・ボーイス」とも云ふべき小型犬でありまして、これにもスムーズ・フオツクス、テリヤと、ワイヤヘーヤド・フオツクス・テリヤとの二種類があります。

原産地は英國でありまして、前に述べたフオツクスハウンドと共に狐狩に出陣して、體型の小さいのを利用し、どし〳〵勇敢に狐穴の中に突進して、獲物をやつつけたものでありました。體重は十八磅を標準とし、小型に似ずなか〳〵氣が強いやんちや子僧であります。而し又、至つて從順な愛すべき性格を持ち、頗る怜悧でありますから、家庭的愛翫犬として此の上なく、番犬としての役目も實に好く果します。又頗る敏捷でありますから、猫に代つて鼠退治の役までもつとめるものがあります。

スムーズ・フオツクス・テリヤは腰の強い短毛で、毛色は白黒斑、或はレモン斑、或は三毛斑であります。ワイヤヘーヤド・フオツクス・テリヤは長めの線毛でありまして、まるで綿細工の玩具の如く可愛らしい姿をして居ります。目下アメリカでは後者が全盛を極めて居り、値段も隨分高まつてゐるやうであります。

此の種は必ず斷尾をしてやらなければいけません。

エヤデール・テリヤ種

原産地は同じく英國で、エヤデールとは地名であります。本種はフオツクス・テリヤにスコツチ・ディーヤハウンドを交媒して造つた改良種で、テリヤ種族中最大の犬であります。體重も三十五磅から五十磅位のものを良しとし、獵犬としてよりも、番犬或は警察犬として多く飼育せられて居ります。

毛並は波狀線毛で、毛色は栗色を主とし、背中に頸筋から尾にかけて黒色毛を被て居ります。性質は非常に怜悧で、且つ勇敢、しかも飼主に忠實でありますから、家庭番犬として理想的であります。

ウエルシユ・テリヤ種

本種はエヤデール・テリヤと殆ど同形のものでありますが、ウエルシユ地方に於て、小型に改良したので此の名があります。これは番犬としてよりは婦人型の愛翫犬とし、愛育せられて居ります。體重は十八磅から二十磅を標準とし、毛質毛色などは前者と變りありません。

アイリツシユ・テリヤ種

此の種もエヤデール・テリヤと同系のものでありまして、アイルランドに於て造られた改良種であります。身體はエヤデールよりも小さく、ウエルシュよりも梢々大きく、體重は約二十四磅を標準と致します。毛質は線毛で、毛色は濃褐色或は淡褐色の單色なのを特色とします。用途は前のものと殆ど變りありません。

以上の三種は何れも斷尾をしなければならぬものであります。

スカツチ・テリヤ種

名の如くスコツトランドを原産地とし、兎狩や叢の中の小鳥獵に用ひますが、主として一般的には愛翫犬であります。頗る小型で、體重は十八磅を標準とし、肩の高さは十吋からせいぐ〳〵十二吋位までゞなければいけません。その脚の短いところに此の種の特色があり、愛嬌があるのであります。顏は割合に長く、顎が角ばつてゐて、耳はピンと立つたものでなければいけません。眼は少さく毛の奥にかくれる程のものを良しとします。毛色は灰色のものと、暗褐色のもの

と、純黒色のものとあり、毛質は粗い長めの線毛風で、かなり密生して居ります。尾は生來のまゝで良いのですが。あまり長すぎる場合のみ斷尾を致します。見るからに可愛らしい犬であります。

シーリハム種

本種も英國産の小型テリヤであります。スカツチ・テリヤに似て脚の短い可愛らしい姿を持つて居ります。元來は獾獵に用ひられて土を掘る事がうまいのですが、近頃は殆ど愛翫犬としてのみ飼育せられて居ります。線毛狀の長毛に全身を覆はれ、耳は前方にねて居ります。體重はやはり十八磅を理想とし、毛色は純白が良く、黑の斑點のあるものもあります。此の方は斷尾を行はなければいけません。

ケーアン・テリヤ種

スコツトランドの西部地方を原産地とする最小型のテリヤで、體重は僅か九磅からせいぐ〳〵で十六磅位であります。姿態はスコツチ・テリヤに似て居り、同種を改良した新種であります。

これはスカツチ・テリヤの如く四角い長い顔をして居りませんが、耳はやはり立耳であります。毛質は線毛風ですがあまり縮れて居らず、毛色は暗灰色、淡褐色、暗褐色、黒色などあり、斑は無いものがよろしいのです。斷尾は大概致しません。

ペドリングトン・テリヤ種

これは英國の同名の土地を原産地とします。今迄述べましたものに比べると、姿態はあまり美事ではありませんが、その珍らしい姿を愛するのであります。脚は割合に長く體形はグレイハウンドに似通つて居ります。體重は二十磅から二十五磅の間、毛質は線毛狀で、毛色は栗色のものが多く、暗灰色のものや、それのもつと明るい色のものもあります。耳はテリヤ種には珍らしく兩側に垂れてゐて、先端が劣つて居ります。尾は細長く斷尾を致しません。

スカイ・テリヤ種

スコツトランドのスカイ島が原産地であります。脚の短いスカツチ・テリヤ型の小型犬でありますが、毛は非常に長く五六吋もあり、全身を覆ふてゐますので、地に觸れる程であります。顏

面にも鼻部をのぞいた他には同じやうな長毛が覆ふてゐます。毛の質は絹のやうな平毛で、體重は十八磅から二十磅位を理想と致します。耳は先の丸いものが立つてゐなければいけません。

ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリヤ種

原産地はスコツトランドのウエスト・ハイランド地方で、同地では小型の野獸類の獵に使用して居りますが、他地では專ら愛翫犬として飼はれて居ります。

體重は十七磅を標準とし、毛色は勿論純白色でなければいけません。毛質は割合腰の強い針毛が、むく〳〵と全身を覆つて居ります。脚は短かく、耳は尖つた立耳であります。

ダンデイ・デインマント・テリヤ種

これも原産地はスコツトランドであります。産地方面では畑を荒す害獸驅除の役目をして居りますが、他地ではやはり愛翫犬であります。體重は十八磅の小型犬で、毛色は白茶色の單色、毛質は針毛と柔らかい毛とが交つて、全身を覆つて居ります。脚は極めて短かく、耳は垂れて居り

ます。

ボウダー・テリヤ種

此の種も原産地は英國であつて、かなり古くからある種類のテリヤであります。ロンスデール卿を主宰者とするボウダー・テリヤ・クラブでは此の種の滅びる事を防ぐ爲めに保護を加へて居ります。

體重は十六磅の小型犬で、線毛、毛色は焦茶色か淡茶色かの二種で、脚は長く、耳はねてゐなければいけません。尾は長すぎる場合に限り斷尾致します。

ケリイ・テリヤ種

原産地はアイルランドであります。スコツチ・テリヤの系統をひいた中型のテリヤで、稍々長めの線毛の捲毛が美しく生えて居ります。

體重は三十磅から三十五磅、肩の高さは十八吋を標準に致します。體形はアイリツシ・ウルフハウンドを小型にしたやうな形で、毛色は濃褐色、或は淡褐色、耳は稍々前方に折れて居ります。

尾は必ず斷尾しなければなりません。

以上でほゞ獵用種の各種別による詳細は述べ終りました。最後に獵犬のトレーニングについて述べ度いのでありますが、これは私の專門外でありますから、殘念乍ら畧さなければなりません。而し、獵犬を持たれる方は生後五六ケ月目から訓練を始めなければいけません。近頃日本にも獵犬訓練所が處々に出來たやうですから、さう云ふ所へお預けになるのも好いでせう。或は又、信用ある獵師にお預けになるのも好いでせう。一年以上も經過したものを仕込むのは、なか〳〵骨が折れますから、なるべく若いうちに手をつけて置いた方がよろしいと思ひます。

(B) 非獵用種

(a) 實用犬種

實用犬をその特性に從つて配役してみますと、次のやうな種類に分つ事が出來ませう。

（イ）護身犬
（ロ）番犬
（ハ）引用犬
（ニ）警察及軍用犬
（ホ）牧羊犬

右の順序に従つて各種別に詳述致しませう。

（イ）護身犬

（セント・バーナード＝ニューファウンドランド＝グレート・デーン＝マスチツフ）

セント・バーナード種

本種は世界の犬族中最大型の犬種でありまして、キング・オブ・ドツクス（犬の王様）の稱號さへ奉られて居ります。原産地は瑞西の高山、セント・バーナード山中であります。同山中には有名なカソリツクの寺院がありまして、そこに此の種の犬が飼はれて居ります。何しろアルプス山系の事でありますから、夏でも白雪が積つてゐる位で、冬期などは旅行者や巡禮者の雪に惱む者がかなりあります。彼等は雪の中を三四匹づゝ組をなして巡廻して歩き、凍死者を見つけ出しては救助する偉大な役目を持つてゐるのです。彼等の救助ぶりを述べますと、一匹は直ちに雪の中に倒れてゐる人間を抱いて、自分の體溫で溫ためる役をする。他の一匹は急いで僧院に馳せ歸り、急を僧侶に告げる役をする。さうしてもう一匹は凍死者の周圍を馳け廻り乍ら、吠えて椿事のありかを知らせると云つた具合で、その組織立つてゐる事は驚くばかりださうであります。私は滯獨中此の種の犬が凍死者救助作業をしてゐる實寫の活動寫眞を見た事があります。

性質は非常に溫順で、主人の命令を好く守り、みかけによらぬ可愛らしい犬であります。體重は百七八十磅から二百磅以上もあるものがあり、肩の高さは四十吋もあります。格骨は頗る偉大で頭が大きく、小手位もあるものがあります。毛は長いものとあまり長くないものと二種類ありますが、何れもかなり密生してゐますので、寒氣には非常に對抗力があります。毛色は白と赤褐色の斑のものが多く、黑の交つたものもあります。

ニューファウンドランド種

此の種も前者に次ぐべき大型犬で、産地はアメリカのニューファウンドランド島であります。前者が山の人命救助犬であるに反して、これは海の人命救助犬で、海中に溺者があると泳いで行つて、口にくわえて助けるのであります。

體格はやはり前者の如く偉大で、體重は百磅以上百四五十磅、肩の高さは二十八吋以上を標準とされて居ります。毛質はやはり長毛で、毛色は黒が多く、白の斑のあるものもあります。性質は勇壯で主人の爲めにはそれこそ水火も辭せぬと云ふやうな氣慨を持つて居りますが、飼ひ方をあやまりますと、荒くなるおそれがありますから、馬の如き輕快さを持つて居ります。

グレート・デーン種

これも前者も劣らぬ大型犬で、原産地はデンマークでありますが、獨逸で改良を加えられたので、一名ヂヤーマン・ドツクの名を持つて居ります。骨格たくましく見るからに勇敢であつて、前二者は頭が大きく頸が短かくて、牛のやうな感じがしますが、これは頸が長く頭も長い方です

體重は百磅以上百二十磅位、肩の高さは二十六吋以上三十吋内外、毛質は刈り込んだやうな短毛で、毛色は灰色が多く、又白黒の斑のものや、眞黒なものや、暗灰色のものなどもあります。耳は普通折れて居りますが、一層勇敢に見せる爲めに兩側を切斷して立耳にする事がありま す。英國人はこれを嫌つてあまり斷耳をしないやうであります。

性質は非常に勇敢で、富豪などの廣い邸宅では護衞兼飾物として此の種を飼ふ事が流行し、目下かなりの高値を呼んで居ります。映畫の喜劇俳優ハロルド・ロイドの飼つてゐるグレイト・デーンは世界的に有名なもので、彼は大型犬專門のケンネルを營んでゐます。御希望の方は彼に御交渉なさるが好いと思ひます。

マスチッフ種

本種はかなり古い時代から英國にあつた最大型の犬種であります。體型はセント・バーナードに劣らぬ程大きなものがあります。これも富豪や上流の邸宅に飼はれて、贅澤な護衞の役に使はれて居ります。何しろブルドツクの先祖と云はれますので、容貌もかなり好く似てゐて一寸見た

だけで恐ろしくたるやうな勇猛さを持つて居ります。
體重は百五六十磅から二百磅、肩の高さは二十七吋から三十吋、毛質は刈り込んだやうな短毛で、毛色は全身白茶色か褐色、顔面の鼻や眼の周圍とか、耳などは暗色を呈してゐます。骨格はやはり頗る偉大であります。

（ロ）番　犬

（ブルドツク＝ブル・テリヤボストン・テリヤ＝チヤウチヤウ＝秋田犬＝土佐犬）

ブルドツク種

前に述べました通りマチチツフを先祖に持つ英國犬であります。ブルとは牡牛と云ふ意味で、昔英國では犬と牛とを鬪はせる遊戲がありまして、それにマスチツフを用ひたものであります。でマスチツフをブル・マスチツフとも申します。ブルドツクの名はそこから出てゐるのであります。

す。一寸見ると實に恐ろしい顏をしてゐますが、飼つてみると此の位可愛らしい犬はないとブル・ファンが稱する如く、實際はまことに人なつこい可憐な性質を持つてゐるのです。
體形はあまり大きいものはありませんが、中小様々ありまして、平均體量は四五十磅であります せう。毛質は短毛、毛色は虎斑のものも、暗褐色のものも、淡褐色のものも、又純白のものもあります。
此の種は體型の割にあまり澤山の運動を要しませんから、都會に飼つてもよろしく、家庭的番犬としては好適だと思ひます。あの家にはブルドツクがゐると聞いたら、大ていの泥棒も廻れ右をするでありませう。
特徴としては尾が短かく、不格好に曲りくねつてゐる事です。それから前齒の咬合が逆で、下齒が上齒の前に出て居ります。其他ブルドツクの御面相は、大概の方が御存知のことと思ひます。

ブルテリヤ種

これはブルドツクとテリヤ種との交媒によつて出來た改良種であります。體形は大型のテリヤ

で頭の大きいところなどがブルから來てゐる形でありませう。

體重は二十磅位から五十磅位まで、肩の高さは十二吋から十八吋位、毛質は短毛で、毛色は純白でなければいけません。耳は尖つた立耳を良しとします。性質はなか〳〵勇敢で、しかも主人には從順でありますから、家庭的番犬として適します。たゞ氣が強いので、飼ひ方を氣をつけませんと、咬傷事件を起し易くなります。

ボストン・テリヤ種

本種もブルドツクとテリヤ種とを交媒して、米國ボストンに於て造られた新種であります。これは小型を良しとし、體重も十七磅乃至二十五磅位であります。毛は短毛、毛色は黑のかつた虎斑と、白との斑が良いのです。

アメリカでは一時非常に流行し、今でもかなり賞用されて居ります。小型番犬としては好適の一種であります。

此の種は立耳にする爲めに、仔犬の時に斷耳をしてやらなければいけません。尾も長いものは斷らねばいけません。

チヤウチヤウ種

これは純粹の支那種であります。アメリカ人は此の犬の事をワン・マン・ドツクと云ひまして、飼主にはなか〳〵好く慣れ親しみ、まことに可愛らしいのですが、他の人にはどうも慣れにくいのです。それだけに番犬としては好適であります。

體重は三十八磅乃至四十八磅、毛質は針毛と云ふのでむく〳〵と逆立つて居ります。此等の種の犬を總稱してモンゴリヤ種と稱し、日本の秋田犬、樺太犬なども此の系統であります。針毛はモンゴリヤ地方の犬の一般特質なのであります。耳は尖つた立耳でなければいけません。なほ特徴として舌及び口中の黑い事であります。毛色は黑と褐色との二種があります。支那では此の犬を食用にする地方があると聞いてゐます。アメリカでは反對に、愛翫犬として、大もてであります。

秋田犬

これは御存知の通り、次の土佐犬と共に純日本種であります。秋田地方が原産地である事申すまでもありません。これも前のチヤウチヤウの如く、モンゴリヤ種の特色としてワン・マン・ド